

ク

2口

法政大学廿六年
特別講義録

戸籍法

島田鐵吉講

034573-000-6

ク-2口

戸籍法

島田 鉄吉/述

[M36?]

BBM-0089



法學士 島田鐵吉 講述



籍

法

法政大學發行

特別法講義



戸籍法目次

第一編 總論……………一

第一章 戸籍法……………一

第二章 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務……………九

第三章 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ行
フ機關……………一〇

第四章 抗告……………一八

第二編 身分登記……………二〇

第一章 身分登記……………二〇

第二章 身分登記簿……………二四

第三章 登記手續……………三〇

第一節 登記ヲ爲スコトヲ要スル場合……………三〇

第二節 登記前ノ手續……………四二

第三節 登記ノ手續……………四三

第四節 登記後ノ手續……………五九

第四章 身分ニ關スル届出……………七三

第一節 通知……………七三

第二節 出生ニ關スル届出……………九三

第三節 嫡出子否認ニ關スル届出……………一三八

第四節 私生子認知ニ關スル届出……………一四一

第五節 養子縁組ニ關スル届出……………一五四

第六節 養子離縁ニ關スル届出……………一六五

第七節 婚姻ニ關スル届出……………一七五

第八節 離婚ニ關スル届出……………一八二

第九節 後見ニ關スル届出……………一八七

第十節 隠居ニ關スル届出……………一九六

第十一節 失踪ニ關スル届出……………二〇二

第十二節 死亡ニ關スル届出……………二〇五

第十三節 家督相続ニ關スル届出……………二一〇

第十四節 推定家督相続人ノ廢除ニ關スル届出……………二一七

第十五節 家督相続人ノ指定ニ關スル届出……………二二二

第十六節 入籍、離籍、復籍拒絶及ヒ離籍、復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因ル一家創立ノ届出……………二二八

第十七節 廢家、絶家及ヒ絶家ニ因ル一家創立ニ關スル届出……………二四三

第十八節 分家及ヒ廢絶家再興ニ關スル届出……………二四九

第十九節 國籍ノ得喪ニ關スル届出……………二五四

第二十節 氏名及ヒ族稱ノ變更ニ關スル届出……………二六二

第二十一節 身分登記變更ニ關スル届出……………二七〇

第三編 戸籍……………二七五

第一章 戸籍……………二七五

第二章 戸籍簿……………二七七

第三章 戸籍ノ記載手續……………二七九

第四章 戸籍ニ關スル届出……………二九六

 第一節 通知……………二九六

 第二節 轉籍ニ關スル届出……………三〇一

 第三節 就籍及ヒ除籍ニ關スル届出……………三〇四

第四編 罰則……………三一三

 第一章 懲戒罰……………三一三

 第二章 行政罰……………三一五

 第三章 刑罰……………三一九

附記……………三二〇

戸籍法目次終

戸籍法

法學士 島田鐵吉 講述



第一編 總論
第一章 戸籍法

(一) 戸籍法ノ沿革 現行戸籍法ハ明治三十一年六月十五日ヲ以テ同年法律第十二號トシテ公布セラレ同月二十一日公布ノ同年勅令第二十三號ヲ以テ同年七月十六日ヨリ施行セラレタル法律ナリ蓋シ現行戸籍法施行前ニ在リテ明治四年四月四日布告戸籍法其他戸籍ニ關スル數多ノ法令アリタリト雖其規定極メテ不備ナルノミナラス民法等ノ規定ニ伴ハサルカ故ニ改正ノ必要ヲ生シ現行戸籍法ヲ制定スルニ至リタルモノナリ

明治四年四月四日布告戸籍法、明治十九年内務省令第十九號及ヒ同年内務省令第二十二號以上三法令ノ寄留ニ關スル規定ヲ除ク外、並ニ現行戸籍法ニ牴觸シ又ハ重複スル他ノ法令ハ現行戸籍法施行ノ日ヨリ廢止セラレタリ(戸籍法第二二二條第一項)

(二) 戸籍法ノ内容 戸籍法ハ身分登記ニ關スル規定ト戸籍ニ關スル規定トヨリ成ル故ニ戸籍法ハ身分登記ト戸籍トニ關スル法律ナリ

身分登記ト戸籍トノ意義ヲ説明セン、スルニ當リテハ身分ノ意義ヨリ始メサルヘカラス、因リテ予ハ先ツ身分ノ意義ヲ説明シ、然ル後チ身分登記及ヒ戸籍ノ意義ニ及ハント欲ス

第一 身分 身分ナル文字ハ我國ノ法令及ヒ慣例ニ於テ種種ナル意義ニ用キラレ、或ハ族稱(華族、士族、平民)ヲ指スコトアリ、或ハ人ノ法律上ノ地位(夫妻、父子、官吏、公吏等)ヲ指スコトアリ、此ノ如ク其意義一定セスト雖之ヲ要スルニ多年前ニ公布セラレタル法令ニ在リテハ多ク族稱ヲ意義シ、近年ノ公布ニ係ル法令ニ在リテハ多ク人ノ法律上ノ地位ヲ意義ス、民法及ヒ戸籍法ニ於ケル身分

ナル文字モ亦後チノ意義ヲ有スルモノナリ

人ノ法律上ノ地位トハ法令ノ規定又ハ慣習ニ因リ當然一定ノ公法上又ハ私法上ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フトコロノ資格ヲ云フ故ニ身分ハ一定ノ權利義務ノ集合體ニアラスシテ當然一定ノ權利義務カ附隨スル法律上ノ地位タリ

(注意) 戸主タル地位ニ在ル者ハ其地位ニ在ルコトニ因リテ家族ニ對シ當然一定ノ權利義務ヲ有シ、夫タル地位ニ在ル者ハ其地位ニ在ルコトニ因リテ妻ニ對シ當然一定ノ權利義務ヲ有ス、故ニ戸主タル地位又ハ夫タル地位ハ孰レモ一ノ身分ナリ

身分ハ人カ充スヘキ一ノ法律上ノ地位タリ、隨テ人タルコト自體ハ身分ニアラス

身分ノ得喪ハ自然ノ事實ニ因ルコトアリ(例ヘハ出生ニ因ル子タル身分ノ取得法令ノ規定ニ因ルコトアリ)(例ヘハ外國人ト婚姻ヲ爲シタル日本ノ女ハ國籍法ノ規定ニ因リテ日本人タル身分ヲ失フカ如キ是ナリ)國家ノ機關ノ行爲ニ因ルコトアリ(例ヘハ裁判上ノ離婚)私人ノ行爲ト國家ノ機關ノ行爲トニ因

ルコトアリ(例へハ私人カ爲ストコロノ婚姻ノ届出ト其届出ニ對スル戸籍吏ノ受理トニ因リテ届出人タル私人カ夫婦タル身分ヲ取得スルカ如キ是ナリ)尙ホ身分得喪ノ原因ニ付キテノ詳細ハ第二編ニ於テ各種ノ身分登記ヲ説明スルトキニ讓ル

身分ニ附隨スル權利義務ハ之ヲ身分上ノ權利義務ト謂フヲ通例トス身分上ノ權利義務ハ常ニ必ス其身分ニ伴フ故ニ身分上ノ權利義務ハ人カ其身分ヲ取得スルコトニ因リテ當然之ヲ取得シ其身分ヲ失フコトニ因リテ當然之ヲ喪失ス而シテ其權利義務ハ公法上ノモノナルコトアリ又私法上ノモノナルコトアリ例へハ戸主カ家族ノ出生ヲ届出ツル義務(戸第七一條第三項)ハ公法上ノ義務ニ屬シ夫カ妻ヲ同居セシムル權利(民法第七八九條)ハ私法上ノ權利ニ屬スルカ如キ是ナリ

財産權其他ノ或私權ハ權利者任意ニ之ヲ處分スルコトヲ得ルヲ原則トスルニ反シ身分上ノ權利ハ假令私權ナル場合ト雖任意ニ之ヲ處分スルコトヲ得サルヲ原則トス例へハ夫カ妻ヲ同居セシムル權利ハ夫之ヲ實行セサルコト

ヲ妨ケスト雖之ヲ讓渡シ又ハ拋棄スルコトヲ得サルカ如キ是ナリ此ノ如ク身分上ノ權利ノ處分ヲ禁スルハ其權利ハ其身分ヨリ分離スルコトヲ許サレサルカ故ニシテ之カ分離ヲ許ササルハ身分ハ公ノ秩序ニ關スル事項ナルカ故ナリ

第二 身分登記 身分登記トハ身分登記簿ニ於ケル身分ニ關スル法定事項出生、死亡、婚姻其他戸籍法ニ規定シタル登記スヘキ事項ノ登録ヲ謂フ

身分登記ハ身分ニ關スル事項ヲ公證スル爲メニ設ケラレタル制度ナリ身分登記ハ身分ノ得喪、變更ニ付キテノ要件ニアラス又身分ノ得喪、變更ニ付キ第三者ニ對抗スル效力ヲ生セシムル爲メノ要件ニモアラス

(注意) (イ)身分ハ各般ノ法律關係ニ重大ナル影響ヲ及ホスモノナリ故ニ國家ハ本人ノ權利ヲ確實ナラシメ且公衆ヲシテ各人ノ身分ニ關スル事項ヲ知ルコトヲ得セシムルコトハ公ノ秩序ヲ維持スルニ必要ナリト認メ身分登記ナル制度ヲ設ケタルモノナリ

(ロ)身分登記ハ届出ノ受理等ニ依リテ國家カ身分ニ關シ公認シタル事項ヲ

證明スル爲メ戸籍吏之ヲ爲ス故ニ身分登記ハ公正ノ證書タル效力ヲ有スルモノニシテ隨テ登記シタル事項ヲ爭ハント欲スル者ハ反證ヲ舉クル責任アリ

(ハ)婚姻協議上ノ離婚等ハ届出ノ受理ニ因リテ效力ヲ生スルモノニシテ身分登記ヲ埃チテ效力ヲ生スルモノニアラサルカ故ニ此種ノ事項ニ關スル身分登記ハ其届出ノ受理ニ因リテ效力ヲ生シタル事項ヲ登録スルモノタルニ止マル又出生死亡等ノ身分登記ハ既ニ發生シタル事實ヲ登録スルモノニシテ身分登記ナキトキト雖出生又ハ死亡セサリシモノト看做サルルニアラス之ヲ要スルニ身分登記ハ身分ニ關シ既ニ發生シタル事項ヲ公證スル爲メノ制度ニ過キササルナリ

之ニ反シテ不動産ニ關スル登記ハ不動産ニ關スル物權ノ得喪變更ニ付キ第三者ニ對抗スル效力ヲ生セシムル爲メニモ之ヲ爲スモノナルカ故ニ身分登記ト不動産ニ關スル登記トハ其主義ヲ異ニスルモノトス

第三 戸籍 戸籍トハ日本人カ組成シタル一戸(一家)ニ付キ其戸主及ヒ家族ノ

本籍地、家ニ於ケル關係及ヒ親族關係ヲ記載シタルモノニシテ戸籍簿ノ一部タルモノヲ謂フ

(注意) 戸籍ハ一戸毎ニ一本ヲ作ル(戸第一七五條)モノニシテ之ヲ編綴シタルモノヲ戸籍簿ト謂フ(戸第一七一條第一項)

日本人ニアラサレハ日本國土内ニ本籍ヲ定ムルコトヲ得ス而シテ戸籍ハ戸籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ之ヲ編製スルモノトス(戸第一七〇條)

戸籍ハ日本人ノ本籍地ヲ明確ニシ且ツ日本人ノ其家ニ於ケル關係及ヒ親族關係ヲ明カニスル爲メニ設ケラレタル制度ナリ

(注意) 本籍地ニ關スル身分登記ナキカ故ニ本籍地ハ身分登記以外ニ於テ之ヲ明確ニスル必要アリ

之ニ反シテ家ニ於ケル關係及ヒ親族關係ニ付キテハ身分登記アリ然レトモ身分登記ハ一戸毎ニ各別ノ用紙ニ之ヲ爲スニアラサルノミナラス其種類ニ依リテ異ナリタル登記簿ニ之ヲ記載スルヲ以テ閱覽等ノ場合ニハ不

便少ナカラス故ニ國家ハ行政其他ノ目的ヲ達シ(徴兵適齡者ヲ取調フルコト、警察上ノ目的ヲ達スルコト等)如キヲ云フ)且ツ公衆ニ便利ヲ與フル爲メ容易ニ各戸ノ戸主及ヒ家族ノ身分ヲ知ルコトヲ得ル帳簿ヲ設クルノ必要アリ

- (三) 戸籍法ノ編別 戸籍法ハ第一章戸籍吏及ヒ戸籍役場第二章身分登記簿、第三章登記手續第四章身分ニ關スル届出第五章戸籍簿第六章戸籍ノ記載手續第七章戸籍ニ關スル届出第八章抗告第九章罰則ノ九章ト附則トニ編別セラル而シテ其第一章第八章第九章及ヒ附則ハ身分登記ト戸籍トニ通スル法則ニシテ第二章乃至第四章ハ身分登記ニ、又第五章乃至第七章ハ戸籍ニ特別ナル法則ナリ
- (四) 戸籍法ノ規定ノ性質 戸籍法ハ公法ノ一種ニシテ其規定ハ届出ノ義務等ニ關スル實體法的规定ト身分登記及ヒ戸籍ニ關スル手續上ノ規定トニ之ヲ類別スルコトヲ得

ニ關スルカ故ニ戸籍法ヲ以テ民法ノ附屬法ナリトイフヲ通則トス

第二章 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務

(五) 事務ノ性質 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル各箇ノ事務ニ付キテハ第二編及ヒ第三編ニ於テ之ヲ説明スヘク本章ニ於テハ身分登記及ヒ戸籍ニ關スル總テノ事務ニ通スル性質ノ大要ヲ説明セントス

身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ハ私權ノ保護ト公ノ秩序ノ維持トヲ目的トスルモノニシテ國權行使ノ形式ノ一種タル行政ニ屬ス

行政ヲ國家ノ行政ト自治體ノ行政トニ分類スルトキハ身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ハ國家ノ行政ナリ何トナレハ此事務ヲ自治體ノ事務ト爲ストノ法規ナケレハナリ

身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ハ市町村長ノ職ニ在ル者カ戸籍吏トシテ之ヲ管掌スルヲ通則トス然レトモ市町村長ノ職ニ在ル者ハ市町村ナル自治體ノ事務トシテ之ヲ管掌スルニアラスシテ戸籍吏タル資格ニ於テ國家ノ事務トシテ

之ヲ管掌スルモノナリ

第三章 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ行フ機關

(六)事務ヲ取扱フ機關 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ハ(五)ニ説明シタル如ク國家ノ行政事務ナルカ故ニ之ヲ取扱フ機關ハ國家ノ行政機關ナリ

身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ取扱フ機關ハ之ヲ別チテ二種ト爲ス戸籍吏及ヒ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者はナリ戸籍吏ニ付キテハ(七)ニ於テ又戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ニ付キテハ(八)ニ於テ之ヲ説明スヘシ

(七)戸籍吏 戸籍吏ハ身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ管掌ス(戸第一條)ル機關ニシテ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ取扱フヘキ特別ノ場合ヲ除クハ外總テノ事務ヲ取扱フモノトス而シテ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ取扱フヘキ事務ハ戸籍吏之ヲ取扱フコトヲ得ス

戸籍吏ノ地位ヲ充ス者ハ其地位ヲ充シタル原因ニ由リ之ヲ分類シテ二種ト爲スコトヲ得

第一 戸籍法ノ規定ニ依リ當然戸籍吏タル者 市町村長(戸第二條)又市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員(戸第二一六條第一項)即チ是ナリ此等ノ者ハ戸籍法ノ規定ニ依リ當然戸籍吏ノ地位ヲ充スモノナリ

第二 司法大臣カ戸籍吏ト爲シタル者 區ヲ置キタル市ニ在リテハ區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツルコトヲ得ルハ戸籍法第二條但書ノ規定スル所ナリ而シテ司法大臣ハ此規定ニ依リ明治三十一年七月司法省令第十二號ヲ以テ東京、京都及ヒ大阪ノ三市ノ各區長ヲ其區ノ戸籍吏ト爲シタリ區長ヲ以テ戸籍吏ニ充テタル場合ニ在リテハ其市ノ市長ハ戸籍吏ニアラス

(八)戸籍吏ノ職務ヲ行フ者 戸籍吏ノ職務ヲ行フ者トハ特別ノ場合ニ限リ身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ取扱フ者ヲ云フ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ハ場合ニ依リ異ナル即チ左ノ如シ(戸第三條第二一六條)

第一 戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ノ戸籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付キテハ左ニ掲クル者之ヲ取扱フ家ヲ同シクスルトハ同居ノ義ニアラスシテ戸籍ヲ同シクスルトノ義ナリ

甲 市町村長又ハ區長カ戸籍吏ナル地ニ在リテハ市町村制ニ依リテ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキ者例ハ市町村ノ助役ノ如キ是ナリ

乙 市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲ代理スヘキ者

丙 甲及ヒ乙ニ掲ケタル者ナキ地ニ在リテハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所長カ司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ定メタル者

第二 戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前第一ニ掲ケタル者又ハ之ト家ヲ同シクスル者トノ間ノ戸籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付キテハ左ニ掲ケル者之ヲ取扱フモノトス

丁 市ニ在リテハ市參事會員ノ一人町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者

戊 市町村長ヲ置カサル地ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者

己 丁及ヒ戊ニ掲ケタル者ナキ地ニ在リテハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所長カ司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ定メタル者

以上ニ示シタル甲乙丁及ヒ戊ハ戸籍法ノ規定ニ依リテ當然戸籍吏ノ職務ヲ行フモノニシテ丙ト己トハ地方裁判所長カ豫メ定メタルニ因リテ之ヲ行フモノナリ

戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ハ右第一又ハ第二ニ掲ケタル事件以外ニ付キテハ身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ取扱フ職權ナシ

(九)事務ヲ取扱フ場所 戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍役場ニ於テ之ヲ取扱フ(戸第一條)戸籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ又市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ職務ヲ行フ役場ヲ以テ戸籍役場トス

(戸第二一六條)

戸籍吏及ヒ其職務ヲ行フ者ハ戸籍役場以外ニ於テ其事務ヲ取扱フコトヲ得ス

(二)事務ヲ取扱フ吏員ノ除斥 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ハ自己又ハ自己ト家ヲ同シクスル者ニ關スル事件ヲ取扱フコトヲ得ス蓋シ若シ之ヲ取扱フコトヲ得トスルトキハ或ハ法律ノ規定ニ違背シタル届出ヲ受理シ或ハ虚偽

ノ登記ヲ爲ス等ノ恐ナキニアラサルヲ以テ公ノ秩序ヲ維持スル爲メ之ヲ取扱フコトヲ得サラシメタルナリ

戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ヲ設ケタルハ戸籍吏ヲシテ自己又ハ自己ト家ヲ同シクスル者ニ關スル事件ヲ取扱フコトヲ得サラシムルノ趣旨ニ出テタルコトハ第三條ノ規定ニ徴シ明白ナリ

(二)事務ヲ取扱フ吏員ノ故障 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ疾病等ノ爲メ其取扱フヘキ事務ヲ處理スルコト能ハサルコトアルモ他ノ吏員ハ之ニ代リ其事務ヲ取扱フコトヲ得ス何トナレハ身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ取扱フ職權ヲ有スル國家ノ機關ハ戸籍吏ト戸籍吏ノ職務ヲ行フ者トノ唯二アルノミナレハナリ但司法省民刑局長ハ此點ニ關スル問合等ニ對シ反對ノ意見ヲ回答シ(青森區裁判所判事ノ問答ニ對スル明治三十一年七月二十六日附民刑局長回答等)又實際ニ於テモ他ノ吏員ハ戸籍吏ニ代リ其事務ヲ執リ居ルカ如シ

(三)事務ノ監督 戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ヲ監督スル官廳ハ左ノ如シ

第一 區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事ハ其裁判所ノ管轄區域内ノ戸籍吏

及ヒ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ヲ監督ス(戸第五條第一項)

(注意) 區裁判所ノ一人ノ判事トハ一ノ區裁判所ニ於ケル判事ノ數カ二人以上ナルトキ其中ノ一人ヲ指スニアラスシテ一人區裁判所ニ於ケル判事ノ數カ一人ナル場合ニ其判事ヲ指スモノトス

監督判事ニ付キテハ裁判所構成法第十一條第五項ノ規定ヲ參照スヘシ

第二 地方裁判所長ハ其裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所ノ一人ノ判事及ヒ監督判事並ニ戸籍吏及ヒ其職務ヲ行フ者ヲ監督ス(戸第五條第二項ニ依リ裁判所構成法第四編第一三五條準用)

第三 控訴院長ハ其控訴院ノ管轄區域内ノ地方裁判所長以下ヲ監督ス(同上)

第四 司法大臣ハ控訴院長以下ヲ監督ス(同上)

故ニ戸籍吏及ヒ其職務ヲ行フ者ハ司法大臣控訴院長地方裁判所長並ニ區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事ノ監督ヲ受ク

戸籍吏及ヒ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ニ對スル上級官廳ノ監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス(戸第五條第二項ニ依リ裁判所構成法第四編第一三五條準用)

第一 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付キ其注意ヲ促シ並ニ適當ニ其事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付キ之ニ諭告スル事

(三)事務ヲ取扱フ吏員ノ責任 戸籍吏又ハ其職務ヲ行フ者カ其義務ニ違背シタルニ因リ生スル責任ハ之ヲ別チテ三種トス第一行政法上ノ責任第二刑法上ノ責任第三私法上ノ責任是ナリ

第一 行政法上ノ責任 戸籍吏及ヒ其職務ヲ行フ者ハ國家ニ對シ忠實ニ其職務ヲ行フ義務ヲ負フ然ルニ若シ此義務ヲ盡ササル者アルトキハ國家ハ官紀ヲ維持スル爲メ之ニ懲戒罰ヲ科ス戸籍法第二百十二條及ヒ第二百十三條ニ規定シタル過料即チ是ナリ

第二 刑法上ノ責任 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ其職務ニ關シ公ノ秩序ヲ亂ス行爲ヲ爲シタルトキハ刑法ノ規定ニ依リ刑罰ニ處セラル

第三 私法上ノ責任 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ他人ニ損害ヲ加ヘ

ニタル場合ハ之ヲ左ノ三種ニ分類スルコトヲ得

甲 損害ノ原因カ職權ノ範圍ヲ超テタル行爲ナルトキハ此場合ニ在リテハ其行爲ハ國家ノ機關ノ行爲ニアラスシテ私人ノ行爲ナリ故ニ民法ノ不法行爲ニ關スル規定ニ從ヒ損害ヲ賠償セサルベカラス

乙 損害ノ原因カ職權ノ範圍ヲ超テサル行爲ナルトキハ此場合ニ在リテハ其行爲ハ私人ノ行爲ニアラスシテ國家ノ機關ノ行爲ナリ故ニ特別ノ規定ナキ限りハ損害ヲ賠償スベキ責任ナキモノトス

特別ノ規定アルニ依リ賠償ノ責任アル場合ハ其損害カ戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタルトキ即チ是ナリ(戸第六條)

以上三種ノ責任ハ各異ナリタル法律關係ニ基ク故ニ戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ハ同一ノ行爲ニ因リ私法上ノ責任ト刑法上ノ責任又ハ行政法上ノ責任ト併セ負フコトナキニアラス

第四章 抗告

(四) 總論 戸籍吏(以下戸籍吏ト謂フ)ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ヲ包含ス(カ)身分登記又ハ戸籍ニ關スル事件ニ付キ爲シタル處分ヲ不當トスル者ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得(戸籍第二〇三條)蓋シ抗告ハ戸籍吏ノ不當ナル處分ニ對シ救濟ヲ求ムル方法ニシテ其處分ヲ受ケタル者ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(五) 抗告ニ關スル手續 抗告ハ左ノ方式ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス(戸籍第二〇四條)

第一 抗告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス、其書面ヲ抗告狀ト曰フ

第二 抗告狀ニハ關係書類ヲ添附スルコトヲ要ス、關係書類トハ例ヘハ抗告カ身分登記又ハ戸籍ニ關スル届出又ハ申請ヲ却下シタル處分ニ對スル場合ナルトキハ其却下セラレタル届書又ハ申請書ノ如キモノヲ云フ

第三 抗告ハ管轄區裁判所ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

抗告ヲ受ケタル區裁判所ハ抗告狀及ヒ附屬書類ヲ抗告ヲ申立テラレタル處分ヲ爲シタル戸籍吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス(戸籍第二〇五條)

戸籍吏カ前項ノ書類ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告ヲ爲シタル者ニ通知スルコトヲ要シ抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ其意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル書類ヲ五日內ニ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス(戸籍第二〇六條)

區裁判所カ戸籍吏ヨリ抗告書類ノ返還ヲ受ケタルトキハ抗告ノ當否ヲ審査スルコトヲ要ス而シテ抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ之ヲ却下シ其理由アリト認ムルトキハ戸籍吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス裁判所ハ戸籍吏ニ裁判所カ相當ト認ムル處分ヲ爲スヘキコトヲ命スルヲ得ルニ止マリ自ラ戸籍吏ノ處分ヲ變更シ又ハ新ナル處分ヲ爲スコトヲ得ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ職權ヲ以テ戸籍吏及ヒ抗告ヲ爲シタル者ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス(以上戸籍第二〇七條) 區裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキ

ニ限リ其區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得而シテ其抗告ノ手續ハ民事訴訟法ノ抗告ノ規定ニ從フヘキモノトス(戸第三〇八條)
 地方裁判所ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ズ
 抗告ノ費用ニ付キテハ非訟事件手續法第二十六條乃至第三十二條ノ規定ヲ準用ス(戸第三〇九條)

第二編 身分登記

第一章 身分登記

(六)總論 身分登記ハ(二)ノ第三ニ説明シタル如ク身分登記簿ニ於ケル身分ニ關スル法定事項即チ戸籍法ニ規定シタル登記スヘキ事項ノ登錄ナリ

(注意) (イ)身分登記簿ハ戸籍法第七條乃至第十條ノ規定ニ從ヒ作製シタル帳簿ニシテ戸籍吏之ヲ管掌ス此帳簿ニ登記スルニアラザレバ身分登記ノ效力ナシ但戸籍法第二百十九條ノ規定ニ依リ從來ノ登記目錄ニ爲シタル登記ハ此限ニ在ラス

(ロ)戸籍法ニ規定シタル登記スヘキ事項以外ノ事項ハ假令之ヲ身分登記簿ニ記載スルモ身分登記ニアラス

身分登記ハ日本人及ヒ日本ノ領域内ニ在ル外國人ニ付キ之ヲ爲スモノトス但日本人ト雖皇族ニ付キテハ此限ニ在ラス

(七)登記スヘキ事項 身分登記ハ左ノ法定事項ニ限リ之ヲ爲スモノトス

- 第一 出生 嫡出子、庶子、私生子ノ出生及ヒ棄兒ノ發見是ナリ(戸第四章第二節)
- 第二 嫡出子ノ否認(戸第四章第三節)
- 第三 私生子ノ認知(戸第四章第四節)
- 第四 養子縁組(戸第四章第五節)
- 第五 養子離縁(戸第四章第六節)
- 第六 婚姻(戸第四章第七節)
- 第七 離婚(戸第四章第八節)
- 第八 後見 後見ノ開始、後見人ノ更迭又ハ後見人ノ任務ノ終了是ナリ(戸第四章第九節)

- 第九 隱居(戸第四章第十節)
- 第十 失踪(戸第四章第十一節)
- 第十一 死亡(戸第四章第十二節)
- 第十二 家督相續(戸第四章第十三節)
- 第十三 推定家督相續人ノ廢除(戸第四章第十四節)
- 第十四 家督相續人ノ指定(戸第四章第十五節)
- 第十五 入籍、離籍及ヒ復籍拒絶(戸第四章第十六節)
- 第十六 廢家及ヒ絶家(戸第四章第十七節)
- 第十七 分家、廢絶家再興(戸第四章第十八節)
- 第十八 日本ノ國籍ノ取得及ヒ其喪失(戸第四章第十九節)
- 第十九 氏名及ヒ族稱ノ變更(戸第四章第二十節)
- 第二十 身分登記ノ取消、身分登記ノ登記原因ノ無效(戸第九一條、第九二條、第一〇五條等)及ヒ其取消(戸第九二條、第一〇六條、第一二二條、第一二四條等)又ハ其他ノ事由(戸第七三條、第七六條等)ニ因ル原登記ノ取消ヲ謂フ

第二十一 身分登記ノ變更(戸第四章第二十一節)

尙以上ノ事項ニ付キテハ第三章及ヒ第四章ニ於テ詳細ノ説明ヲ爲スヘシ

(六) 身分登記ト戸籍トノ關係 戸籍吏カ身分登記ヲ爲シタルトキハ戸籍法第百七十九條以下ノ規定ニ從ヒテ戸籍ヲ記載ヲ爲スヨトヲ要ス(戸第一七八條)抑モ身分登記ヲ爲シタル事項ヲ更ニ戸籍ニ記載スルハ既ニ(二)ノ第三ニ説明シタルカ如ク身分登記簿ニ閱覽等ニ不便ナルカ爲メニ外ナラス故ニ身分登記ト戸籍ノ記載トハ何レモ身分ニ關スル事項ヲ公證スルモノタリト雖身分登記ハ本ニシテ戸籍ノ記載ニ未ダ隨テ若シ同一事項ニ關スル身分登記ト戸籍ノ記載トカ相抵觸スルトキハ身分登記ニ依ラサルハ其ノ關係ニ關シテ左ニ登記目録(元)戸籍法實施前ニ爲シタル登記目録及ヒ戸籍ニ於ケル登記目録左ニ登記目録ト戸籍ニ別チテ之ヲ説明スルニシヨ

第一 登記目録ニ於ケル登記目録戸籍法實施前ニ在リテハ登記目録ナルモノアリテ身分ニ關スル屆書ヲ受理シタルトキハ先ツ之ヲ登記目録ニ記入シ然ル後之ヲ戸籍ニ登記シタリ(明治十九年十月內務省令第二十三號)戸籍取扱手續

参照而シテ登記目録ト戸籍トハ何レモ身分ヲ關スル事項ヲ公證スルモノニシテ兩者ノ關係ハ戸籍法實施後ニ於ケル身分登記ト戸籍トノ關係ト相同シカリシカ故ニ戸籍法實施前ニ於テ登記目録ヲ爲シタル記入ハ戸籍法實施後ト雖モ身分登記ト同一ノ効力ヲ有ス

第二 戸籍ニ於ケル登記ハ戸籍法實施前ニ在リテハ登記目録ナルモノアリタルコトハ前ニ述ベタル如ク然レトモ登記目録ノ制度ハ地方ニ依リテハ或ハ之ヲ實行セザリキ而シテ此ノ如キ地方ニ在リテハ戸籍ハ戸籍タルト同時ニ登記目録ニ代用セラレシカ故ニ其地方ニ於テ戸籍法實施前ニ爲シタル戸籍ノ登記ハ戸籍法實施後ト雖モ身分登記ノ効力ヲ有ス

登記目録ノ設ケアルタル地方ニ在リテハ戸籍法實施前ニ爲シタル戸籍ノ登記ト雖モ戸籍法實施後ニ於ケル戸籍ノ記載ト同一ノ効力ヲ有スルニ過キス

第二章 身分登記簿

(三) 總論 身分登記簿ハ戸籍吏カ身分登記ヲ爲ス帳簿ニシテ身分登記簿ノ制

度ハ戸籍法實施前ニ於ケル登記自録ノ制度ヲ改正シタルモノナリ

(三) 身分登記簿ノ種類及ヒ區別 (一) 身分登記簿ニハ本籍入身分登記簿及ヒ非本籍入身分登記簿ノ二種アリ(戸第七條)

第一 本籍入身分登記簿 (一) 其登記簿ヲ管掌スル戸籍吏ハ管轄區域内ニ本籍

ヲ有スル者ノ身分ニ關係スル事項ニ付キ登記ヲ爲シ(戸第一九條)又(六)被登記

者ノ本籍カ其登記スヘキ事項ニ因リ其戸籍吏ハ管轄ニ歸シ又公其管轄ヲ離

ルル場合ニ於テ登記ヲ爲ス(戸第二〇條)帳簿ナリ

第二 非本籍入身分登記簿 (一) 戸籍吏ハ管轄区域内ニ本籍ヲ有セサル者ノ身分ニ關スル事項ニ付キ登記ヲ爲ス帳簿ナリ(戸第二九條)

本籍入身分登記簿及ヒ非本籍入身分登記簿ハ各正副二本ヲ備フ(戸第七條)正本ハ身分登記簿ノ原簿ナリ(正本)ノ何レ副本ヲ備ヘシムルハ天災地變等ニ因リテ正本カ滅失又ハ毀損スル等ナルハ其ヲ應リ以テ其管轄ノ官署ニ申請シ以テ之ヲ正本ト副本トニハ同一事項ヲ登記スヘキモノトス而シテ若シ同一事項ニ關スル副本ニ於ケル登記ト副本ニ於ケル登記トカ相抵觸スルトキハ原簿タル正本

ニ於ケル登記ハ副本ニ於ケル登記ニ勝リ公證ノ效力ヲ有ス
本籍人身分登記簿ノ正本及ヒ副本並ニ非本籍人身分登記簿ノ正本及ヒ副本ハ
戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト
爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得(戸第七條)

(注意) 登記取消ノ登記ト登記變更ノ登記トハ原登記ノ欄外ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス(戸第二四條第二五條)故ニ此二種ノ登記ニ付キテハ別冊ノ身分登記簿
ヲ備フヘキモノニアラス戸籍法第七條第二項ニ第二節乃至第二十一節トア
ルハ第二節乃至第二十節ノ誤ナリ

(三) 身分登記簿ノ編製 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製ス(戸第八條)其用紙ニ
付キテハ明治三十一年七月司法省訓令第五號ヲ参照スヘシ
戸籍吏ハ豫メ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ヲ作り監督官區裁判所ノ一人
ノ判事又ハ監督判事ノ契印ヲ請フコトヲ要シ監督官カ右帳簿ノ送付ヲ受ケタ
ルトキハ職印ヲ以テ毎葉ノ綴目ニ契印シ表紙ノ裏面ニ其枚數ヲ記入シ職氏名
ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ戸籍吏ニ還付スルコトヲ要ス(戸第九條第五條第一

項

身分登記簿ノ用紙カ不足ナルトキハ戸籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作りテ監督官ノ契印
ヲ請フコトヲ要シ(戸第一〇條)

監督官カ右帳簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ前項ニ述ヘタル手續ト同様ノ手續ヲ
爲シ之ヲ戸籍吏ニ還付スルコトヲ要ス

(三) 身分登記簿ノ保存 身分登記簿ノ正本ハ永久ニ之ヲ戸籍役場ニ保存ス(戸
第一一條)

登記ヲ完結シタル身分登記簿ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル
地方裁判所ニ納付シ地方裁判所ハ其送付ヲ受ケタルトキハ永久ニ之ヲ保存ス
(戸第一一條)

(注意) 登記ヲ完結シタル副本トハ戸籍法第四十一條ノ手續ヲ終ヘタル副本
ヲ謂フ

正本ト副本トヲ異ナリタル場所ニ於テ保存スルハ天災等ニ因リ毀損又ハ滅
失スル危険ヲ少ナカラシメシカ爲メナリ

尙正本及ヒ副本保存ノ方法ニ關シテハ明治三十一年七月司法省訓令第五號アリ

二(四) 身分登記簿ヲ持出スコト 身分登記簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外之ヲ戸籍役場外ニ持出スコトヲ得ス但登記ヲ終結シタル即チ戸籍法第四十一條ノ手續ヲ終ヘタル登記簿ニ付キ裁判所又ハ豫審判事ノ命令アリタルトキハ此限ニ在ラス(戸第一二條)

三(五) 身分登記簿ノ閱覽又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ身分登記簿ノ閱覽又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ヲ請求スルコトヲ得(戸第一三條)而シテ其手数料ニ付キテハ第二百十七條ノ規定ニ依リ司法大臣ハ明治三十一年司法省令第十三號ヲ以テ閱覽ハ一回毎ニ金十錢又謄本若クハ抄本ノ交付ハ原本一枚毎ニ金十錢ト定メタリ

(注意) 登記ノ謄本トハ登記ノ寫ヲ謂ヒ登記ノ抄本トハ登記ノ抜書ヲ謂フ

官吏又ハ公吏又ハ職務上閱覽又ハ交付ノ請求ヲ爲ストキハ手数料ヲ要セス(戸第一三條)納付シタル手数料ハ之ヲ市町村ノ收入トス但國庫ヨリ戸籍役場ノ經費ヲ支

辨スル地ニ在リテハ之ヲ國庫ノ收入トス(戸第二一七條)

閱覽ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏ハ職務ニ差支ナキ限りハ之ヲ許ササルヘカラス

謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ送付スルコトヲ要ス(戸第一三條)

戸籍吏カ閱覽又ハ交付ノ請求ヲ許ササル場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス(戸第一三條)戸籍吏カ閱覽又ハ交付ノ請求ヲ許ササルコトヲ得ルハ手数料又ハ郵送料ノ納付ヲキトキ等正當ナル理由アル場合ニ限ルトキハ抗告ヲ爲ストキトテ得(抗告ニ付キテハ(四)及ヒ(五)参照)

閱覽又ハ交付ノ請求ヲ許ササル旨ヲ告知シ費用ハ其請求者爲シタル者ナリ之ヲ徵收スルコトヲ得

(三) 身分登記簿ノ再製及ヒ補完 身分登記簿ノ正本若クハ副本ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ司法大臣ハ其旨ヲ告示シ且全部カ滅失シタル場合ニ於テハ其再製ニ付キ又其一部カ滅失シタル場合ニ於テハ滅失シタル部分ノ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ要ス(第一四條)

(三) 身分登記簿ニ代用スルコトヲ得ヘカリシ帳簿 戸籍法施行ノ日ヨリ明治三十一年十二月三十一日ニ至ルマテハ従前登記目録トシテ備ヘタル帳簿ニ限リ之ヲ以テ身分登記簿ニ代用スルコトヲ得タリ(戸第二一九條)然レトモ明治三十二年以後ニ在リテハ他ノ帳簿ヲ以テ身分登記簿ニ代用スルコトヲ得ス

第三章 登記手續

第一節 登記ヲ爲スコトヲ要スル場合

(六) 登記ヲ爲スコトヲ要スル場合 身分登記ハ左ノ場合ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一 戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第一號) 身分ニ

關スル届出トハ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ規定シタル事項ニ付キテノ届出又ハ本籍分明ナラサル者ニ付キ登記ヲ爲シタル場合ニ於ケル其者ノ本籍カ分明ト爲リタルコトノ届出(戸第二六條)ヲ謂フ蓋シ届出トハ登記ヲ爲スコトヲ私人ヨリ戸籍吏ニ請求スル行爲ナリ届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ通則トスレトモ正當ノ事由アルトキニ限リテ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ許ス(戸第四三條)

第二 戸籍吏カ身分ニ關スル届書ノ送付ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第一號)

(甲) 外務大臣ヨリ身分ニ關スル届書ノ送付ヲ受ケタルトキ 外國ニ在ル日本人ハ戸籍法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ身分ニ關スル届出ヲ爲スコトヲ得(戸第五九條)公使又ハ領事ハ其受取タル届書ヲ三箇月内ニ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス(戸第六一條)

(乙) 他ノ戸籍吏ヨリ身分ニ關スル届書ノ送付ヲ受ケタルトキ 他ノ戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケタル場合ニ於テ其戸籍吏ヨリ届書ヲ送付ヲ

受ケタルトキ(戸第三三三條乃至第三三五條参照)及至他ノ戸籍吏カ外務大臣ヨリ身分ニ關スル届書ヲ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ其戸籍吏ヨリ更ニ届書ヲ送付ヲ受ケタルトキ(戸第三三六條第二項参照)同條第一項ニ届出トアルハ戸籍吏カ届出ヲ受ケタル場合ノミヲ指スモノニシテ外國ニ在ル公使又ハ領事カ届出ヲ受ケタル場合ヲ包含セス是レハ前項ニ於テハ

茲ニ身分ニ關スル届書ト謂フハ書面ヲ以テ届出ヲ爲シタル場合ニ在リテハ其書面ヲ指シ口頭ヲ以テ届出ヲ爲シタル場合ニ在リテハ戸籍法第五十四條及ヒ第五十五條ノ規定ニ從ヒ戸籍吏若クハ外國ニ在ル公使又ハ領事カ作りタル書面ヲ指ス

(注意) 戸籍法ニ在リテハ「届書」ナル文字ハ廣狹ニ様ノ意義ニ用キラル即チ狹義ノ「届書」ハ書面ヲ以テ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其書面ノミヲ指シ廣義ノ「届書」ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ戸籍吏若クハ公使又ハ領事カ作りタル書面ヲモ包含ス而シテハ戸籍法第三章ニ在リテハ「届書」ナル文字ハ廣義ニ於テ用キラル

第三 戸籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第二號) 戸籍法第二百二十九條、第三百一一條、第三百三十二條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ監獄ノ長其他ノ官廳又ハ公署ヨリ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ是ナリ

第四 戸籍吏カ身分ニ關スル報告ノ送付ヲ受ケタルトキ 戸籍吏カ他ノ戸籍吏ヨリ前第三ノ報告ノ送付ヲ受ケタルトキヲ謂フ

戸籍法ニハ戸籍吏カ前第三ニ掲ケタル報告ヲ受ケタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ其戸籍吏ノ管轄ニ屬セザルトキハ其報告ヲ本籍地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ストノ規定ナク又戸籍吏カ他ノ戸籍吏ヨリ報告ノ送付ヲ受ケタルトキハ身分登記ヲ爲スハシトノ規定モナシ然レトモ第二百二十九條ニハ「死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長(中略)監獄所在地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要スト」ノ規定アリテ死亡者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ其報告ヲ爲スヘキ旨ノ規定ナク(故ニ監獄所在地ト本籍地トカ異ナルトキハ本籍地ノ戸籍吏ハ監獄ノ長ヨリ死亡ノ報告ヲ受クルコトナシ然ルニ監獄所在地ノ戸籍吏ヨリ報告ノ送付ヲ爲ササルニ於テハ本籍地ノ戸籍吏ハ死亡ノ身分登記ヲ

- 爲スニ由ナシ 第三百三十二條ニ依ル報告ニ付キテモ亦同シ)又同法第三十六條第二項末段ニハ届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキ亦同シ)トノ規定アル届出以外ノ事由トハ報告ヲ包含ス然ルニ報告ニ因リ登記ヲ爲シタルトキ其報告ヲ本籍地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要セサルニ於テハ報告ノ謄本ヲ作ル必要ナシ)ヨリ推究スルトキハ戸籍吏カ前第三ニ掲ケタル報告ヲ受ケタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ其戸籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキハ登記ヲ爲シタル後第三十六條第二項ニ依リ其報告ノ謄本ヲ作リテ之ヲ其戸籍役場ニ留メ置キ報告ノ原本ハ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ送付シ本籍地ノ戸籍吏ハ之ニ依リテ身分登記ヲ爲スヘキモノト解スルヲ正當ナリトス此事ニ付キテハ尙後ニ説明スヘシ
- 第五 戸籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第三號)日本人カ外國ニ於テ作ラシメタル身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ戸籍法第六十條第二項ノ規定ニ依リ本人ヨリ本籍地ノ戸籍吏ニ差出シタル場合はナリ
- 第六 戸籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第

三號)

- (甲) 外務大臣ヨリ身分ニ關スル證書ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ 前第五ニ掲ケタル證書ノ謄本ヲ戸籍法第六十一條ノ規定ニ依リ外務大臣ヨリ本籍地ノ戸籍吏ニ送付シタルトキヲ謂フ

- (乙) 他ノ戸籍吏ヨリ身分ニ關スル證書ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ(戸第三六條第一項參照)

第七 戸籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第四號)

- (甲) 艦長、船長若クハ外務大臣ヨリ出生又ハ死亡ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ(戸第七八條第一三〇條參照)

- (乙) 他ノ戸籍吏ヨリ出生又ハ死亡ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ 戸籍吏カ艦長又ハ船長ヨリ(甲)ニ掲ケタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ其戸籍吏ノ管

籍ニ屬セサルトキハ登記ヲ爲シタル後之ヲ本籍地ノ戸籍吏ニ送付スヘク本籍地ノ戸籍吏ハ之ニ依リテ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第七八條第二項第一三〇條第二項第三六條第二項末段及ヒ前第四ノ説明参照)

戸籍吏ハ外務大臣ヨリ送付ヲ受ケタル航海日誌ノ謄本ヲ更ニ他ノ戸籍吏ニ送付スヘキ場合ナシ

出生又ハ死亡ノ登記ノ外航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受クルニ因リ身分登記ヲ爲ス場合ナシ

第八 戸籍吏カ登記ノ取消ノ請求又ハ申請ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第五號)

登記ノ取消トハ登記ヲ抹消スルヲ謂ヒ請求トハ檢事ヨリ取消ヲ求ムルヲ謂ヒ(戸第一〇六六條第二項)申請トハ私人ヨリ之ヲ求ムルヲ謂フ

登記ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ取消スコトヲ得ス(戸第一七條)蓋シ濫ニ登記ヲ取消スコトヲ許ササルナリ法律ニ特別ノ規定アル場合ハ之ヲ左ノ二種ニ區別スルコトヲ得

(甲) 登記原因ノ無効又ハ取消ニ因ル登記ノ取消 婚姻ヲ無効トスル判決又

ハ婚姻ヲ取消ス判決カ確定シタルニ因リ婚姻ノ登記ヲ取消ス場合(戸第一〇六條)ノ如キ是ナリ其他戸籍法第九十一條第九十二條第百五條第百二十二條第百二十四條第百三十四條第百三十九條第百四十四條及ヒ第百四十五條等ヲ参照スヘシ

(乙) 未定又ハ知レサル事項ニ付キ爲シタル登記ヲ其事項カ確定シ又ハ明カナルニ至リタルニ因リ取消ストキ 例ヘハ父未定ノ子ノ出生ノ登記アリタル後父カ確定シタルニ因リ其登記ノ取消ヲ申請スル場合(戸第七三條)又ハ棄兒即チ父母カ知レサル子ノ發見ノ登記ヲ爲シタル後棄兒ノ父又ハ母カ現出シ其兒ヲ引取りタルニ因リ其登記ノ取消ヲ申請スル場合(戸第七六條)ノ如キ是ナリ

第九 戸籍吏カ登記ノ變更ノ申請ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第五號) 前第八ニ於ケルト異ナリ檢事ヨリ登記ノ變更ノ請求ヲ受クルコトナシ 登記ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ノ外之ヲ變更スルコトヲ得ス(戸第一七條) 法律ニ別段ノ規定アル場合ハ左ノ三種ニ之ヲ區別スルコトヲ得

(甲) 登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキ之ヲ訂正シ又ハ増減スル爲メニスル變更ノ申請 例へハ出生ノ身分登記ニ子ノ生年月日ニ付キ誤認アルトキ又ハ男女ノ別ノ記載ナキトキ其生年月日ヲ訂正シ男女ノ別ヲ追加スルカ爲メニスル變更ノ申請ノ如キ是ナリ(戸第一六七條乃至第一六九條)

(乙) 登記ノ抹消ノ申請ニシテ前第八ニ掲ケタル取消ノ申請ニアラサルモノ例へハ届出義務者ニアラサル者ノ届出ニ因リテ爲シタル登記又ハ生存中ノ人ニ付キ爲シタル死亡ノ登記ノ抹消ノ申請ノ如キ是ナリ 戸籍法ハ此種ノ抹消ノ申請ヲ許スヤ否ヤハ一ノ疑問ナリ抑モ此種ノ抹消ノ申請ハ或身分登記ノ全部ヲ抹消スルコトヲ求ムルモノナルヲ以テ前第七ノ取消ノ申請ト酷ク相似タリ然レトモ取消ノ申請ハ法律ニ特別ノ規定アルニアラサレハ之ヲ許ササルハ既ニ前第七ニ於テ説明シタル如クニシテ戸籍法第七十三條第九十一條等法律ニ特別ノ規定アル場合ハ何レモ他ノ特別ナル場合ニ關スルノミナラス取消ノ申請ニ關スル概活的ノ規定ナ

キカ故ニ取消ノ申請ノ方法ニ依リ此種ノ抹消ノ申請ヲ爲スコトヲ得スト 謂ハサルヘカラス次ニ變更ナル文字ハ通例現ニ存在スル或モノヲ訂正シ、増補シ又ハ其一部ヲ消除スルコトヲ意味スル文字ニシテ現ニ存在スル或モノノ全部ヲ滅失セシムル場合ニ用キラルルコトナシ隨テ此通例ノ意義ニ依ルトキハ(甲)又ハ(丙)ニ掲クル如キ場合ニ在リテハ變更ノ申請ヲ爲スヲ得レトモ全部ヲ抹消スル爲メニハ變更ノ申請ヲ爲スコトヲ得サルカ如シ果シテ然リトスレハ此種ノ抹消ノ申請ハ取消ノ申請ノ方法ニ依リテモ將タ變更ノ申請ノ方法ニ依リテモ之ヲ申請スルコトヲ得スト謂ハサルヘカラス然レトモ或登記ノ一部ニ錯誤アル場合ニ於テハ變更ノ申請ニ因リ其部分ヲ抹消スルコトヲ申請スルヲ許スニ反シ全部ニ錯誤アル場合ニ於テハ其全部ノ抹消ヲ申請スルコトヲ許サスト云フハ甚タ謂レナク且届出義務者ニアラサル者ノ申請ニ因リテ爲シタル登記又ハ生存中ノ人ニ付キ爲シタル死亡ノ登記ノ如キハ届出ノ手續カ本法ノ規定ニ違背シ又ハ登記カ事實ト一致セサル爲メ當然登記ノ效力ナキニ拘ラス之ヲ抹消スルニ由ナ

ク隨テ其登記ヲ存在セシメサルヘカラストスレハ國家又ハ一般世人ハ其登記ヲ適法ニシテ且ツ有效ナリト誤信スルコトアルヘク爲メニ身分登記ナル制度ヲ設ケタル立法上ノ主義ヲ貫徹スルコト能ハサルニ至ルヘシ予惟フニ法律ニ用キタル文字ハ常ニ通例ノ意義ニ於テ用キラレタリト爲スハ解釋方法ノ當ヲ得サルモノナリ蓋シ其法律ノ或規定又ハ其法律ノ全規定等ヨリ推究スルトキハ其法律中ノ或文字ハ通例ノ意義ニ於ケルヨリモ廣ク若クハ狭ク用キラレタルコトヲ知ルヲ得ル場合アレハナリ今本問題ニ付キ考フルニ(乙)ニ掲ケタル場合ニ於テ登記ノ抹消ヲ許サストスレハ公益ニ反スルコトハ前段ニ説明シタルカ如ク又登記ノ一部ニ錯誤アル場合ニ其全部ヲ抹消スルコトヲ許サスト爲スハ甚タ其謂レナキコトモ亦前段ニ説明シタルカ如シ故ニ予ハ戸籍法ニ於テ登記ノ變更ト謂フハ通例ノ意義ニ於ケルヨリモ廣ク用キラレ甲及ヒ丙ニ掲ケタル場合ハ勿論前第八ニ掲ケタル登記ノ取消ノ申請ヲ除キタル以外ノ全部ノ抹消ヲ求ムル申請即チ

(乙)ニ掲ケタル申請ヲモ包含スト解スルヲ穩當ナリト信シ(乙)ニ掲ケタル申請ニ付キテハ(甲)ニ掲ケタル申請ト同シク戸籍法第六十七條乃至第六十九條ノ規定ヲ適用スヘキモノナリト信ス

(丙) 其他ノ變更ノ申請 (戸第七九條參照)

第十 戸籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ(戸第一六條第六號)

戸籍吏カ届出等ヲ受理セサリシ爲メ其處分ニ對シ戸籍法第二百三條ノ規定ニ依リテ抗告ヲ爲シタル者アル場合ニ裁判所カ其抗告ヲ理由アリト認メ同法第二百七條第一項ノ規定ニ依リ戸籍吏ニ登記ヲ爲スヘキコトヲ命シタルトキヲ謂フ(抗告ニ付キテハ(四)及ヒ(五)參照)

第十一 戸籍吏カ登記ヲ爲スコトニ付キ裁判所ノ許可ヲ得タルトキ 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲サリシトキハ戸籍吏ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第二七條)

右ノ場合ノ外裁判所ノ許可ヲ得テ身分登記ヲ爲スヘキ場合ナシ

裁判所ノ許可トハ裁判所カ身分登記ヲ爲スヘキコトヲ戸籍吏ニ命スルニアラス故ニ第十一ニ在リテハ前第十ト異ナリ裁判所ノ命ニ因リ登記ヲ爲スニアラスシテ法律ノ規定ニ依リテ戸籍吏カ自ラ進ミテ登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其前提要件トシテ裁判所ノ許可ヲ受クルニ過キス

以上第一乃至第十一ニ掲ケタル場合ト雖モ届出送付其他ノ手續カ戸籍法ノ規定ニ依リタルモノニアラサレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス(戸第一六條)
戸籍法ニ規定シタル届出送付其他ノ手續ニ付キテハ本章第四節及ヒ第四章ニ於テ之ヲ説明スヘシ

第二節 登記前ノ手續

(完)登記前ノ手續 第一節ニ掲ケタル第一乃至第十ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ届出報告等カ戸籍法ノ規定ニ依リタルモノナルヤ否ヤヲ審査シ若シ戸籍法ノ規定ニ反スルモノナルトキハ之ヲ受理スヘカラス(戸第一六條)

届出報告等カ戸籍法ノ規定ニ依リタルモノナルトキハ之ヲ受理シ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ遲滯ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一八條)

次ニ第一節ニ掲ケタル第十一ノ場合ニ在リテハ先ツ裁判所ノ許可ヲ求メ其許可アリタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ遲滯ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一八條)

第三節 登記ノ手續

(三)登記ヲ爲スヘキ登記簿 身分登記簿ハ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種ト爲シ各種ノ登記簿ハ各正副二本ヲ備ヘ又各種ノ登記簿ハ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト爲シ若クハ之ヲ合綴スルコトハ(三)ニ於テ之ヲ説明シタリ而シテ戸籍吏カ登記ヲ爲スニ方リテハ左ノ區別ニ從ヒ相當登記簿ノ正本及ヒ副本ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一 從來其戸籍吏ノ管轄區域内ニ本籍ヲ有スル者ニ關スル場合(例ヘハ本籍

人ノ死亡ノ登記(被登記者ノ本籍カ届出カ届出其他ノ事由ニ因リ戸籍吏ノ管轄ニ歸シタル場合)例へハ其戸籍吏ノ管轄區域外ニ本籍ヲ有シタル者カ管轄區域内ニ本籍ヲ有シタル死亡者ノ家督相續ヲ爲シタルコトノ登記又ハ被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ因リ戸籍吏ノ管轄ヲ離ルル場合(例へハ從來其戸籍吏ノ管轄區域内ニ本籍ヲ有スル者カ管轄區域外ニ本籍ヲ有スル者ノ家へ入籍シタルコトノ登記)ニ於テハ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一九條第二〇條第一項)

非本籍人ニ關スル場合(例へハ非本籍人間ノ婚姻又ハ養子縁組ノ登記)ハ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一九條)被登記者ノ本籍カ分明ナラサルトキ(例へハ何人ナルカラ認讀スルコト能ハサル者ノ死亡ノ登記)亦同シ(戸第二一條)

一箇ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキ(例へハ戸籍吏ノ管轄區域内ニ本籍ヲ有スル女カ管轄區域外ニ本籍ヲ有スル男ト婚姻シタルトキノ如シ)ハ同時ニ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ其登記ヲ爲シ各

登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス(戸第二〇條第二項)

第二 戸籍法第四章第二節乃至第二十一節ニ規定シタル届出事件ノ區別ニ從

ヒ相當登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一九條)

登記ヲ爲スヘキ事項カ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ二箇以上ニ涉ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第二三條)例へハ日本ノ國籍ヲ有セサル女ト日本ノ國籍ヲ有スル男トカ婚姻ヲ爲シタルコトノ届出アリタル場合ニ於テ婚姻ノ登記ト國籍取得ノ登記トヲ爲スカ如キ是ナリ(戸第一五七條)之ヲ要スルニ一箇ノ届出又ハ届書ノ送付等ニ因リテ二箇ノ登記ヲ爲スヘキ場合ナリトス

(三) 登記簿ニ於ケル登記ヲ爲スヘキ場所 身分登記簿ノ用紙ハ(明治三十一年七月十三日司法省訓令戸籍法取扱手續第五號第一條參照)然ルニ登記ニハ其種類ニ依リ登記簿ノ用紙ノ野内ニ之ヲ記載スヘキモノト野外ニ之ヲ記載スヘキモノトノ別アリ戸籍法ニテハ登記簿ノ用紙ノ野外ヲ欄外トイヒ(戸第二六條等)野内ニ付キテハ特別ノ名稱ヲ用キス然レトモ予ハ戸籍法

戸籍法 身分登記 登記手帳 登記ノ手續

カ野外ヲ欄外ト稱スルニ對シ便宜ノ爲メ野内ヲ欄内ト名ク

第一 欄内ニ爲スヘキ登記 後ノ第二ニ掲ケタル各種ノ登記ヲ除キタル以外ノ總テノ登記ハ前(三)ニ掲ケタル區別ニ從ヒ當該登記簿ノ用紙ノ欄内ニ之ヲ登記スヘキモノトス

第二 欄外ニ爲スヘキ登記 登記簿ノ用紙ノ欄外ニ爲スヘキ登記ハ左ニ掲ケル三種ニ限ル

- (甲) 登記取消ノ登記(戸第二四條) 如何ナル場合ニ登記取消ノ登記ヲ爲スヘキモノナルカニ付キテハ(元)ノ第八ヲ參照スヘシ
- (乙) 登記變更ノ登記(戸第二五條) 如何ナル場合ニ登記變更ノ登記ヲ爲スヘキモノナルカニ付キテハ(元)ノ第九ヲ參照スヘシ
- (丙) 本籍分明ナラサル者ニ付キ或登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届出又ハ報告アリテ且ツ其者カ本籍人ニアラサル場合ニ於テ爲スヘキ登記(戸第二六條第一項) 其場合左ノ如シ
- (イ) 戸籍法ノ規定ニ依リ身分登記ノ届書ニ記載スヘキ事項中其事實ノ知

レサルモノアルトキハ其旨ヲ届書ニ記載スヘキモノナル(戸第五〇條)カ故ニ届出事件ノ本人ノ本籍カ分明ナラサル場合ニ在リテハ届書ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス隨テ其届出ニ因リ戸籍吏カ爲スヘキ身分登記ニモ亦其旨ヲ記載セサルヘカラス然ルニ其後ニ至リ届出事件ノ本人ノ本籍カ分明ト爲リタルトキハ前ニ届出ヲ爲シタル者ハ本人ノ本籍カ分明ト爲リタルコトノ届出ヲ爲スコトヲ得此事ニ付キテハ更ニ本編第四章ニ於テ之ヲ説明スヘシ)而シテ此本人ノ本籍カ分明ト爲リタルコトノ届出ニ基ク登記ハ前ニ爲シタル登記ノ欄外ニ之ヲ爲スヘキモノトス(但此者カ本籍人ナルトキハ此限ニ在ラス)

(ろ) 死亡者ノ本籍分明ナラス且ツ其何人タルコトヲ認識スルコト能ハザルトキハ警察官ハ戸籍法第三百三十二條第一項ノ規定ニ依リ遲滯ナク之ヲ其地ノ戸籍吏ニ報告スヘク戸籍吏ハ此報告ニ基キ其者ノ死亡ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス然ルニ其後ニ至リ死亡者ノ本籍カ分明ト爲リタルトキハ警察官ハ戸籍法第三百三十二條第二項ノ規定ニ依リ遲滯ナク前ニ報告ヲ受ケ

タル戸籍吏ニ之ヲ報告スルコトヲ要シ戸籍吏カ此報告ニ因リ爲スヘキ死亡者ノ本籍カ分明ト爲リタルコトノ登記ハ前ニ爲シタル死亡ノ登記ノ欄外ニ之ヲ爲スヘキモノトス(但死亡者カ本籍人ナルトキハ此限ニ在ラス)右ニ掲ケタル場合ヲ除ク外報告ニ因リ欄外ニ登記ヲ爲スヘキ場合ナシ以上(甲)(乙)及ヒ(丙)ノ三種ノ登記ハ何レモ前ニ爲シタル登記ノ欄外ニ之ヲ記載スヘキモノトス蓋シ此三種ノ登記ハ前登記ヲ抹消シ又ハ變更シ若クハ前登記中分明ナラサル事項ヲ分明ナラシムル爲メ之ヲ爲スモノナルニ拘ラス前登記ト隔離シテ之カ登記ヲ爲ストキハ閲覧等ヲ爲スニ方リ不便少カラサルカ故ナリ

(三) 登記ノ手續ノ通則 登記簿ノ用紙ノ欄内ニ爲スヘキ登記タルト欄外ニ爲スヘキ登記タルトヲ問ハス其登記ヲ爲スニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 第一 登記ニハ戸籍法第四章ノ規定ニ依リ届出報告申請若クハ請求ヲ爲シ又ハ航海日誌ノ謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス(戸籍法第二章第一項)

身分ニ關スル證書ノ謄本ニ依リテ爲ス登記ニハ謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス(戸籍法第二章第二項)

戸籍吏ニ登記ヲ爲スヘキコトヲ命シタル裁判ニ依リテ爲ス登記ニハ其裁判ヲ以テ命セラレタル登記事項ヲ記載スルコトヲ要ス(戸籍法第二章第三項)
 戸籍吏カ裁判所ノ許可ヲ得テ爲ス登記(第二七條)ニハ其許可ヲ得タル登記事項ヲ記載スルコトヲ要ス(以上三付キテハ(六)参照)

戸籍吏ハ届出報告申請請求身分ニ關スル證書ノ謄本又ハ裁判ニ記載シ在ル事項若クハ登記ノ許可ヲ得タル事項ヲ増減變更シテ之カ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第二 登記ニハ前第一ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲモ記載スルコトヲ要ス(戸籍法第二八條)

一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日但他ノ戸籍吏又ハ官廳ヨリ届書ヲ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ發送者ノ官職氏名發送ノ年月日及ヒ送付ヲ受ケタル年月日ヲ併記スルコトヲ要ス

(注意) 甲戸籍吏カ届出ヲ受附ケ其登記ヲ爲シタル後乙戸籍吏ニ其届書ヲ送付シ乙戸籍吏カ之ニ因リテ登記ヲ爲ス場合ニ在リテハ届出ヲ受附ケタル者ハ甲戸籍吏ノミナリ何トナレハ届出ハ一ノ戸籍吏ニ對シ登記ヲ請求スル行爲ニシテ二以上ノ戸籍吏ニ對シ登記ヲ請求スル行爲ニアラス隨テ届出ヲ受ケタル戸籍吏カ他ノ戸籍吏ニ届書ノ送付ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ他ノ戸籍吏ハ届出ヲ受クルニアラスシテ届出事項ヲ記載シタル書面即チ届書ノ送付ヲ受クルニ過キサレハナリ然ルニ戸籍法第三十八條ノ一ニハ届出受附ノ年月日云云トアリテ届書ノ送付ヲ受ケタル年月日ヲ記載スヘシトノ規定ナキハ故ニ乙戸籍吏カ甲戸籍吏ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ登記ヲ爲スニ方リテハ甲戸籍吏カ其届出ヲ受附ケタル年月日ハ之ヲ記載スヘキモノナルモ乙戸籍吏カ届書ノ送付ヲ受ケタル年月日ハ之ヲ記載スルコトヲ要セサルモノノ如シ然レトモ戸籍法第二十八條ノ一ニ他ノ戸籍吏ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ其發送ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ストクノ規定アルヨリ觀レハ發送ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要

スト爲シナカラ之ヨリモ重要ナル送付ヲ受ケタル年月日ハ之ヲ記載スルコトヲ要セスト爲シタルニテラサルコトヲ推知スルニ難カラス故ニ予ハ戸籍法第二十八條ノ一ニ届出ノ受附ノ年月日トアルハ届出ノ受附ノ年月日ト他ノ戸籍吏又ハ官廳ヨリ送付シタル届書ヲ受附ノ年月日即チ届書ノ送付ヲ受ケタル年月日トヲ包含スルモノナリト解スルヲ穩當トス明治三十一年七月十三日司法省訓令第五號戸籍取扱手續附錄第一號書式ノ一ノ第二號ニハ(前略)右出生明治三十三年三月六日神田區へ届出同日同區戸籍吏井口清受附同月七日届書發送同日受附トアリ即チ司法省モ亦予ト同一ノ解釋ヲ採ルモノノ如シ

届書ノ發送ノ年月日トハ送付書ニ記載シ在ル年月日ノ義ニアラスシテ現ニ發送シタル年月日ヲ指スモノトス故ニ例ハ甲戸籍吏カ現ニ届書ヲ乙戸籍吏ニ發送シタル年月日ハ明治三十三年八月五日ナルモ送付書ニハ明治三十三年八月二日ト記載シ在ル如キ場合ニ郵便局ノ消印等ニ據リ甲戸籍吏ノ現ニ發送シタル日カ八月五日ナルコトヲ知ルヲ得ルニ於テハ乙戸籍

吏ハ届書發送ノ月日ヲ八月五日ト記載セサルヘカラス

二 報告又ハ請求ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ報告者又ハ請求者ノ官職氏名但他ノ戸籍吏ヨリ報告書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ發送者ノ官職氏名發送ノ年月日及ヒ送付ヲ受ケタル年月日ヲ併記スルコトヲ要ス

(注意) 戸籍法第二十八條ノ二ニハ報告書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於ケル規定ナシ然レトモ予ハ同條ノ一ノ規定ヨリ類推シ此場合ニ於テハ發送者ノ官職氏名等ヲモ併記スヘキモノト爲スヲ穩當ナリト信ス

三 身分ニ關スル證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ證書又ハ航海日誌ノ作製者及ヒ發送者ノ官職氏名

四 登記ヲ命シタル裁判ノ年月日其裁判ヲ爲シタル裁判所ノ名及ヒ其裁判カ戸籍吏ニ送達セラレタル年月日(即チ戸籍吏ノ側ヨリ觀ルトキハ裁判ヲ受附ケタル年月日)

(注意) 戸籍法第二十八條ノ四ニハ裁判ノ送達ヲ受ケタル年月日ヲ記載スルコトヲ要ストノ規定ナシ然レトモ同條ノ一等ヨリ類推シ之ヲ記載スル

コトヲ要スルモノト爲スヲ穩當トス

五 戸籍吏カ裁判所ノ許可ヲ得テ爲ス登記(戸第二七條ニ在リテハ許可ノ年月日及ヒ許可書ノ送達(即チ戸籍吏ノ側ヨリ觀ルトキハ受附)ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

(注意) 此事ニ付キテハ戸籍法ニハ明文ナキモ同條第二十八條ノ四ヨリ類推ス

之ヲ要スルニ第一ニ掲ケタル記載スヘキ要件ハ登記スヘキ事項ノ實質ニ關シ第二ニ掲ケタル要件ハ其登記ヲ爲スニ至リタル手續ヲ明瞭ナラシムル爲メ之ヲ記載セシムルモノナリ

登記ヲ爲スニハ畧字又ハ符號ヲ用キス字畫明瞭ナルコトヲ要ス年月日及ヒ年齡ヲ記スル數字ニハ一二三ノ字ヲ用キスシテ壹貳參拾ノ字ヲ用ユルコトヲ規ス(戸第二九條第一項第二項)

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戸籍吏之ニ認印シ其削除ニ係

ル文字ハ尙ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス(戸籍法第二九條第三項) 戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要シ(戸籍法第三一條)文末ニ認印スルニ依リテ其登記ヲ了フ故ニ文末ニ認印ヲ爲スマテハ前ニ説明シタル手續ニ從ヒ文字ヲ訂正シ挿入シ又ハ削除スルコトヲ得然レトモ一旦文末ニ認印ヲ爲ストキハ之ニ依リ其登記ヲ爲シ了リタルモノナルカ故ニ縱令錯誤又ハ脱漏等アルコトヲ發見スルモ訂正挿入又ハ削除ヲ爲スコトヲ得ス戸籍法第四十條ノ規定ニ依リ其旨ヲ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ通知シ此等ノ者ヲシテ戸籍法第四章第二十一節ノ規定ニ從ヒ身分登記變更ノ申請ヲ爲サシムルノ外ナシ

(三) 欄内登記ニ關スル特別ノ手續 欄内登記トハ身分登記簿ハ用紙ノ野内ニ爲スヘキ登記ナルコト及ヒ如何ナル種類ノ登記ハ欄内ニ之ヲ爲スヘキヤニ付キテハ既ニ前(三)ニ於テ之ヲ説明シタリ以下欄内登記ニ關スル特別ノ手續ヲ説明スヘシ 登記ヲ爲スヘキ事實カ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル届出事件

ノ二箇以上ニ涉ルトキ合其二箇以上ノ事件ヲ付キ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス 前項ノ登記ニハ各登記ニ付キ必要ナル事項ヲ記載シ(例之甲ノ事件ト乙ノ事件トニ涉ルトキハ甲ノ事件ト乙ノ事件トニ付キ各別ニ其登記ヲ爲シ甲ノ事件ノ登記ニハ届書ニ記載シ在ル其事件ニ關スル必要ナル事項ノミヲ記載シ乙ノ事件ニ關スル事項ハ之ヲ記載セサルヲ謂フ)各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス(以上戸籍法第二三條)

(注意) 登記スヘキ事實カ届出事件ノ二箇以上ニ涉ルトキハ一ノ事實カニ以テ上ノ登記事項ニ涉ルノミナラス其二以上ノ登記事項ニ付キ各別ニ届出ヲ爲スコトヲ要セサル場合ヲ謂フ例ヘハ外國ノ女ト日本ノ男トカ婚姻ヲ爲シタルコトノ届出ノ如シ此設例ニ在リテハ外國ノ女ハ日本ノ男ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ日本ノ男ノ妻ト爲ルト同時ニ日本ノ國籍ヲ取得スルヲ要セス單ニ婚姻ノ届出(但其届書ニハ第五十七條ニ規定シタル事項ヲ記載セザルコト

ヲ要スヲ爲ストキハ此一箇ノ届出ニ因リ婚姻ノ登記中(國籍取得ノ登記トノ二箇ノ登記ヲ爲ス)キモノナリ之ニ反シテ培養子ヲ爲シタル場合ニ在リテハ婚姻ト養子縁組トハ同時ニ成立スト雖其二箇ノ事件ニ付キ各別ニ届出ヲ爲スコトヲ要スルカ故ニ一ノ届出ニ因リ二箇ノ登記ヲ爲スヘキ場合ニアラス

戸籍法第二十三條第一項ニ第四章第二節乃至第二十一節トアルハ第四章第二節乃至第二十節ノ誤ナリ何トナレハ一ノ届出又ハ申請ニ因リ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル事件ノ登記ト同章第二十一節ニ掲ケタル身分登記變更ノ登記トヲ爲スヘキ場合モナク又一ノ申請ニ因リ同章第二十一節ニ掲ケタル二箇以上ノ身分登記ノ變更ノ登記ヲ爲スヘキ場合モナケレムナリ

一ノ届出ニ因リ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル二箇以上ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ一ナルモ登記ハ二以上ナリ故ニ之ヲ變更セシト欲スルトキハ各別ノ登記ニ付キ各別ニ其變更ノ申請ヲ爲ササルヘカラス

ラス随テ一ノ申請ニ因リテ二箇以上ノ身分登記ヲ變更スヘキ場合ナシ
登記ハ日次ヲ逐ヒ事件受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲シ一事件毎ニ番號ヲ附シ用紙ニ空行ヲ存セス前後ノ登記ヲ接續セシムルコトヲ要ス(月第三〇條)

(注意) 戸籍法第三十條ニハ登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外云云トアリ
特別ノ規定アル場合トハ欄外ニ登記ヲ爲スヘキ場合ヲ指ス

本籍分明ナラザル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届出又ハ報告アリテ且ツ其者カ本籍人ナルトキハ更ニ本籍人身分登記簿ノ欄内ニ登記ヲ爲シ其登記及ヒ前登記ノ欄内ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス(戸第二六條第一項)

前項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ届出又ハ報告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ前登記ノ欄外ニ記載スルヲ以テ足ル(戸第二六條第三項)

(四)欄外登記ニ關スル特別ノ手續 欄外登記トハ身分登記簿ノ用紙ノ野外ニ爲スヘキ登記ナルコト及ヒ如何ナル種類ノ登記ハ欄外ニ之ヲ爲スヘキヤニ付

キテハ既ニ(三)ニ於テ之ヲ説明シタリ以下欄外登記ニ關スル特別ノ手續ヲ説明スヘシ

登記取消ノ登記ハ取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル原登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ原登記ヲ抹消スルコトヲ要ス(戸第二四條)

登記變更ノ登記ハ其目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ且ツ其申請ノ基本タル裁判ノ趣旨ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス(戸第二五條)

(注意) 登記變更ノ登記ハ戸籍法第四章第二十一節ニ依リ裁判所ノ許可ヲ得

テ之カ申請ヲ爲ス場合ト同法第七十九條ニ依リ確定判決ニ基キテ之ヲ申請スル場合トアリ何レモ其裁判許可又ハ確定判決ノ趣旨ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス

本籍カ分明ナラザル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届出又ハ報告アリタル場合ニ於テ其者カ非本籍人ナルトキハ原登記ノ欄外ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス(此事ニ付キテハ(三)ノ第二參照)而シテ此種ノ欄外登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ届出又ハ報

告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ原登記ノ欄外ニ記載スルヲ以テ是カ戸以上第二六條)

欄外登記ハ原登記ノ欄外ヨリ餘白ニ之ヲ爲スヘキモノナリ故ニ同ノ原登記ニ對スルニ以上ノ欄外登記ハ日次ヲ逐ヒ受附シ順序ニ從ヒ相接続シテ之ヲ記載スルコトヲ要セス第二以下ノ欄外登記ハ第一ノ欄外登記ヲ爲シタル餘白第一ノ欄外登記ノ前方タルト後方タルト將タ上方タルト下方タルトヲ問ハスニ之ヲ記載スルコトヲ得

欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ用紙ニ餘白ナキトキハ掛紙ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得此場合ニ於テハ戸籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス(戸第三二條)

第四節 登記後ノ手續

(三) 身分登記簿ノ副本ニ謄寫スルコト 戸籍役場ニハ身分登記簿ノ正本ト副本トヲ備フヘキモノニシテ其正本ハ登記ノ原簿ナリ此事ニ付キテハ(三)參照)戸

籍吏ハ正本ニ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ遲滞ナク其全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス(戸第三九條第一項)

欄外登記ハ既ニ述ヘタル如ク後日ニ至リ前ニ爲シタル登記ノ欄外ニ之ヲ爲スヘキモノニシテ身分登記簿ノ副本ハ戸籍法第四十一條ノ手續ヲ終ヘタルトキハ之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スヘキ(此事ニ付キテハ(三)參照)モノナルカ故ニ副本ヲ地方裁判所ニ納付シタル後欄外登記ヲ爲スコトナシトセス此場合ニ在リテハ副本ハ戸籍役場ニ存在セサルヲ以テ戸籍吏ハ之ニ欄外登記ヲ謄寫スルコトヲ得ス戸籍吏ハ副本ニ謄寫スルニ代ヘ左ノ手續ヲ爲サザルヘカラス

身分登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後身分登記簿ノ正本ニ欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ戸籍吏ハ遲滞ナク其登記ノ謄本ヲ作り職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ之ヲ地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス(戸第三九條第二項)

地方裁判所カ右ノ送付ヲ受ケタルトキハ地方裁判所長ハ其送付ヲ受ケタル登記ノ謄本ヲ既ニ送付ヲ受ケタル身分登記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ貼付シ

職印ヲ以テ本紙ト其貼付シタル謄本トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス(戸第三九條第三項)

(三) 届書等ヲ他ノ戸籍吏ニ送付スルコト 戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケタルトキ其他本章第一節ニ掲ケタル事由ニ因リ身分登記ヲ爲シタル場合ニ在リテハ其届書又ハ其他ノ書類ヲ他ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スルコトアリ左ノ如シ

第一 届出ニ因リテ身分登記ヲ爲シタル場合

(甲) 被登記者ノ一員又ハ全員ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スヘキ事項

(例) ハ甲家ニ在ル丙男ト乙家ニ在ル丁女ト婚姻スルトキハ丁女ハ乙家ヲ去リテ甲家ニ入ルニ關スル届出ヲ爲ス場合ニ於テ其兩家ノ本籍地カ戸籍吏ノ管轄ヲ異ニシ其何レカノ戸籍吏ニ其届出ヲ爲ストキハ届書ハ正本、副本各一通ヲ作ルコトヲ要スルモノトス(戸第五三條第二項)

右ノ場合ニ於テ被登記者ノ入ルヘキ家ノ本籍地ヲ管轄スル戸籍吏ニ其届出ヲ爲シタルトキハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク其届書ノ副本ヲ

被登記者ノ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス(戸第三三條第二項)

例 甲戸籍吏ノ管轄ニ屬スル丙家ニ在ル戊男ト乙戸籍吏ノ管轄ニ屬スル丁家ニ在ル己女トカ婚姻ヲ爲ストキハ己女ハ丁家ヲ去リテ丙家ニ入ルニ随テ其者ノ本籍ハ乙戸籍吏ノ管轄ヨリ甲戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スルヘキモノナリ此場合ニ於テ甲戸籍吏ニ其婚姻ノ届出ヲ爲スニハ届書ノ正本副本各一通ヲ作り之ヲ差出スコトヲ要ス而シテ甲戸籍吏ハ其届書ヲ正本及ヒ副本ヲ受附ケ之カ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其届書ノ副本ヲ乙戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スルモノトス

次ニ被登記者ノ去ルヘキ家ノ本籍地ヲ管轄スル戸籍吏ニ其届出ヲ爲シタルトキハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク其届書ノ正本ヲ被登記者ノ新管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス(戸第三三條第一項)

例 前ニ掲ケタルト同一ノ場合ニ於テ乙戸籍吏ニ其婚姻ノ届出ヲ爲スニハ届書ノ正本副本各一通ヲ作り之ヲ差出スコトヲ要シ乙戸籍吏カ其届書ノ正本及ヒ副本ヲ受附ケ之カ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其届

書ノ正本ヲ甲戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スルモノトス

(乙) 被登記者ノ一員又ハ全員ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スヘキ事項ニ關スル届出ヲ爲ス場合ニ於テ其兩家ノ本籍地カ戸籍吏ノ管轄ヲ異ニシ其何レノ戸籍吏ニモ其届出ヲ爲サスシテ他ノ戸籍吏ニ其届出ヲ爲ストキハ届書ハ正本一通副本二通ヲ作ルコトヲ要ス(戸第五三條第三項)而シテ其届出ヲ受ケタル戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク其届書ノ正本ヲ被登記者ノ新管轄ノ戸籍吏ニ送付シ副本一通ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スルモノトス(戸第三四條)

例 京橋區ニ屬スル甲家ノ丙男ト日本橋區ニ屬スル乙家ノ丁女トカ婚姻ヲ爲ストキハ丁女ハ乙家ヲ去リテ甲家ニ入ルヘク隨テ其者ノ本籍ハ日本橋區ヨリ京橋區ニ轉屬スルヘキモノナリ此場合ニ於テ本郷區ノ戸籍吏ニ其婚姻ノ届出ヲ爲スニハ届書ヲ正本一通副本二通ヲ作り之ヲ差出スコトヲ要ス而シテ本郷區ノ戸籍吏カ其届書ノ正本及ヒ副本ヲ受附ケ之カ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其届書ノ正本ヲ京橋區ノ戸籍吏ニ

送付シ其副本ノ一通ヲ日本橋區ノ戸籍吏ニ送付セサルニ付ラス
(丙) 被登記者ノ本籍カ移轉セサル事項(例ハ出生失踪死亡隠居等)ニ關スル届出ヲ被登記者ノ本籍地ノ戸籍ノ管轄地外ニ於テ爲ストキハ届書ハ正本副本各一通ヲ作ルコトヲ要ス(戸第五三條第一項)

右ノ場合ニ於テハ其届出ヲ受ケタル戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ被登記者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スルモノトス(戸第三五條)

例 麴町區ニ本籍ヲ有スル者ノ死亡ヲ深川區ノ戸籍吏ニ届出ツルニハ届書ハ正本一通副本一通ヲ作り之ヲ差出スコトヲ要ス而シテ深川區ノ戸籍吏カ其届出ニ因リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク届書ノ副本ヲ麴町區ノ戸籍吏ニ送付セサルヘカラス

第二 本章第一節ニ掲ケタル届出以外ノ事由ニ因リテ身分登記ヲ爲シタル場合
(甲) 被登記者ノ一員又ハ全員ノ本籍カ一ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏

ノ管轄ニ轉屬スヘキ事項ニ關シ其何シカノ戸籍吏カ届出以外ノ事由(例ハ外務大臣ヨリ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ送付ヲ受ケタルトキ)ニ因リ登記ヲ爲シタルトキハ其戸籍吏ハ受附ケタル書面ノ謄本ニ通テ作ルコトヲ要ス(戸第三六條第二項)

右ノ場合ニ於テ届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル戸籍吏カ被登記者ノ舊管轄ノ戸籍吏ナルトキハ其受附ケタル書面ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要シ又登記ヲ爲シタル戸籍吏カ被登記者ノ新管轄ノ戸籍吏ナルトキハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス(戸第三十六條ニ依リ戸第三十三條準用)

(乙) 被登記者ノ一員又ハ全員ノ本籍カ一ノ戸籍吏ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スヘキ事項ニ關シ第三ノ戸籍吏カ届出以外ノ事由ニ因リテ登記ヲ爲シタルトキハ其戸籍吏ハ受附ケタル書面ノ謄本ニ通テ作り(戸第三六條第二項)其一通ハ被登記者ノ舊管轄ノ戸籍吏ニ之ヲ送付シ受附ケタル書面ハ新管轄ノ戸籍吏ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス(戸第三十六條ニ依リ戸第三

十四條準用) 被登記者ノ本籍ヲ移轉セザル事項ニ關シ其者ノ本籍地ヲ管轄セザル
 (丙) 被登記者ノ本籍ヲ移轉セザル事項ニ關シ其者ノ本籍地ヲ管轄セザル
 戸籍吏カ届出以外ノ事由ニ因リテ登記ヲ爲シタルトキハ其戸籍吏ニ受附
 ケタル書面ノ登記一通ヲ作リ受附ケタル書面ハ被登記者ノ管轄戸籍吏ニ
 之ヲ送付スルコトヲ要ス

(注意) 右ノ場合ニ付キテハ戸籍法ニハ第三十六條第二項末段ニ届出以外
 ノ事由ニ因リテ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管
 轄ニ屬セザルトキ亦同シトアリテ受附ケタル書面ノ謄本ヲ作ルニキコ
 トヲ規定シタルノミニテ受附ケタル書面ハ之ヲ管轄戸籍吏ニ送付スル
 コトヲ要ストノ規定カシ恐クハ第三十六條第一項ニハ第三十三條第三
 十四條及ヒ第三十五條云云ト規定スヘキヲ誤リテ第三十五條ノ文字ヲ
 漏脱シタルモノナラシ然レトモ第三十六條ハ届出以外ノ事由ニ因リ登
 記ヲ爲シタル場合ニ於ケル受附ケタル書面又ハ其謄本ノ送付ニ關スル
 規定ニシテ同條中ニ第二項末段ノ規定アル以上ハ其規定ニ趣旨ヲ受附

本ハ被登記者ノ管轄戸籍吏ニ之ヲ送付スヘキコトヲ命シタルモノナ
 以上ニ説明シ然レテ手續ニ依リ他人ノ戸籍吏ヨリ届書等ノ送付ヲ受ケタル戸籍吏
 ハ其届書等ニ基キ更ニ登記ヲ爲スコトヲ要スルモノトス尙(元)ヲ参照スヘシ
 以上ニ説明シ然レテ手續ニ依リ他人ノ戸籍吏ヨリ届書等ノ送付ヲ受ケタル戸籍吏
 カ登記ヲ爲シタル後更ニ第三十八條戸籍吏ニ届書等ヲ送付スヘキ場合ナシ
 (三) 届書其他ノ書類ノ整理及ヒ保存 戸籍吏ハ身分登記ヲ爲シタル後其身分
 登記ニ關スル届書其他ノ書類ニ登記ノ番號及ヒ登記ヲ爲シタル年月日ヲ記載
 シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ヲ編輯シ且ツ之ニ目錄ヲ附スルコトヲ要ス(戸
 第三七條)

(注意) (一) 其他ノ書類トハ報告身分ニ關スル證書謄本ノ如キモノヲ謂フ
 戸籍法第三十七條ニハ登記ニ關シ受附ケタル書類トスル故ニ法文ノ正面ヨ
 リ言フニキハ届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其役場ニ留

メ置ク爲メニ作りタル受附ケタル書面ノ謄本(受附ケタル書面ノ謄本ヲ作り受附ケタル書面ハ之ヲ他ノ戸籍吏ニ送付スヘキ場合アルコトハ前(三)ノ第二ニ於テ説明シタリ)ハ之ヲ包含セサルカ如シ然レトモ受附ケタル書面ノ謄本ハ既ニ述ヘタル如ク届書ノ副本ニ相當スルモノナルカ故ニ之ヲモ包含セシメタルモノト解スルヲ穩當トス

(ロ) 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製スヘキモノナルカ故ニ(戸第八條)登記ノ番號モ亦一年毎ニ更新スヘキモノナリ

(ハ) 一箇ノ届出ニ因リ二箇以上ノ登記ヲ爲シタルトキ(此事ニ付キテハ(三)參照)ハ受附番號受附番號ニ付キテハ(元)參照)ハ一ナルモ登記番號ハ各登記ニ付キ各別ニ之ヲ附セサルヘカラス

(ニ) 他ノ戸籍吏ニ送付スヘキ届書ノ正本副本其他ノ書類ニ付キテハ本文ノ手續ヲ爲スヘキ限ニ在ラス

以上ニ掲ケタル届書其他ノ書類ハ登記ヲ爲シタル後一箇月毎ニ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要シ監督區裁判所ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

(戸第三八條第一項)

監督區裁判所カ前項ノ書類ヲ保存スヘキ期間ハ十年ナリ(戸第三八條第二項)明治三十五年司法省令第二十一號身分登記戸籍及ヒ寄留ニ關スル書類保存規程第四條)

(元)登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキ 錯誤トハ登記中ニ眞實ニ反スル事項ノ記載アルヲ謂フ例ハ男ヲ女ト記載シ若クハ嫡出子ヲ私生子ト記載シアルカ如キ是ナリ次ニ遺漏トハ登記ニ記載スルコトヲ要スル事項ノ記載ナキコト及ヒ文字ヲ脱漏シタルコトヲ謂フ例ハ登記事件ノ本人ノ生年月日ノ記載ナキトキ若クハ氏名中ニ文字ノ脱漏アルトキノ如キ是ナリ登記ヲ爲シタル後戸籍吏カ其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキト雖任意ニ之ヲ訂正シ又ハ増補スルコトヲ得ス(戸第一七條及ヒ(元)ノ第八第九參照)其錯誤又ハ遺漏カ届書等ニ缺點アリタルニ起因シタルト戸籍吏ニ故意又ハ過失アリタルニ起因シタルト問ハス戸籍吏限リニテ之ヲ訂正シ増補スルコトヲ許ササルハ若シ之ヲ許ストキハ登記ヲ不確實オラシムルニ至ル虞

アルカ故ナリ

右ノ場合ニ於テハ戸籍吏ハ其登記ニ錯誤アルコト又ハ遺漏アルコトヲ届出人、申請人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要スルモノトス(戸第四〇條)蓋シ之カ通知ヲ爲スハ此等ノ者ヲシテ戸籍法第六十七條乃至第六十九條ノ規定ニ從ヒ其身分登記ノ變更ノ申請ヲ爲サシメンカ爲メナリ

(注意) (イ) 戸籍法第四十條ニハ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要スルト規定シアリ然ルニ届出ト申請トハ等シク私人カ身分登記ヲ求ムル方式ナルノミナラス申請人モ亦其申請ニ因リタル身分登記ノ變更ノ申請ヲ爲シ得ヘキモノナルカ故ニ同條ニ所謂届出人ハ届出人ト申請人トヲ包含スト解釋セサルヘカラス

登記カ届出申請又ハ届書ノ送付ヲ受ケタルニ因リ之ヲ爲シタルモノナルトキハ戸籍吏ハ事宜ニ從ヒ届出人若クハ申請人又ハ登記事件ノ本人ニ通知ヲ爲スコトヲ得レトモ登記カ請求又ハ報告等ヲ受ケタルニ因リ之ヲ爲シタルモノナルトキハ戸籍吏ハ登記事件ノ本人ニノミ通知ヲ爲スコトヲ要ス請求

者、報告者等ハ身分登記ノ變更ノ申請ヲ爲シ得ヘカラサルカ故ナリ(元参照)

(ロ) 登記スヘカラサル事項ノ登記アルコト(戸籍法第四章第二節乃至第二十二節ニ該當セサル事項ノ登記ヲ謂フ例ヘハ就籍又ハ除籍ノ届出アリタル場合ニ戸籍吏カ誤リテ身分登記簿ニ之ヲ登記シタルトキノ如シ)又ハ登記中ニ記載スヘカラサル事項ノ記載アルコト(例ヘハ登記中ニ届出人ノ位階ノ記載アルトキノ如シ)ヲ發見シタルトキト雖戸籍吏ハ任意ニ之ヲ抹消スルコトヲ得ス又戸籍吏ハ之ヲ届出人等ニ通知スルコトヲモ要セス

戸籍吏カ前項ノ通知ヲ爲スコトヲ要スルハ登記ヲ爲シタル後ニ限り登記ハ戸籍吏カ戸籍法第三十一條ノ規定ニ從ヒ登記ノ文末ニ認印ヲ爲スニ由リテ終了スルモノナルカ故ニ未タ文末ニ認印セサル間ハ前項ノ通知ヲ爲スヘキニアラス若シ戸籍吏カ登記ノ記載ニ著手シタル後未タ文末ニ認印セサル以前ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其錯誤又ハ遺漏カ届書等ニ缺點アルニ基クモノナルニ於テハ其登記ヲ終了シタル後前項ノ通知ヲ爲スノ外ナキモ其錯誤又ハ遺漏ハ届書等ニ缺點ナキニ拘ラス戸籍吏カ誤記シ又ハ遺脱シタルニ

因ルモノナルニ於テハ戸籍法第二十九條第二項ノ規定ニ從ヒ之ヲ訂正シ削除シ又ハ文字ヲ挿入スルコトヲ得ルモノトス但一旦文末ニ認印ヲ爲シタル後ハ戸籍吏限リニテ訂正等ヲ爲スコトヲ得ス必ス前項ノ通知ヲ爲ササルヘカラス
(三)ノ末段參照)

届出アリタル場合ニ其届書ニ錯誤又ハ遺漏アルトキハ戸籍吏之ヲ受理スルコトヲ得ス然レトモ若シ之ヲ受理シタルトキハ登記ノ著手前ニ於テ届書ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキト雖登記ヲ爲ササルコトヲ得ス其届書ニ基キテ登記ヲ爲シ然ル後前ニ述ヘタル通知ヲ爲スコトヲ要ス身分ニ關スル報告アリタル場合等亦同シ

(完)身分登記簿ニ最後ノ登記ヲ爲シタルトキ 戸籍吏ハ毎年未ニ至リ其年ノ各種ノ身分登記簿ニ於ケル最後ノ登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス(戸籍法第四一條第一項)年末ニ至ル前ニ身分登記簿ノ用紙ヲ用キ盡シタル場合亦同シ(同條第二項)

右ノ手續ヲ終ヘタル身分登記簿ノ正本ハ之ヲ戸籍役場ニ保存シ副本ハ之ヲ監

督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スルコトヲ要ス(三)及ヒ(三)參照)

第四章 身分ニ關スル届出

本章ニ於テハ身分登記ヲ求ムル手續(届出報告申請請求等)ヲ説明スヘシ
本章ノ標題ヲ「身分ニ關スル届出」ト爲シタルハ便宜ノ爲メ戸籍法第四章ノ標題ニ倣ヒタルニ過キス

第一節 通則

(四)届出ヲ爲スヘキ地 身分ニ關スル届出ハ其届出人(届出人トハ現ニ届出ヲ爲ス者ヲ謂フ届出事件ノ本人ニアラス)ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但其届出人カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ其所在地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得(戸籍法第四二條第一項)

届出人カ本籍ヲ有セサルトキハ其届出ニ關シテノミ其所在地ヲ以テ其者ノ本籍地ト看做ス(同條第二項)

(注意) 以上ハ届出地ニ關スル通則ナリ此通則ニ對シ例外ノ規定アリ第二節以下ニ之ヲ説明スヘシ

(四)任意ノ届出及ヒ義務トシテノ届出 届出ハ任意ニ之ヲ爲ス場合ト戸籍法上ノ義務トシテ之ヲ爲ス場合トノ二種ニ分類スルコトヲ得

第一 任意ニ爲ス届出 届出ヲ爲スニアラサレハ效力ヲ生セサル事項ニ在リテハ届出ヲ爲ササル限リハ身分ニ影響ヲ生スルコトナシ故ニ國家ハ届出ヲ爲スコトヲ強制セス唯届出ヲ爲サント欲スルトキハ戸籍法ノ規定ニ依ルコトヲ要スト爲スノミ婚姻協議上ノ離婚隠居廢家分家又ハ廢絶家再興ノ届出ノ如キ是ナリ

第二 戸籍法上ノ義務トシテ爲ス届出 既ニ發生シタル事項ニ付キ届出ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ國家ハ届出ヲ強制ス何トナレハ届出ナケレハ身分登記ヲ爲スニ由ナク身分登記ナケレハ其事項ニ因リテ生シタル身分關係ヲ公示スルコト能ハス隨テ身分登記ノ制度ヲ設ケタル趣旨ヲ貫徹スルコトヲ得サレハナリ出生死亡裁判上ノ離婚家督相續ノ届出ノ如キハ此種ニ屬ス

(四)届出ヲ爲スヘキ者及ヒ届出義務者 婚姻其他任意ニ爲ス届出ニ在リテハ其届出ヲ爲スヘキ者カ無能力者ナル場合ト雖其者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

(注意) 届出ヲ爲スヘキ者(戸第四六條等)ト届出人(戸第四二條、第四五條、第四六條等)トヲ混同セサルヲ要ス届出ヲ爲スヘキ者トハ戸籍法第二節乃至第二十節ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スコトヲ要スト定メラレタル者ヲ謂ヒ届出人トハ現實ニ届出ヲ爲ス者ヲ謂フ

戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ其届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ニアラサルトキハ其者ヲ以テ届出義務者トシ若シ其届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス(戸第四六條第一項)届出義務者トハ其文字カ示ス如ク國家ニ對シ其届出ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ者ト云フ義ナリ

(注意) (イ) 戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合ニ在リテモ亦任意ニ届出ヲ爲スヘキ場合ニ於ケルト同シク戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ

於テ其届出ヲ爲スヘキ者ヲ規定ス然レドモ若シ其者カ未成年又ハ禁治産者ナルトキハ(例ヘハ)戸籍法第七十一條ニ依ルトキハ嫡出子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス然ルニ父カ未成年者ナルコトアリ)戸籍法第四十六條ノ規定アルカ故ニ親權ヲ行フ者又ハ後見人カ届出義務者ト爲ル隨テ未成年者又ハ禁治産者ハ届出ヲ爲スヘキ限ニ在ラス

(ロ) 戸籍法第四十六條ハ戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合ノミニ關スル規定ナリ何トナレハ任意ニ届出ヲ爲ス場合ニ在リテハ其届出ヲ爲スヘキ者ヲ届出義務者ト謂フコトヲ得サレハナリ

(ハ) 戸籍法第四十七條第一項ニハ「前條ノ規定ハ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ニハ之ヲ適用セス」トアリ然レトモ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付キ戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合アルコトナシ隨テ本項ノ規定ナシトスルモ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ關シ第四十六條即チ戸籍法上ノ義務トシテ爲スヘキ届出ノミニ關スル規定ヲ適用セララルルコトナキカ故ニ本項ハ注意的ノ規定ニ過キス

(四) 届出期間ニ任意ニ爲ス届出ハ之ヲ爲スト爲ササルト其者ノ自由ナルカ故ニ此種ノ届出ニ付キテハ之ヲ爲スニ其期間ヲ定メサキコトニ言フヲ俟タスト雖戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ戸籍法ハ其届出ヲ爲スニキ期間ヲ定ム之ヲ届出期間ト謂フ届出期間ハ時ヲ以テ定メタルモノト日又ハ月ヲ以テ定メタルモノトトシテ二種アリ

第一 時ヲ以テ定メタルモノニハ戸籍法第七十五條ニハ「棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ戸籍吏ニ届出シタルハ其旨トシテ要シ」ト云フ此場合ニ在リテハ二十四時間内ハ其届出期間ハ棄兒ヲ發見シタル時ヨリ起算スルモノトスル規定ハ之ヲ更ニ左シ三種ニ分類スルコトヲ得ルモノトシテ第一 日又ハ月ヲ以テ定メタルモノニハ戸籍法第六十八條ニハ「子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ之ヲ届出シタルハ其旨トシテ要シ」ト云フ此場合ニ在リテハ十日内ハ其届出期間ハ子ノ出生アリタル時ヨリ起算スルモノトスル規定ハ之ヲ更ニ左シ三種ニ分類スルコトヲ得ルモノトシテ第二 日又ハ月ヲ以テ定メタルモノニハ戸籍法第六十八條ニハ「子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ之ヲ届出シタルハ其旨トシテ要シ」ト云フ此場合ニ在リテハ十日内ハ其届出期間ハ子ノ出生アリタル時ヨリ起算スルモノトスル規定ハ之ヲ更ニ左シ三種ニ分類スルコトヲ得ルモノトシテ

限ニ在ラズ(戸第六三條第一項) 戸籍吏カ前段ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其
 期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルニトテ要ス(戸第六三條第三項) 届出義務者カ戸籍吏ノ定メタル期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ戸籍吏ハ更ニ
 相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ要ス爾後届出義務者カ戸籍吏ノ催告ニ
 應セザルトキ亦同シ(戸第六三條第三項)

(注意) 戸籍吏カ相當ノ期間ヲ定メテ第一回ノ催告ヲ爲シ然レ後届出義務者
 カ尙ホ其期間内ニ届出ヲ爲ササルニ於テハ戸籍吏ハ第一回ノ催告ヲ爲スト
 キト異ナリ裁判所ニ通知ヲ受クルコトヲ直ニ相當ノ期間ヲ定メテ第二
 回ノ催告ヲ爲スコトヲ要ス第三回以後ノ催告亦同シ何レハ戸籍法第六
 十三條第一項及ヒ第二項ハ戸籍法ニ定メ在ル届出期間ヲ怠リタル場合ニ
 關スル規定ニシテ戸籍吏カ定メタル届出期間ヲ怠リタル場合ニ關シ適用
 スヘキ規定ニアラサルヲ以テ戸籍吏ノ定メタル期間ヲ怠リタル場合ニ在リ
 テハ戸籍吏ハ裁判所ニ通知ヲ受クルコトヲ直ニ相當ノ期間ヲ定メテ第三回
 以後ノ催告亦同シ何レハ戸籍法第六十三條

第二項ニ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ同條第三項ニハ此ノ如
 キ文字ヲキヨリ觀ルモ明カカリ

戸籍法第六十三條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ戸籍吏カ期間ヲ定メテ届出
 ヲ催告シタル場合ニ於テ尙ホ其届出ヲ怠ル者ハ戸籍法第二百十一條ノ規定ニ
 依リ過料ニ處セラレ但裁判所ハ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要セズ
 戸籍法ニ定メ在ル届出期間又ハ戸籍吏カ定メタル届出期間ヲ經過シタル後ニ
 届出ヲ爲シタル場合ト雖戸籍吏ハ其届出ヲ受理スルコトヲ要ス(戸第六五條)
 戸籍吏カ其管轄内ニ届出期間ヲ經過シテ猶ホ届出ヲ爲ササル爲メ過料ニ處セ
 ラルヘキ者アルコトヲ知ルモノキハ遲滞ナル之ヲ其過料ノ裁判ノ管轄裁判
 所ニ通知スルコトヲ要ス(戸第六四條)
 (注意) 届出期間ヲ徒過シタル後届出ヲ爲シタル者ハ届出期間内ニ届出ヲ爲
 ササル者ナルカ故ニ過料ニ處セラレサルヘカテ是隨テ此場合ニ於テモ戸籍
 吏ハ管轄裁判所ニ本文ヲ通知ヲ爲スコトヲ要ス
 (四) 届出ノ方式ニ關スル通則 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ通則トス(此書面

ラ届書ト謂フ然レトモ正當ノ事由アル場合ニ限リ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シテ其事理ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得(戸第四三條)

届出ニハ後ノ第二節以下ニ於テ述フルカ如ク届出事件ニ關スル同意ノ證明(戸第八七條第九八條第一〇條等)承諾ノ證明(戸第八二條)又ハ承認ノ證明(戸第一二一條)ヲ添フルヲ要スルコトアリ此等ノ證明ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ通例トスレトモ正當ノ事由アル場合ニ限リ口頭ノ届出ノ手續ト同様ノ手續ニ從ヒ口頭ニテ之ヲ爲スコトヲ得(戸第五十六條ニ依リ戸第四十三條第五十四條及ヒ第五十五條準用)

届出人其他ノ者ノ署名捺印ヲ要スル場合ニ於テ其者カ印ヲ有セザルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハザルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ捺印スルコト能ハス且ツ印ヲ有セザルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル但捺印セス又ハ名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス(戸第二一八條)

例 届出人カ文字ヲ知ラサル爲メ届書ニ署名スルコト能ハザルトキハ他人

ヲシテ届出人ノ名ヲ代署セシメ且ツ其旨ヲ附記スレハ足ル(登)届出ノ受理ノ證明 戸籍吏カ届出ヲ受理シタルトキハ届出人ハ手数料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得(戸第六六條) 其手数料ノ金額ハ戸籍法第二百十七條ノ規定ニ基キ明治三十一年七月司法省令第十三號ヲ以テ金五錢ト定メラレタリ

(四)書面ヲ以テ爲ス届出ノ方式 書面ヲ以テスル場合ニ在リテハ(四)ノ外左ノ法則アリ

第一 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス(戸第四四條)

- 一 届出事件 例ハ婚姻ノ届出ト謂フカ如シ
- 二 届出ノ年月日 届出ハ戸籍吏カ之ヲ受理スルニ由リ届出アリタルコトノ效力ヲ生スルモノナルカ故ニ届出ノ年月日ハ戸籍吏カ其届書ヲ受クル年月日ナラサルヘカラス
- 三 届出人ノ族稱職業出生ノ年月日及ヒ本籍地

第二 届出入ト届出事件ノ本人(登記スルキ事件ト本人ヲ謂フ例ヘハ死亡ノ届出ト場合ニ在リテハ死亡者是ナリ)ト異ナルトキハ其届書ニ其間ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要シ届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス續柄トハ親族關係等ヲ謂フ

第三 戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其届出ヲ爲スヘキ者カ未成年又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者ト爲スコトハ(四)ニ述ヘタリ此場合ニ於テ親權ヲ行フ者又ハ後見人トシテ届出ヲ爲ストキハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第四六條)

第一 届出ヲ爲スヘキ者(即チ未成年者又ハ禁治産者)ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、及ヒ本籍地

第二 無能力ノ原因(未成年者又ハ禁治産者ナルコト)

第三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト

第四 戸籍法上ノ義務トシテ届出ノ場合ニアラスタ任意ニ爲ス届出ノ場合ニ在リテハ無能力者ト雖自ラ届出ヲ爲スコトヲ得ヘキコトハ(四)ニ之ヲ

述ヘタリ

此ノ如ク任意ニ爲ス届出ハ無能力者ト雖自ラ之ヲ爲スヲ得ルモ而モ届出ヲ爲スニハ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ意思能力ナカルヘカラス然ルニ禁治産者ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者ナルカ故ニ禁治産者カ爲シタル届出ニ付キテハ果シテ心神カ通常ニ復シタル時機ニ於テ之ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査スルノ必要アリ此必要ニ應セン爲メ戸籍法ハ禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スル者ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要スト爲シタル(戸第四七條第二項)

第五 證人ヲ要スル事件ト届出ニ付キテハ證人ハ届出ニ其證人タルコト、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス(戸第四八條)證人ヲ要スル事件トハ婚姻(民法第七七五條)協議上ノ離婚(同第八一〇條)養子縁組(同第八四七條)及ヒ協議上ノ離縁(同第八六四條)ノ四種ヲ謂フ

第六 届出人、届出事件ノ本人又ハ届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ

其所在地を記載せざるハ不要ス(戸籍四九條)本籍地ノ戸籍吏ハ其所在地ノ戸籍法ニ依リ届書ヲ記載スルハ其事項中其事實ヲ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ届書ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス故ニ届書ニ記載スルキ事項ノ記載ヲ缺クモ其事實ヲ存セサル旨又ハ知レサル旨ヲ記載スルコトキハ原則トシテハ戸籍吏其届出ヲ受理セサルベカラズ但戸籍吏ハ届書ニ記載ヲ缺キタル事項ヲ其届出事件ニ付キ特ニ重要ナル事項ナリト認めタルトキハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス(戸第五〇條)

第八 届書ニハ戸籍法其他ノ法令ニ定メタル事項ニアラサレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス(戸第五一條)

第九 届書ニハ略字又ハ符號ヲ用ヒス字盡明瞭ナルコトヲ要ス年月日時及ヒ年齢ヲ記スル數字ニハ一、二、三、十ノ字ヲ用キスシテ壹、貳、參、拾ノ字ヲ用ユルコトヲ要ス届書ニ記載シタル文字ニ之ヲ改竄スルコトヲ得ヌ若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ届出人ニ認印シ(證人ヲ要スル事件ノ届書ニ付キテハ證人モ亦之ニ認印スルコトヲ要ス)何事ナレハ婚姻其他證人ヲ要スル事件ノ届出ニ當事者ノミヨリ之ヲ届出ツルニアラサシテ當事者及ヒ證人ヨリ之ヲ届出ツルモノナルヲ以テナリ其削除ニ係ル文字ニ尙ホ明瞭ニ讀取得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス(戸第五十二條ニ依リ戸第二十九條準用)

(注意) 届出ニハ届出事件ニ關スル同意承諾又ハ承認ヲ證明ヲ添フルヲ要スルコトアリ(圖參照)而シテ其同意等ハ届書ニ其旨ヲ附記シテ之ヲ證明スルコトヲ得ヘシ(戸第八七條等)然ルニ届書ニ之ヲ附記シタル場合ト雖其附記ハ届出ノ要件ニシテ届書ノ要件ニアラサルカ故ニ其附記ニ付キテハ戸籍法第五十三條ヲ適用スルキ限ニ在ラス

第十 被登記者ノ本籍カ移轉セサル事項(例ハ出生)ニ關スル届出ヲ被登記者ノ本籍地ノ戸籍吏ノ管轄地外ニ於テ爲ストキハ届書ハ正本副本各一通ヲ作ルコトヲ要ス(戸第五三條第三項)

(注意) 戸籍法第五十三條第三項ニハ本籍地ノ戸籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ス爲メ下キニ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス(下規定シ在ルカ故ニ届

出人カ戸籍法第四十三條等ノ規定ニ依リ自己ノ本籍地以外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ノ正本、副本各一通ヲ作ルコトヲ要スト解スル者アリ然レトモ届書ノ正本ノ外尙ホ副本ヲ作ルコトヲ要スルハ其届出ヲ受理シタル戸籍吏カ登記ヲ爲シタル後被登記者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届書ノ正本ヲ送付スル必要アルカ爲メニ外ナラズ然ルニ縱令届出人カ自己ノ本籍地ニ於テ届出ヲ爲シタル場合ト雖若シ被登記者ノ本籍カ其届出ヲ受理シタル戸籍吏ノ管轄地外ニ在ルトキハ戸籍吏ハ届書ノ正本ヲ本籍ノ戸籍吏ニ送付スヘキモノナルヲ以テ副本ヲ要シ之ニ反シテ縱令届出人カ自己ノ本籍地外ニ於テ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ被登記者ノ本籍カ其届出ヲ受理シタル戸籍吏ノ管轄ニ屬スルトキハ戸籍吏ハ他ノ戸籍吏ニ届書ノ正本ヲ送付スルコトヲ要セサルヲ以テ副本ヲ要スル理由ナシ故ニ戸籍法第五十三條第一項ニ本籍地ト在ルハ届出人ノ本籍地ヲ指スニアラスシテ被登記者ノ本籍地ヲ指スト解セサルヘカラス

届出ニ因リ被登記者ノ一人又ハ數人ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スル

場合(例ヘハ婚姻等)ニ於テ兩家ノ本籍地カ戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ届書ハ正本、副本各一通ヲ作り届出地ト兩家ノ本籍地トカ各戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一通、副本二通ヲ作ルコトヲ要ス(戸第五三條第二項)

以上ノ場合ニ於テ届出人ヲシテ届書ノ正本ノ外尙ホ其副本一通又ハ二通ヲ作ラシムルハ此等ノ場合ニ在リテハ其届出ヲ受理シ登記ヲ爲シタル戸籍吏ハ他ノ戸籍吏ニ届書ヲ送付スル必要アリ(三)参照隨テ届出ヲ受ケタル戸籍吏ノ役場ニ留メ置クヘキ届書ト他ノ戸籍吏ニ送付スヘキ届書トヲ必要トスルカ故ナリ

第十一 戸籍法第六十三條第六十四條等戸籍法ニ別段ノ規定アル場合ノ外尙ホ他ノ法令ノ規定ニ依リ届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルコトアリ例ヘハ陸海軍人ノ婚姻ニ付キテハ本屬長官ノ許可ヲ要スルカ如キ是ナリ此等ノ場合ニ在リテハ届出人ハ届書ニ其許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス(戸第五七條)

(四)口頭ヲ以テスル届出ノ方式 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ通則トス然レ

トモ正當ノ事由アルトキハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シタル上書面ヲ以テ届出ヲ爲スコト能ハサル理由ヲ陳述シ戸籍吏カ其理由ヲ正當ナリト爲ストキハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲スコトヲ得(戸籍法第四三條)

口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニテ其届出事件ヲ陳述シ戸籍吏ハ直チニ其口述並ニ届出ノ年月日届出人ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ且ツ届出人ヲシテ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス而シテ戸籍吏カ作ルベキ其書面ニ付キテハ届書ニ關スル前(四)ノ法則ヲ準用スヘキモノトス(戸籍法第五四條第五五條)

口頭ヲ以テ届出ヲ爲サシトスル者カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出スコトヲ得(戸籍法第五八條)

代理人ヲ用キテ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス者アル場合ニ於テハ戸籍吏ハ委任狀ニ依リ其代理權アルコトヲ證明セシムルヲ相當トス但此事ニ付キテハ戸籍法ニハ何等ノ規定ナシ

(四)外國ニ於テ爲ス届出ニ關スル通則 外國ニ在ル日本人ハ戸籍法ノ規定ニ

從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得(戸籍法第五九條)

届出事件カ戸籍吏ニ之ヲ届出ツルニ因リテ效力ヲ生スルモノナルトキ(例ヘハ婚姻協議上ノ離婚隠居等)ハ前段ノ場合ニ於テ外國ニ在ル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スニ因リテ戸籍吏ニ其届出ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生ス

外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシムルトキ(例ヘハ日本ノ國籍ヲ有スル男ト日本ノ國籍ヲ有スル女トカ外國ニ於テ婚姻ヲ爲シ其國ノ法式ニ從ヒ婚姻ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキ)ノ如キ是ナリ

ハ三箇月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ヲ差出スコトヲ要シ(戸籍第六〇條第一項)日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ本人歸國ノ後一箇月内ニ本籍地ノ戸籍吏ニ其證書ノ謄本ヲ差出スコトヲ要ス(同條第二項)

(注意) (イ) 身分ニ關スル法律行為ノ方式カ行為地法ニ依ルコトヲ得ルモノナル場合(例ヘハ法例第十三條ノ如シ)ニ於テ外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ其行為ヲ爲シタルトキハ其行為ノ之ニ因リテ實體法上ノ效力ヲ生ス

隨テ本人カ其國ニ於テ其行爲ニ付キ證書ヲ作ラシメタル後其本人ヲシテ日本ノ公使又ハ領事若クハ本籍地ノ戶籍吏ニ其謄本ヲ差出サシムルハ之ヲ差出ササレハ實體法上ノ效力ヲ生セサルカ故ニアラス日本ニ於テモ其行爲ニ付キ身分登記ヲ爲シ其者ノ身分ヲ明確ナラシメンカ爲メニ外ナラス故ニ戶籍法ハ謄本ノ差出期間ヲ定メ其期間内ニ差出スヘキコトヲ戶籍法上ノ義務トシテ強制ス

(ロ) 本人カ法定ノ期間内ニ謄本ヲ差出ササルトキハ過料ニ處ストノ規定ナ

シ此場合ニ付キ過料ノ規定ヲ設ケサリシハ戶籍法ノ缺點ノ一ナリ

以上ノ場合ニ於テ公使又ハ領事カ受取リタル届書又ハ證書ノ謄本ハ其公使又ハ領事ヨリ三箇月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ之ヲ本人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送スルコトヲ要ス(戶第六一條)

戶籍吏カ外務大臣ヨリ届書又ハ證書ノ謄本ノ送付ヲ受ケ若クハ本人ヨリ證書ノ謄本ヲ受ケタルトキハ之ニ基キ身分登記ヲ爲スヲ要スルコトハ(元)ニ於テ之ヲ述ヘタリ

(覽)登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ關スル通則 登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ付キテハ届出ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノトス(戶第六七條)

(注意) 登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ付キテハ(元)ヲ參照スヘシ

第二節 出生ニ關スル届出

(吾)總論 本節ニ於テハ子ノ出生ニ關スル届出ノ手續即チ戶籍法第二章第二節ノ規定ヲ説明スヘシ

子トハ人ノ其親ニ對スル關係ニ基ク身分ナルカ故ニ子ノ出生トハ單ニ人カ出生シタルコトヲ謂フニアラス人カ出生シタルコトト其出生シタル人ハ何人ノ子ニシテ且ツ其親ニ對シテ如何ナル法律上ノ地位ヲ有スルモノナルヤト云フコトヲ包含スルモノトス隨テ戶籍法ハ子ノ出生ノ届出ニハ人ノ出生ニ關スル事實其人ノ名男女ノ別出生ノ年月日時及ヒ出生ノ場所ノミナラス其出生シタル人ノ親ノ氏名及ヒ親トノ法律的關係ヲモ記載スヘキモノトセリ

次ニ我國ニ在リテハ歐米諸國ト異ナリ尙ホ家族制度存スルヲ以テ日本人カ

出生シタルトキハ必ス家族制度ニ下ニ立テ一定ノ家ニ屬セタルヘカラス故ニ
 戶籍法ハ子ノ出生ニハ前段ニ説明シタル事項ノ外尙ホ其者ノ屬スル家ニ關ス
 ル事項モ記載スヘキモノトセリ
 之ヲ要スルニ子ノ出生ノ届出ニハ人ノ出生ニ關スル事實其モノト親トノ法律
 的關係親子ノ身分及ヒ其者ノ屬スル家ニ於ケル法律的關係(戶主家族タル身分)
 ヲ記載スヘキモノニシテ戶籍吏ハ届書ニ記載シアル事項ヲ登記スヘキモノナ
 ルカ故ニ子ノ出生ノ登記ハ此三種ノ事項ノ公ノ證明ナリ
 子ニ實子ト養子トハ二種アリ然ルニ養子タル身分ハ縁組ナル法律行為ニ因リ
 定マルモノニシテ出生ニ因リ定マルモノニアラス隨テ子ノ出生ト謂フトキハ
 常ニ必ス實子ノ出生ヲ指スモノトス
 民法ノ規定ニ依ルトキハ實子ニ嫡出子ト嫡出ニアラサル子トノ二種アリテ嫡
 出ニアラサル子ハ更ニ之ヲ父ノ知レタル私生子(父カ認知シタル私生子ヲ謂フ
 父カ私生子ヲ認知スルトキハ父ニ對シテハ之ヲ庶子ト謂フモ母ニ對シテハ尙
 ホ私生子ト謂フ)ト母ノ知レタル私生子(父カ認知シタル父母共ニ知レサル子(父カ認知シタ

ルトキハ父ニ對シテ庶子ト爲リ母カ認知シタルトキハ母ニ對シテ私生子ト爲
 ル)トノ三種ニ小別スヘキモノトス
 民法ニハ嫡出子ノ定義ヲ掲ケサルカ故ニ民法ニ所謂嫡出子トハ如何ナルモノ
 ヲ指スヤニ付キテハ我國ノ舊來ノ慣例ニ從フノ外ナシ然ルニ我國ノ舊來ノ慣
 例ニ於テハ妻カ婚姻中ニ懐胎シタル夫ノ子ハ勿論懐胎ノ當時父母ノ間ニ夫婦
 ノ關係ナキモ父母カ婚姻ヲ爲シタル後ニ於テ生レタル子ヲモ之ヲ嫡出子ト謂
 ヒタリ隨テ民法ニ所謂嫡出子トハ父母ノ婚姻中ニ懐胎シ父母ノ婚姻中又ハ其
 婚姻ノ解消後ニ出生シタル子及ヒ父母ノ婚姻前ニ懐胎シ父母ノ婚姻中又ハ其
 婚姻ノ解消後ニ出生シタル子ヲ總稱スト爲ササルヘカラス
 次ニ民法ニ於テハ嫡出子ニアラサル子ニシテ母カ知レタルトキハ之ヲ母ニ對
 シテ私生子ト謂フ私生子ハ父カ認知シタルトキ(即チ父カ知レタルトキ)ハ父ニ
 對シテハ庶子ト爲ルモ母ニ對シテハ依然トシテ私生子タリ故ニ父ニ對シテハ
 私生子ナルモノカ久母ニ對シテハ庶子ナルモノナシ
 (注意) (イ) 父母共ニ知レサル子ハ嫡出子ニモ庶子ニモ私生子ニモアラス

(ロ) 父ノ知レタル子ハ父ニ對シテハ嫡出子又ハ庶子ナラサルヘカラス母ノ知レタル子ハ母ニ對シテハ嫡出子又ハ私生子ナラサルヘカラス父母共ニ知レタル子ハ父ニ對シテ嫡出子ナルトキハ母ニ對シテモ亦嫡出子ナラサルヘカラス父ニ對シテ庶子ナルトキハ母ニ對シテハ私生子ナラサルヘカラス

(ハ) 嫡出子ニアラサル子ハ事實上父カ明カナル場合ト雖民法ハ之ノミヲ以テ父ノ知レタル子ト爲サス父カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ限リテ之ヲ父ノ知レタル子即チ庶子ト謂フ

(ニ) 事實上母カ明カナルトキハ母ノ知レタル子ト謂フ但父母共ニ知レサル子カ一家ヲ創立シタル後ニ在リテハ事實上母カ明カナルニ至ルモ母カ認知ノ届出ヲ爲スニアラサレハ民法ハ之ヲ以テ母ノ知レタル子ト爲サス

(ホ) 民法第七百三十三條乃至第七百三十五條第八百二十條乃至第八百三十六條ヲ參照スヘシ

(五) 子ノ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要スル場合ト然ラサル場合 航海日誌ヲ備ヘタル船舶ノ航海中ニ其船舶内ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ限リ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス(戸第七八條)其他ノ場合ニ在リテハ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

船舶ニハ航海日誌ヲ備フルコトヲ要スルモノト然ラサルモノトアリ而シテ如何ナル船舶ハ航海日誌ヲ備フルコトヲ要スルモノナルヤニ付キテハ商法其他ノ法令ノ定ムル所ニ從フヘキモノトス今商法ニ依ルトキハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スル船舶ニ在リテハ端舟其他櫓櫓ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫓ヲ以テ運轉スル舟ヲ除キタル以外ノ船舶ハ原則トシテハ航海日誌ヲ備フルコトヲ要スト爲シ外國ニ航行セサル船舶ニ限リ命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得ト爲セリ(商法第五三八條第五六二條)

(三) 子ノ出生ノ届出ヲ爲スヘキ者 嫡出子カ出生シタルトキハ父ハ其出生ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ但左ノ場合ニ在リテハ母カ之ヲ爲ス義務ヲ負フ(戸第七一條第一項)

甲、父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合 父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合トハ父ノ死亡不在、疾病其他ノ理由ニ因リ事實上到底父ヨリ届出ヲ爲スコト能

ハサルトキヲ謂フ父カ未成年者又ハ禁治産者ナル場合ニ在リテハ既ニ述ヘタル如ク戸籍法第四十六條ニ依リ父ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ父ノ後見人ヨリ届出ヲ爲スヘキカ故ニ母ヨリ届出ヲ爲スヘキ限ニ在ラス但父ニ對シ親權ヲ行フ者ナキカ若クハ未タ父ノ後見人ノ設アラサルトキ又ハ親權ヲ行フ者若クハ後見人アルモ此等ノ者カ不在、疾病其他ノ理由ニ因リ事實上届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ母ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

乙 民法第七百三十四條第一項及ヒ同條第二項但書ノ場合 民法第七百三十

四條第一項ノ場合即チ嫡出子ノ出生前ニ父ノミカ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リ母ハ尙ホ其家ニ在ル場合竝ニ同條第二項但書ノ場合即チ父母共ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルモ嫡出子ノ出生前ニ母ノミカ復籍ヲ爲シタル場合ニ在リテハ其子ハ懐胎ノ始ニ父カ屬シタル家ニ入ル換言スレハ出生ノ當時現ニ父カ屬スル家ニ入ラスシテ現ニ母カ屬スル家ニ入ルモノトス

通常ノ場合ニ在リテハ民法第七百三十三條第一項ノ規定ニ依リ嫡出子ハ出

生ノ當時父ノ屬スル家ニ入り父カ既ニ死亡シタルトキハ父ノ最後ニ屬シタル家ニ入ルモノナルヲ以テ父ヨリ出生ノ届出ヲ爲スヲ要スト爲シタルモ前ニ掲ケタル民法第七百三十四條第一項及ヒ第二項但書ノ場合ニ限リテハ其子ハ母ノ家ニ入ルヘキモノニシテ父ハ母ト家ヲ同シウモサルカ故ニ母ヲ以テ届出義務者ト爲シタルカリ
庶子カ出生シタルトキハ父ハ其出生ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ(戸第七一條第二項)

(注意) 戸籍法第七十一條第二項ニハ庶子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲スコトヲ要スト規定シアリ然ルニ私生子ハ父カ認知ヲ爲スコトニ因リテ庶子ト爲リ父ノ認知ハ戸籍吏ニ其届出ヲ爲スコトニ依リテ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ父カ民法第八百三十一條第一項及ヒ戸籍法第八十一條ノ規定ニ從ヒ子ノ出生前ニ認知ノ届出ヲ爲シタルトキハ其子ハ庶子トシテ出生シタルモノタリ隨テ父カ子ノ出生前ニ認知ヲ爲シタルトキハ父ヨリ庶子出生ノ届出ヲ爲スヲ要スルコトハ言フヲ竣タス

私生子出生後ニ父カ認知シタルトキハ其認知ハ出生ノ時ニ遡リテ效力ヲ生
 スルコトハ民法第八百三十二條ノ規定スル所ナリ然レトモ何人カ届出義務
 者ナルヤハ出生ノ當時ニ於テ定マリ出生ノ當時ニ於テ私生子ナルトキハ後
 ニ述フルカ如ク母カ届出義務者ト爲ルカ故ニ母カ一旦届出義務者ト爲リタ
 ル後換言スレハ私生子カ出生シタル後ハ假令父カ認知ノ届出ヲ爲シタルニ
 因リ其子ハ出生ノ當時ニ遡リテ庶子ト爲リタルトキト雖之ニ因リ母ハ始ヨ
 リ届出義務者ニアラサリシコトト爲リテ父ハ始ヨリ届出義務者タリシコト
 ト爲ルヘキ謂ナク又認知ノ届出アリタル時ニ於テ母ノ届出義務止ミ其時ヨ
 リ父カ届出義務ヲ負フニ至ルヘキ謂モナシ然レハ私生子出生後ニ父カ認知
 ノ届出ヲ爲スモ尙ホ父ハ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス結局其子ノ出生前
 ニ父カ認知ヲ爲シタル場合ニ限り父ヨリ庶子出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス
 ルモノトス

私生子(出生前ニ父ノ認知ナキ)カ出生シタルトキハ母ハ其出生ノ届出ヲ爲ス義
 務ヲ負フ(戸第七一條第二項)

(注意) 私生子出生シ其出生前ニ父ノ認知ナカリシトキハ母ハ届出義務者タ
 リ而シテ出生後ニ至リ父カ認知ヲ爲シタル爲メ其私生子ハ出生ノ時ニ遡リ
 テ庶子ト爲リタルトキト雖母ハ尙ホ届出義務者ニシテ父カ届出義務者ト爲
 ルコトナキコトハ既ニ之ヲ述ヘタリ此ノ如ク母ハ尙ホ届出義務者ナリトス
 レハ母ハ庶子トシテ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要スルカ將タ尙ホ私生子トシ
 テ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要スルカ決セサルヘカラス

母カ私生子出生ノ届出ヲ爲スヘキ義務ハ私生子出生ノ時ニ於テ定マル而シ
 テ其届出義務ハ私生子カ父ノ認知ニ因リ庶子ト爲リタル爲メ庶子出生ノ届
 出ヲ爲スヘキ義務ヲ變更スヘキモノニアラス故ニ私生子出生ノ届出前ニ其
 要シ庶子出生ノ届出ヲ爲スヘキ限ニ在ラス

右ニ掲ケタル區別ニ從ヒ父又ハ母ヨリ出生ノ届出ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其者
 ヲリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ左ニ掲クル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス
 義務ヲ負ス

第二項 子ノ家ノ戸主

第三項 子ノ同居者... 第三項 分娩... 第四項 分娩... 同順位ノ者數大ナル者...

届出義務者中ノ一人... (戶籍法第七十條第三項)...

(注意) (イ) 父カ庶子出生... 母カ私生子出生ノ届出...

(ロ) 戶籍法第七十一條第三項... 届出ヲ爲スルニ關シ...

ラサレシ其家ニ入ルヲ得サルコトハ民法第七百三十五條ノ規定スルコト... 大ナル故ニ庶子又ハ私生子ハ届出ヲ爲スルニ關シ...

務ヲ免ルルコトナク月主其他ノ者カ届出義務者ト爲ルコトナシ
以上ニ於テ嫡出子庶子及ヒ私生子出生ノ場合ニ於ケル届出義務者ヲ説明シタ
リ然ルニ出生シタル子カ嫡出子ナルカ然ラサルカ未タ確定セサル場合ト何
人ノ嫡出子ナルカ未タ定マラサル場合トアリ此二箇ノ場合ニ在リテハ前ニ述
ヘタル法則ニ依リ届出義務者ヲ定ムルニ由ナキカ故ニ戸籍法ハ特別ノ規定ヲ
設ケタリ即チ左ノ如シ

甲 夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セシトスル場合ト雖嫡出子出生ノ届出
ヲ爲ス義務ヲ負フ(戸第七二條) 民法第八百二十條ニハ「妻カ婚姻中ニ懐胎シ
タル子ハ夫ノ子ト推定ス婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ
取消ノ日ヨリ三百日内ニ生マレタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス」
ト在リテ同法第八百二十二條ニハ「第八百二十條ノ場合ニ於テハ夫ハ子ノ嫡
出ナルコトヲ否認スルコトヲ得」ト規定セリ故ニ民法第八百二十條ノ場合ニ
於テハ同法第八百二十五條第八百二十六條ニ定メタル出訴期限内ニ夫カ否
認ノ訴ヲ提起セサルカ否認ノ訴ノ判決ガ確定スルカ又ハ夫カ同法第八百二

十四條ノ規定ニ依リ否認權ヲ失フカニアラサレハ子カ嫡出子ナルカ將タ妻
ノ私生子ナルカハ確定シタリト言フヲ得ス隨テ此場合ニ在リテハ嫡出子ト
シテ出生ノ届出ヲ爲スヘキカ私生子トシテ出生ノ届出ヲ爲スヘキカハ未タ
確定セサルヲ以テ戸籍法ハ第七十二條ノ規定ヲ設ケタルナリ
前ニ述ヘタル如ク夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスルトキト雖公
法上ノ義務トシテ嫡出子出生ノ届出ヲ爲ササルヘカラサルカ故ニ此届出ヲ
爲シタレハトテ子ノ嫡出ナルコトヲ承認シタリト爲スヲ得ス然レハ此届出
ヲ爲スモ夫ハ否認權ヲ失フコトナキハ言フマテモナシ(民法第八三四條參照)
乙 民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキトキハ
母ハ出生ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ(戸第七三條第一項) 女ハ前婚ノ解消又ハ
取消ノ日ヨリ六箇月ヲ經過シタル後ニアラサレハ再婚ヲ爲スコトヲ得サル
ハ民法第七百六十七條第一項ノ規定スル所ナルモ此規定ニ違反シテ女カ再
婚ヲ爲ス場合ニ於テ戸籍吏カ婚姻ノ届出ヲ受理シタル下キハ其婚姻ニ成立
スルニ至ルニ至ラズニテハ戸籍法ハ再婚ノ届出ヲ受理スルコトヲ許ス

民法第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ其子ノ父ハ前夫ナラカ後夫ナルカ將タ其孰レノ子ニモアラザルカハ民法第八百二十條ノ規定ニ依リ之ヲ推定スヘキモノトス然ルニ同條ノ規定ニ依ルトキハ前夫及ヒ後夫ノ子ナリト推定セラレ(同條ニハ「婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス」婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生マレタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス)ト規定シアルカ故ニ前婚ノ解消後三百日内再婚ノ成立後二百日内ニ生レタル子ノ如キハ前夫及ヒ後夫ノ子ナリト推定サル爲メニ其父ヲ定ムル能ハサルコトアリ

民法第七百六十七條第二項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ同法第八百二十條ニ依リ其父ヲ推定スル能ハサルトキハ同法第八百二十一條ニ依リ裁判所之ヲ定ムルモノトス

前掲ノ場合ニ在リテハ裁判所ノ判決確定スルマテハ子ノ父定マラス然ルニ出生シ届出期間内ニ判決カ確定スルコトハ到底豫期スヘカラス隨テ父ヲ以

テ届出義務者ト爲スニ由ナシ故ニ戸籍法ハ第七十三條第一項ニ特別ノ規定ヲ設ケ母ヲ以テ届出義務者ト爲シタリ

女カ重婚ヲ爲シタル場合ニ於テ其分娩シタル子ハ民法第八百二十條ノ規定アル爲メ初婚ノ夫又ハ再婚ノ夫ノ子ナリト推定サルコトアリ此場合ニ於テ其父ヲ定ムル方法ニ付キ民法ニ特別ノ規定ヲ設ケサリシハ缺點ナリ

民法ニ特別ノ規定ヲ缺キタル結果戸籍法ニモ其出生ノ届出義務者ニ付キ特別ノ規定ヲ缺ク故ニ初婚ノ夫及ヒ再婚ノ夫ハ各別ニ嫡出子出生ノ届出ヲ爲ササルヘカラス即チ二重ノ届出アルコトヲ要ス(初婚ノ夫又ハ再婚ノ夫カ自己ノ嫡出子ナルコトヲ否認セシトスル場合亦同シ)

(丑)届出期間ハ子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸籍法第六八條)

(酉)出生ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ハ其本籍地ニ在リ

(一)嫡出子出生ノ届出ニ關シ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(戸籍法第六九條第二項)

(注意) (イ) 通常之場合ニ在リテハ嫡出子ノ父ト母トハ其家ヲ同シウスレトモ婚姻ノ取消又ハ解消後ニ子カ出生シタル如キ場合ニ在リテハ父ト母トハ其家ヲ異ニス而シテ父ト母トカ其家ヲ異ニスルトキハ其本籍地ヲモ異ニスルコトアリ例ヘハ離婚後父ハ神田區ニ本籍ヲ有シ母ハ本所區ニ本籍ヲ有スルトキノ如キ是ナリ

(ロ) 父ト母トノ本籍地カ異ナルトキハ嫡出子出生ノ届出ハ父ノ本籍地又ハ母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ得

(ハ) 父ト母トノ寄留地カ異ナルトキハ嫡出子出生ノ届出ハ父ノ寄留地又ハ母ノ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ得

(ニ) 庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ニ付キテハ民法第七百三十五條ヲ參照スヘシ

(注意) (イ) 父ト母トノ本籍地カ異ナル場合及ヒ父ト母トノ寄留地カ異ナル場合ニ付キテハ前(イ)及前(ロ)ヲ參照ス

(ロ) 父ト母トノ寄留地カ異ナル場合ニ付キテハ前(イ)及前(ロ)ヲ參照ス

(ハ) 父ト母トノ寄留地カ異ナル場合ニ付キテハ前(イ)及前(ロ)ヲ參照ス

(ニ) 庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ニ付キテハ民法第七百三十五條ヲ參照スヘシ

私生子又ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル庶子ノ出生ノ届出ハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(戸第六九條第三項)

汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ子ノ出生スル場合ニ於ケル其届出ニ付キテハ其汽車又ハ其船舶ノ到着地ヲ以テ其子ノ出生地ト看做ス(戸第七〇條)

(注意) 航海日誌ヲ備ヘタル船舶ニ付キテハ戸籍法第七十八條ニ特別ノ規定アリ

管轄權ナキ戸籍吏ニ出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ其戸籍吏ハ届出ヲ受理スルヲ得ス戸籍法第六十九條ノ規定ニ違反スルモノトシテ其届出ヲ却下スルコトヲ要ス然レトモ戸籍吏カ管轄權ナキニ拘ラス其届出ヲ受理シタルトキハ其戸籍吏ハ出生ノ身分登記ヲ爲スコトヲ要スルモノトス而シテ管轄權ナキ戸籍吏カ其届出ヲ受理シタル後ハ届出義務者ハ管轄權アル戸籍吏ニ更ニ届出ヲ爲ス

義務ナシ

(五) 出生ノ届出ニ具備スヘキ要件 出生ノ届出ハ届出ニ關スル通則ノ規定ニ從テ外左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス(戸第六八條)

一 子ノ名及ヒ男女ノ別

(注意) (イ) 子ガ出生シタル場合ニ何人カ之ニ命名スヘキヤニ付キテハ特別ノ法令ナキモ子ハ出生ノ届出義務者カ之ニ命名スヘキモノナリト信ス

名ハ人ノ表示ナルカ故ニ出生ノ届書ニ子ノ名ノ記載ナキトキハ其生レタル

子ハ何人ナルヤ明カナラス隨テ戸籍吏ハ戸籍法第五十條但書ノ規定ニ依リ

其届出ヲ受理スルコトヲ得ス今若シ届出義務者ニアラサル或人カ命名權ヲ

有ストスレバ其或人カ既ニ死亡シタル場合又ハ名ヲ命セサル場合ニ在リテ

ハ届出義務者ハ届書ニ子ノ名ヲ記載スルニ由ナク到底適法ナル届出ヲ爲ス

ヲ得サルヘシ然ルニ届出義務者カ法定ノ期間内ニ届出ヲ爲サント欲スルモ

命名權ヲ有スル或人カ未タ子ニ命名セサル爲メ届出ヲ爲スコトヲ得サルカ

如キハ戸籍法ニ於テ出生ノ届出義務者ヲ定メタル趣旨ニ反ス之ヲ要スルニ

子ハ戸籍法ニ於テ届出義務者ヲ定メタル趣旨ヨリ推究シ届出義務者ヲ以テ

命名權者ナリト論定スルヲ正當ナリト信ス

(ロ) 命名ハ出生ノ届出ナル方式ニ依ルコトヲ要スル意思表示ナリ故ニ届出

ニ義務者カ出生ノ届出前ニ子ニ名ヲ命スルモ無効ナリ換言スレバ出生ノ届出

前ニ在リテハ子ニ名ナシ

出生ノ届出ヲ爲シタル後ハ地方長官ノ許可ヲ得ルニアラサレバ名ヲ改稱ス

ルコトヲ得ス(明治五年八月第二三五條布告)

(ハ) 名ハ一定ノ文字ヲ以テ表示スヘキモノニシテ發音ヲ以テ表示スヘキモ

ノニアラス故ニ例ヘハ出生ノ届書ニ子ノ名ヲ「ウメ」ト記載シ在ル場合ニ於テ

ハ其子ノ名ハ「ウメ」ナリ發音相通スルノ故ヲ以テ「梅」又ハ「うめ」ナル文字ヲ流用

スルコトヲ得ス

(ニ) 名ニ用ユル文字ニ付キテハ左ノ二ノ場合ノ外制限ナシ

一 御歴代ノ御諱並ニ御名ニ其熟字ノ儘之ヲ名ニ用ユルコトヲ得ス(明治

六年三月布告第一八號)

戸籍法 身分登記 身分ニ關スル届出 出生ニ關スル届出

二六 國名舊官名ヲ名ニ用キルコトヲ得ス(明治三年十一月十九日布告)

戸籍法實施前ニ在リテハ女ノ名ハ府縣ニ依リテハ專ラ假名文字ヲ用キタル慣例アリ然レトモ女ノ名ニハ漢字ヲ用ユルカラストハ法令ナシ

(ホ) 女ノ名ニ漢字ヲ用ユル場合ニ於テハ之ニ傍訓ヲ附セシムヘシト爲ス説アリ然レトモ戸籍法ニハ女ノ名ニハ傍訓ヲ附スヘシトノ規定ナキハ勿論既ニ述ヘタル如ク名ハ文字ヲ以テ表示スヘキモノニシテ發音ヲ以テ表示スヘキモノニアラサルカ故ニ予ハ傍訓ヲ附セシムヘキモノニアラスト信ス

(ハ) 男女ノ別カ明カナラサルトキアリ(例ヘハ醫家ノ所謂半陰陽ナルトキ)此場合ニ於テハ出生ノ届書ニハ戸籍法第五十條ノ規定ニ從ヒ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者(ナルトキハ其旨)

(注意) (イ) 子カ嫡出子ナルカ庶子ナルカ私生子ナルカハ出生ノ届出ニ付キテハ出生ノ時ヲ以テ定ムヘキモノニシテ届出ノ時ヲ以テ定ムルキモノニアラズ

ス此事ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ニ付キテハ其旨ヲ記載セシメ出生後ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ニ付キテハ其旨ヲ記載セシメサル趣旨ヨリ推スモ明カナリ故ニ例ヘハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル子ノ出生ノ届出前ニ父母カ婚姻ヲ爲シ其庶子ハ之ニ因リ嫡出子ト爲リタルトキト雖仍ホ庶子出生ノ届出ヲ爲ササルヘカラスト(ロ) 嫡出子出生ノ届出ニ在リテハ其嫡出子ナルコトヲ記載スルコトヲ要セ(ハ) 私生子又ハ庶子ナル旨ノ記載ナキトキハ嫡出子出生ノ届出ナリ(イ) 夫カ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ニ於テ爲スヘキ出生ノ届出ハ嫡出子出生ノ届出ナリ(前(三)參照)何トナレハ夫ハ否認ノ訴ニ依ル外自己ノ子ニアラサルコトヲ主張スルヲ得サレハナリ(民法第八二三條)

(ニ) 民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキ場合ニ於テ爲ス届出モ亦嫡出子ノ届出ナリ(前(三)參照)何トナレハ此場合ニ在リテハ裁判所カ判決アルマテ子ノ父定マラスト雖而モ民法第二百十條ノ規定ニ依リ其子ハ前婚ノ夫及ヒ後婚ノ夫ノ子ナリト推定セラルルカ故ナリ然ルニ

之ニ反シテ若シ適出子出生ノ届出ヲ爲スヘキモノニアラストスレハ其特別ノ届出ニ付キ管轄戸籍吏ノ定ナキカ故ニ届出ヲ爲ス能ハサルニ至ルナルヘシ(戸籍法ニハ嫡出子出生ノ届出庶子出生ノ届出及ヒ私生子出生ノ届出ニ付キテノミ管轄戸籍吏ノ定アリ前(番)参照)但此場合ニ在リテハ届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第七三條第一項末段)

(ホ) 庶子出生ノ届出ハ父カ民法第八百三十一條ノ規定ニ依ツテ子カ胎内ニ在ル間ニ之ヲ認知シタル場合ニ限ル

出生後ニ父カ認知シタル場合ニ在リテハ出生ノ時ニ於テハ子ハ私生子ナリ故ニ庶子出生ノ届出ヲ爲スコトヲ得ス

三 出生ノ年月日時及ヒ場所
庶子出生ノ届出ニハ子カ出生前ニ認知セラレタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

四 父母ノ氏名族稱職業及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏名族稱職業及ヒ本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス

(注意) 戸籍法實施後ハ本籍ハ土地ニ依リテ定ムヘシ隨テ地番號ヲ以テ之ヲ

表示スヘキモノナリ(第一七〇條第一七一條)

戸籍法實施前ニ在リテハ戸番號ヲ以テ本籍ヲ表示シタル府縣アリタリ例ヘハ何番屋敷ト曰ヒ何番戸ト曰フカ如キ是ナリ)而シテ此ノ如キ府縣ニ本籍ヲ

有スル者ニ付キテハ戸籍法實施後ト雖戸籍ノ改製セラレサル限リハ本籍ハ戸番號ヲ以テ之ヲ表示スルコトヲ妨ケストノ説アリ(甲府區裁判所監督判事

ノ問合ニ對スル明治三十一年八月三日附民刑局長回答等然レトモ戸籍法ニ於テ本籍ハ土地ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノト爲シタル以上ハ從來戸番號ニ依

リタル府縣ニ本籍ヲ有スル者ニ付キテモ戸籍法實施後ハ地番號ニ依リ本籍ヲ表示スヘキモノト爲ササルヘカラス何トナレハ戸番號ハ土地ノ番號ニア

ラスシテ家ノ番號ナレハナリ

五 出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名族稱職業及ヒ本籍地

(注意) (イ) 子ノ屬スヘキ家ハ民法第七百三十三條乃至第七百三十五條ノ規定ニ依リ出生ノ時ニ於テ定マル一旦定マリタル後ハ親族入籍養子縁組其他民法親族編又ハ相續編ニ定メタル方法ニ依ルノ外他ノ家ニ轉屬スヘキコト

- カシ 嫡出子カ出生シタル場合ニ於テ其入ルヘキ家ハ民法第七百三十三條第一項及ヒ第七百三十四條ノ規定ニ依リテ定マル
- (ハ) 戸主ノ庶子ニシテ胎内ニ在ル間ニ認知セラレタル者又ハ胎内ニ在ル間ニ認知セラレタル家族ノ庶子ニシテ父ノ家ノ戸主カ其家ニ入ルコトニ付キ出生前ニ同意ヲ爲シタル者カ出生シタルトキハ民法第七百三十三條第一項又ハ第七百三十五條第一項ノ規定ニ因リテ父ノ家ニ入ルモ出生後ノ認知ニ因リ庶子ト爲リタル者ハ民法第七百三十三條第一項又ハ第七百三十五條第一項ノ規定ニ因リテ父ノ家ニ入ルコトヲ得ス
- 但戸主ノ庶子ニ限リ出生後ニ認知セラレタルトキト雖父ノ家ニ入ルコトアリ私生子認知ノ届出ノ節ニ至リテ之ヲ説明スヘシ
- (ニ) 嫡出子ニアラサル子ニシテ胎内ニ在ル間ニ認知セラレナリシ者ハ出生ノ時ニ於テハ私生子ナリ故ニ母ノ家ニ入ル但母カ家族ナル場合ニ於テ母ノ家ノ戸主カ私生子ノ其家ニ入ルコトニ付キ出生前ニ同意ヲ爲ササリシトキ

ハ其私生子ハ母ノ家ニ入ルコトヲ得スシテ一家ヲ創立ス(民法第七三三條第

二項、第七三五條第一項、第三項)

- (ホ) 胎内ニ在ル間ニ認知セラレタル家族ノ庶子ニシテ戸主カ其出生前ニ同意ヲ爲ササリシ爲メ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル者ハ母ノ家ニ入ル但母ノ家ノ戸主カ其出生前ニ同意ヲ爲ササリシトキハ母ノ家ニ入ルコトヲ得スシテ一家ヲ創立ス(民法第七三五條)
- (ヘ) 家族ノ庶子又ハ家族ノ私生子カ父又ハ母ノ家ニ入ルニハ其家ノ戸主カ出生前ニ同意ヲ爲シタルトキハ要スルハ縦令出生後戸主ノ同意アルニ至ルモ其同意ハ出生ノ時ニ遡リテ其效カヲ生スルコトヲキカ故ニ其子ハ出生ノ時ニ於テ戸主ノ同意ナキモノトシテ其所屬ノ家定マルヘキヲ以テナリ
- (ト) 出生後ニ至リ父カ認知シタル庶子ハ其出生後ノ認知ニ因リ母ノ家ヲ去リ又ハ其一旦創立シタル家ヲ去リテ父ノ家ニ轉屬スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付キテハ私生子認知ノ届出ノ節ニ於テ之ヲ説明スベシ
- (チ) 家族ノ私生子カ母ノ家ニ入ルコトニ付キ母ノ家ノ戸主カ出生後ニ至リ

同意ヲ爲スモ之ヲミニ因リテハ其私生子ハ一旦創立シタル家ヲ去リテ母ノ家ニ轉屬スルコトヲ得ヘキモノニアラス出生後ニ至リ母ノ家ノ戸主ノ同意アルモ戸籍法第百四十六條ニ規定シタル入籍ノ手續ヲ爲スニアラサレハ母ノ家ニ轉屬スルコトヲ得ズ

家族ノ庶子カ父ノ家ニ入ルコトニ付キ父ノ家ノ戸主カ出生後ニ至リ同意ヲ爲シタル場合若クハ母ノ家ニ入ルコトニ付キ母ノ家ノ戸主カ出生後ニ至リ同意ヲ爲シタル場合モ亦前同様ナリ

六 出生子カ一家ヲ創立スル者ナルトキハ其旨及ビ創立ノ原因

(注意) (イ) 出生子カ一家ヲ創立スルヤ否ヤハ出生ノ時ニ於テ定マル

出生子カ一家ヲ創立スルキ場合ハ左ノ如シ

- 一 出生子ノ父母共ニ知レサルトキ(民法第七三三條第三項)
- 二 家族ノ庶子カ出生前ニ戸主ノ同意ヲキカ爲メ父又ハ母ノ家ニ入ルヲ得サルトキ(民法第七三五條)
- 三 其家族ノ私生子カ出生前ニ戸主ノ同意ヲキカ爲メ母ノ家ニ入ルヲ得サルトキ(同上)

(ロ) 戸籍法ニハ特別ノ規定ナキモ出生子カ一家ヲ創立スル場合ニ在リテハ出生ノ届書ニハ其創立シタル家ノ氏ヲ記載スルコトヲ要ス

出生子カ一家ヲ創立スル場合ニ於テハ其家ノ氏ハ父又ハ母ノ家ノ氏ニ從フヘキモノナリトノ説アレドモ創立シタル家ハ父又ハ母ノ家ト何等ノ關係ナキモノナルカ故ニ父又ハ母ノ家ノ氏ニ從フヘキ限ニ在ラス隨意ニ其氏ヲ選定スルヲ得ト爲スラ正當ナリト信ス(香川縣鶴足郡岡田村戸籍吏代理助役ノ伺ニ對スル明治三十一年十月四日附民刑局長ノ回答ヲ予ト同説ヲ採ル)

出生子カ一家ヲ創立スル場合ニ於テ何人カ其氏ヲ選定スヘキヤニ付キ特別ノ規定ナキモ予ハ届出義務者ニ於テ之ヲ選定スヘキモノナリト信ス

(ハ) 出生子カ一家ヲ創立スル場合ニ在リテハ其者ノ本籍地ハ父又ハ母ノ本籍地ニ從フヘキ限ニ在ラス何トナレハ父又ハ母ノ家ニ入ルニアラサルカ故ナリ

此場合ニ於テ何地ヲ以テ本籍地ト爲スヘキカ又何人カ之ヲ定ムルコトヲ得

ルカニ付キテハ特別ノ規定ナキモ子ハ届出義務者カ出生子ノ本籍地ヲ定ム
ヘキモノニシテ何地ヲ選フカハ其隨意ナリト爲スヲ正當ナリト信ス
戸籍法ニハ特別ノ規定ナキモ此場合ニ在リテハ出生ノ届書ニハ出生子ノ本
籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

(ニ) 出生子カ一家ヲ創立セスシテ父又ハ母ノ家ニ入ル場合ニ在リテハ出生
子ノ本籍地ハ其入ル家ノ戸主ノ本籍地ニ從フヘキモノナリ故ニ此場合ニ在
リテハ届書ニ出生子ノ本籍地ヲ特ニ記載スルコトヲ要セス

七 国籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

(注意) (イ) 国籍ヲ有セサル者トハ日本ノ国籍ヲ有セサルヲ謂フ
父又ハ母カ日本ノ国籍ヲ有セサルトキハ其有スル国籍ヲ記載スルコトヲ要
シ国籍カ明カナラサルトキ又ハ何國ノ国籍ヲ有セサルトキハ其旨ヲ記載
スルコトヲ要ス

(ロ) 出生子ノ国籍ハ左ノ規定ニ依リテ定マル
国籍法第一條 子ハ出生ノ時其父カ日本人ナルトキハ之ヲ日本人トス其生

前ニ死亡シタル父カ死亡ノ時日本人ナリシトキ亦同シ

同法第二條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ国籍ヲ失ヒタ
ルトキハ前條ノ規定ハ懐胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ
出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

同法第三條 父カ知レサル場合又ハ国籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人
ナルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス

同法第四條 日本ニ於テ生マレタル子ノ父母共ニ知レサルトキ又ハ国籍ヲ
有セサルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス

(右国籍法第三條、第四條ニ国籍ヲ有セサルトキトアルハ何國ノ国籍ヲ有セ
サルトキヲ謂ヒ日本ノ国籍ヲ有セサルトキヲ謂フニアラス)

要スルニ出生子ノ国籍ハ父又ハ母ノ国籍ニ依リテ定マリ父又ハ母ノ国籍カ
知レサルトキ又ハ何國ノ国籍ヲモ有セサルトキハ出生地ニ依リテ定マル故
ニ「国籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨ヲ届書ニ記載セシメ出生地ヲモ記

職セシムル要アリ

(ハ) 日本ノ国籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨ヲ記載セシムルハ出生子ノ国籍ヲ明カニセンカ爲メナリ故ニ父母カ国籍ヲ有スルヤ否ヤハ出生ノ届出ニ付キテハ子ノ出生ノ時ニ依リ之ヲ定メサルヘカラス但国籍法第二條ノ場合ニ在リテハ子ノ出生ノ時ニ於ケル父母ノ国籍ノミナラス子ノ国籍ヲ定ムルニ付キ必要ナル事項ハ總テ之ヲ記載スルコトヲ要ス

(ニ) 父母ノ国籍ニ付キ届書ニ特別ノ記載ナキトキハ日本人ナリト認ムルキモノナリ

出生ノ届出ニ其要件ヲ具備セザルトキハ戸籍吏ハ戸籍法第五十條ノ區別ニ從ヒ其届出ヲ却下スヘキモノトス故ニ例ヘハ出生子カ庶子ナルニ拘ラス嫡出子出生ノ届出アリタルトキハ如キハ戸籍吏之ヲ受理スルコトヲ得ス

(英) 裁判所カ父ヲ定ムヘキ場合 (前(五)第一〇五頁ノ乙参照)ニ在リテハ子母ハ配偶者即チ後夫又ハ母ノ前配偶者即チ前夫トシテ之ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ヲ提起スルコトヲ得ベク此訴ニ於テ裁判所ハ判決ヲ以テ前夫若クハ後夫ヲ父ナリト定メ又ハ其孰レノ子ニモアラサルコトヲ宣言ス縱令審理ノ結果前夫若クハ後夫ノ子ニアラスシテ他ノ男ノ子ナルコトヲ知ルヲ得タルトキト雖其者ヲ以テ父ナリト定ムルコトヲ得ス(此訴ヲ訴訟手續ニ付キテハ人事訴訟手續法第二章参照)

(注意) 若シ他ノ男ノ子ナルトキハ母カ其男ト私通シテ生ミタル私生子タリ然ルニ此訴ハ子カ前夫ノ嫡出子ナルカ後夫ノ嫡出子ナルカ將タ又其孰レノ嫡出子ニモアラサルカヲ定ムルコトヲ目的トスルモノニシテ私生子認知ノ訴ノ如ク私生子ト其父トノ關係ヲ定ムルコトヲ目的トスルモノニアラス故ニ子カ他ノ男ノ子ナルトキハ裁判所ハ子カ前夫ノ子ニモ後夫ノ子ニモアラサルコトヲ宣言スルヲ得ルニ過キス

民法第八百二十二條ノ規定ニ依リ裁判所カ子ノ父ヲ定ムヘキトキハ其子ノ出生ノ届出ニ母ヨリ之ヲ爲スヘキモノナルコトハ(五)ニ於テ之ヲ説明シタリ然ルニ母カ此届出ヲ爲シタル後父カ裁判ニ依リテ定マラザルトキハ其父ハ裁判確

定ノ日ヨリ一箇月内ニ(五)ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ出生ノ届出ヲ爲シ且ツ前ニ母ノ届出ニ依リテ爲シアル出生ノ身分登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要スルモノトス(戸第七三條第二項)

又若シ母カ未タ届出ヲ爲ササル前ニ父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月内ニ(五)ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ出生ノ届出ヲ爲セハ足ルモノトス(同上)

(五)棄兒ノ發見 棄兒トハ父母ノ知レサル子ニシテ且ツ未タ出生ノ身分登記ナキ者ヲ謂フ何歳マテノ者ハ棄兒トシテ取扱フヘキモノナルヤニ付キテハ法令ノ存スル大正明治六年四月布告第三百三十八號ニ依ルトキハ棄兒ハ十三歳マテハ國庫ヨリ養育料ヲ受クヘキモノナルカ故ニ十三歳以下ト十三歳以上トヲ以テ棄兒ト棄兒ニアラサル者トヲ區別スヘキ標準ト爲スノ說アリ然レトモ棄兒ニ關スル各般ノ制度ヲ設ケタルハ(一)父母ノ知レサル子ノ身分ヲ明確ニスル必要ト(二)其子ノ養育料ノ負擔及ヒ其養育ノ方法ヲ定ムル必要トニ出テタルモノナル而シテ父母ノ知レサル子ノ年齢カ十三歳以上ナルト以下ナルトハ其養育料ノ負擔及ヒ養育ノ方法ニ關シ差異アリト雖其身分ヲ明確ニスル必要アル點ニ於テハ何等ノ差異アルコトナシ然レバ十三歳以下ノ者ニ限り國庫ヨリ養育料ヲ受クルヲ得トノ理由ニ據リ十三歳ヲ以テ棄兒ト棄兒ニアラサル者トヲ區別スルハ其謂レナシトス

後ニ述フル如ク棄兒ヲ發見シタル者ハ其届出ヲ爲スコトヲ要ス棄兒發見ノ届出ノ制度ヲ設ケタルハ父母ノ知レサル子ハ前(五)マテニ説明シタル出生ノ届出以外ノ方法ニ依リ其身分ヲ明確ニスル必要アルカ爲メナリ然レハ苟モ此必要ニシテ消滅セサル限リハ其年齢ノ如何ニ拘ラス其子ハ少クモ戸籍ニ於テハ之ヲ棄兒ナリトシテ取扱フサルヘカラス

父母ノ知レサル子ニ付キ棄兒發見ノ届出ヲ爲サシムル必要アル場合ト其必要ナキ場合トハ區別ニ付キ按ズルニ左ノ二ノ場合ニ在リテハ其必要ナシ

第一 既ニ出生ノ身分登記又ハ棄兒發見ノ身分登記アル子ニ此ノ如キ子ニ付キテハ更ニ棄兒發見ノ登記ヲ爲ササルモ其者ノ身分ハ明確ナリ

第二 未タ出生ノ身分登記又ハ棄兒發見ノ身分登記ナキ其子カ戸籍法第百

九十七條ノ規定ニ依リ就籍ノ届出ヲ爲スヲ得ル意思能力アルトキ
 届出ノ闕漏其他ノ事由ニ因リ本籍ヲ有セサル者ハ戸籍法第九十七條ニ依
 リ就籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス然ルニ父母ノ知レサル子ニシテ未タ出生ノ
 身分登記又ハ棄兒發見ノ身分登記ナキトキハ其子ハ未タ本籍ヲ有セサル者
 ナルカ故ニ就籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要シ就籍ノ届出ニハ戸籍法第九十八
 條ノ規定ニ依リ其身分關係ヲ記載スヘキモノナルカ故ニ就籍ノ届出ヲ爲ス
 ニ於テハ其身分ハ明確ト爲ルヘキモノナリ
 就籍ノ届出ハ意思能力ナキ者ハ事實上之ヲ爲スコト能ハサルハ言フマテモ
 ナシ然レトモ苟モ意思能力アル以上ハ其年齢ニ拘ラス之ヲ爲スコトヲ妨ケ
 ス
 父母ノ知レサル子カ就籍ノ届出ヲ爲スニ足ル意思能力アルトキハ自ラ就籍
 ノ届出ヲ爲シ自己ノ身分ヲ明確ニスルコトヲ得然レバ此ノ如キ場合ニハ他
 人ニ棄兒發見ノ届出ヲ爲スヘキ義務ヲ負ハシムルニ必要ナシト爲ササルヘ
 カラス

以上第一、第二ノ場合ニ當ラサル父母ノ知レサル子ニ付キテハ其年齢ノ如何ニ
 拘ラス棄兒發見ノ届出ヲ爲スヘキモノナリト爲スヲ予ハ戸籍法ノ精神ニ適合
 スト信ス隨テ例ヘハ父母ノ知レサル子ノ年齢カ既ニ三四十歳ニ達シタルトキ
 ト雖其者ニ付キ未タ出生ノ身分登記又ハ棄兒發見ノ身分登記ナク且ツ其者ハ
 白痴ニシテ自ラ就籍ノ届出ヲ爲スコト能ハサルカ如キ場合ニ在リテハ尙ホ其
 者ニ付キ棄兒發見ノ届出ヲ爲スコトヲ要スルモノトス
 棄兒ヲ發見シタル者ハ其發見シタル時ヨリ二十四時間内ニ其旨ヲ戸籍吏ニ届
 出ツルコトヲ要ス(戸第七五條第一項)

棄兒發見ノ届出ニ付キテハ戸籍吏ノ管轄ニ關シテハ戸籍法ニ別段ノ規定ナキ
 カ故ニ其發見シタル地ノ戸籍吏ニ之ヲ届出ツルコトヲ要スルモノナリト解セ
 ツルヘカラス
 棄兒發見ノ届出アリタルトキハ戸籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且ツ之ニ附屬スル
 衣服物品發見ノ場所年月日時其他ノ景況並ニ其兒ノ出生ヲ推定年月氏名男女
 ノ別引受人ノ氏名職業本籍地及ヒ所在地又ハ育兒院ノ稱號並ニ場所及ヒ引渡

ノ年月日ヲ調査ニ記載シ之ヲ届書ニ添ヘ置ク事ト要ス(第七五條第二項)

(注意) (イ) 出生ノ届出ナキ子ニ在リテハ未タ公認ノ名ナシ且ツ棄兒ハ父母

ノ知レサル子ニシテ一家ヲ創立スヘキ者ナルカ故ニ未タ氏ナシ是ヲ以テ戸

籍吏ヲシテ其子ニ氏名ヲ命セシムルナリ

(ロ) 附屬スル衣服其他ヲ調査ニ記載セシムルハ他日父又ハ母カ現出シテ其

子ヲ引取ルコトアルヘキヲ慮リ父又ハ母ヲシテ自己ノ子ナルコトヲ確知ス

ルヲ得セシムル便宜ヲ與ヘン爲メナリ

(ハ) 棄兒ノ出生ノ年月日ニシテ若シ明確ナルトキハ調査ニ之ヲ記載スヘキ

事トス然レドモ通例ハ其出生ノ年月日明確ナラサルモノトス故ニ其明確

ナラサル場合ニ在リテハ戸籍吏ヲシテ其棄兒ノ身體ノ發育等ノ情況ニ依リ

出生ノ年月ヲ推定セシメ之ヲ調査ニ記載セシムルナリ

(ニ) 棄兒發見ノ届出アリタルトキハ一私人若クハ公設又ハ私設ノ育兒院ヲ

シテ其養育ヲ取扱ハシム一私人ヲシテ之ヲ取扱ハシムルトキハ其一私人ヲ

引受人ト曰フ

前項ニ依リ戸籍吏カ作製シタル調査ハ身分登記ニ付キテハ之ヲ届書ト看做シ

(戸第七五條第四項)其調査ニ基キ戸籍吏ヲシテ棄兒發見ノ身分登記ヲ爲サシメ

且ツ棄兒カ日本人ナルトキハ戸籍吏ヲシテ戸籍ヲ作ラシム

(注意) (イ) 棄兒ハ父母ノ知レサル子ナルカ故ニ一家ヲ創立ス然レドモ棄兒

發見ノ届出アリタルトキハ戸籍吏ハ調査ヲ作り之ニ基キ身分登記ヲ爲シ戸

籍ヲ作ルヘキモノナルヲ以テ別ニ一家創立ノ届出及ヒ登記ヲ爲スコトヲ要

セス

(ロ) 身分登記簿ニ本籍人登記簿ト非本籍人登記簿トノ二種アリ棄兒カ日本

人ナルトキハ其發見セラレタル地ニ於テ本籍ヲ有スヘキモノナルカ故ニ棄

兒發見ノ登記ハ本籍人登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス日本人ニアラサルトキ

ハ非本籍人登記簿ニ登記スルコトヲ要ス

(ハ) 棄兒ハ其父母知レサルモノナルカ故ニ父又ハ母ノ國籍ニ依リ棄兒ノ國

籍ヲ定ムルヲ得ス

國籍法ノ規定ニ依ルトキハ日本ニ於テ生マレタル子ノ父母共ニ知レサルト

キハ其子ヲ日本人トス(國籍法第四條)故ニ棄兒カ日本人ナルヤ否ヤハ其日本ニ於テ生マレタル者ナルヤ否ヤヲ戸籍吏カ諸般ノ情況ニ依リテ判斷シ之ヲ定ムヘキモノトス

(ニ) 戸籍ハ日本人ニ付キテノミ之ヲ作ルヘキモノナルカ故ニ(戸第七〇條)戸籍吏カ棄兒ヲ外國人ナリト認定シタルトキハ戸籍ヲ作ルコトヲ要セス

(ホ) 棄兒發見ノ届出ヲ爲サシムルハ棄兒ノ身分ヲ明確ニスル必要アルカ爲メナリ然ルニ棄兒カ日本人ナルトキハ其者ノ本籍ヲ定ムルコトハ其者ノ身分ヲ明確ナラシムルコトニ於テ最モ必要ナル事項ノ一ナリ然ルニ戸籍法ニハ如何ナル地ヲ以テ棄兒ノ本籍地ト爲スヘキヤ又何人カ之ヲ定ムヘキヤニ付キ何等別段ノ規定ナシ予ハ戸籍法ハ戸籍吏ヲシテ任意ニ其管轄區域内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得セシメタルモノナリト爲スヲ正當ナリト信ス何トナレハ(一)本籍ヲ定メサレハ日本人ナルコト明カナラス(二)父母知レサル者ナルカ故ニ父母ハ母ノ本籍ニ依リ定ムルニ由ナシ(三)棄兒發見ノ届出ヲ受理シタル戸籍吏以外ノ者ニ之ヲ定メシムヘキ理由ナシ(四)棄兒發見ノ届出ヲ受理

シタル戸籍吏ノ管轄地以外ニ本籍地ヲ定ムヘキ理由ナシ結局届出ヲ受理シタル戸籍吏カ職權ヲ以テ任意ニ其管轄區域内ニ於テ之ヲ定ムヘキモノト爲スノ外ナケレバナリ

棄兒ノ本籍ニ付キテハ其戸籍ニハ單ニ市區町村ノ名ノミヲ記シ大字及ヒ番地ノ如キハ之ヲ記載スヘキ限ニ在ラストノ説アリ然レトモ本籍ハ市區町村ノ如キ大ナル區域ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノニアラサルコトハ本籍ノ性質ヨリスルモ又戸籍法第七十一條ノ規定ヨリ觀ルモ明カナルカ故ニ予ハ戸籍吏ハ其管轄區域内ニ於テ一定ノ場所ヲ指定シ(例ヘハ何市、何區、何町、何番地ト謂フカ如シ)之ヲ以テ棄兒ノ本籍地ト定ムヘキモノナリト信ス

(ハ) 父母共ニ知レサル子カ日本人ナルトキハ一家ヲ創立スヘキモノナルカ故ニ棄兒發見ノ登記ハ戸籍法第八十條ニ所謂新ニ家ヲ立ツヘキ事件ノ登記ニ屬ス隨テ戸籍吏ハ其登記ヲ爲シタル後同條ニ依リ棄兒ノ戸籍ヲ作ルコトヲ要ス

棄兒發見ノ身分登記ヲ爲シタル後引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙

方ヨリ其者ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス(戸第七五條第三項)
此届出ノ管轄ニ付キテハ特別ノ規定ナキモ棄兒發見ノ登記ヲ爲シタル其戸籍
吏ニ之ヲ届出ツヘキモノナリト信ス

戸籍吏ハ右ニ述ヘタル届出ヲ受理シタルトキハ其届出ニ基キ登記ヲ爲スコト
ヲ要ス

棄兒發見ノ届出アリテ戸籍吏カ其登記ヲ爲シタル後棄兒ノ父又ハ母カ現出シ
テ其兒ヲ引取ルトキハ其父又ハ母ハ一箇月内ニ前(六)マテニ説明シタル普通ノ
手續ニ從ヒ其子ノ出生ノ届出ヲ爲シ且ツ棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコ
トヲ要ス(戸第七六條)

(注意) (イ) 棄兒發見ノ登記アル場合ニ若シ其子カ私生子ナルトキハ父又ハ
母ハ後ノ第四節ニ説明スル私生子認知ノ届出ヲ爲スニアラサレハ第七十六
條ノ届出及ヒ申請ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ棄兒發見ノ登記アルトキハ
其子ハ父母知レサル爲メ一家ヲ創立シタルモノトシテ取扱ハルルカ故ニ父
又ハ母ハ先ツ認知ノ手續ヲ爲スニアラサレハ其兒ヲ自己ノ子ナリト主張ス

ルヲ得サレハナリ

次ニ若シ其兒カ嫡出子ナルトキハ父又ハ母ハ認知其他ノ手續ヲ爲サスシテ
直チニ第七十六條ノ届出及ヒ申請ヲ爲スヘキモノトス

(ロ) 棄兒發見ノ登記ハ父母共ニ知レサル爲メ已ムヲ得サルニ出テタル變則
ノ手續ナリ故ニ後ニ至リ父又ハ母カ知レタルトキハ此變則ノ手續ヲ取消シ
正則ノ手續ヲ爲サシムルヲ正當ナリト爲シ第七十六條ノ規定ヲ設ケタルモ
ノナリ

(ハ) 第七十六條ノ手續ヲ爲シタルトキハ其棄兒ハ初ヨリ一家ヲ創立セサリ
シコトト爲リ其屬スヘキ家ハ出生ノ場合ニ關スル一般ノ規定(民法第七三三
條第一項第二項第七三四條第七三五條)ニ依リテ定マルモノトス

(六) 届出前ニ子カ死亡シタルトキハ出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲ササル前ニ
於テ出生子又ハ棄兒カ死亡シタルトキハ出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲シ且ツ
死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス(戸第七七條)

(注意) (イ) 死胎ヲ分娩シタル場合ニ在リテハ第七十七條ノ届出ヲ爲スコト

ヲ要セス何トナレハ死胎ハ人ニアラサレハナリ

(ロ) 胎兒カ生命ヲ保有シテ出生シタル場合ニ在リテハ出生後間モナク死亡シタルトキト雖第七十七條ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

死亡シタル後ニ在リテハ出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲サシムル要ナキカ如シ然レトモ苟モ一旦出生シタル以上ハ私權ヲ享有シタル者民法第一條ナルカ故ニ其者ノ身分ヲ明確ニシ置ク必要アルニ由リ死亡後ト雖出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲サシムルモノナリ

(免) 航海中ニ子ノ出生シタルトキ 航海日誌ヲ備ヘタル船舶ノ航海中ニ其船舶内ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ限り出生ノ届出ヲ爲スヲ要セサルコトハ前(五)ニ於テ之ヲ説明シタリ此場合ニ限り出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要セストスレハ出生ノ届出ニ代ルヘキ他ノ特別ノ手續ナカルヘカラス而シテ戸籍法第七十八條ハ此特別ノ手續ヲ規定シタルモノナリ

以下ニ於テ戸籍法第七十八條ニ規定シタル特別ノ手續ヲ説明スヘシ
航海日誌ヲ備ヘタル船舶ノ航海中ニ其船舶内ニ於テ子ノ出生アリタルトキハ

艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ヒタル證人ノ前ニ於テ戸籍法第六十八條ニ掲ケタル諸件(出生ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ其届書ニ具備スヘキ要件ナリ前(五)參照)ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名捺印シ且ツ證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第七八條第一項)

(注意) (イ) 證人ニ關シテハ年齢其他ノ制限ナシ故ニ成年ニ達シタルト否トヲ問ハス又男タルト女タルトヲ問ハス證人タルコトヲ得ト雖證人タルニ堪フルノ意思能力アルコトヲ必要トス

(ロ) 第七十八條第一項ノ規定ニ依ル航海日誌ノ記載ハ届書ニアラサルカ故ニ此記載ニ關シテハ戸籍法第五十二條ヲ適用スヘキ限ニ在ラスト雖略字又ハ符號ヲ用キス字畫ヲ明瞭ナラシメ年月日及ヒ年齢ヲ記スルニハ一、二、三、十ノ字ヲ用キスシテ壹、貳、參、拾ノ字ヲ用ユルヲ相當ナリトス

右ノ手續ヲ爲シタル後其艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス(戸第七八條第二項)

(注意) (イ) 航海日誌ノ謄本カ戸籍法第六十八條ノ要件ヲ具備セサルトキハ戸籍吏ハ之ヲ受理スルコトヲ要ス(戸第一六條)

但シ司法省ハ航海日誌ノ謄本カ第六十八條ノ要件ヲ要備セサル場合ト雖戸籍吏ハ之ヲ受理シ登記ヲ爲スヲ要ストノ見解ヲ採ルモノノ如シ(東京區裁判所監督判事請訓ニ對スル明治三十二年七月六日附民刑局長回答參照)

(ロ) 艦長又ハ船長ヨリ航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル戸籍吏カ爲スヘキ手續ニ付キテハ(元)以下ヲ參照スヘシ

若シ艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付スルコトヲ要シ公使又ハ領事ハ三箇月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送スルコトヲ要シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戸籍地ニ發送スルコトヲ要ス(第七八條第三項)

(注意) (イ) 子カ嫡出子ナルトキハ父ト母トノ本籍地ハ同一ナリ
子カ父ノ認知セサル私生子ナルトキハ父ナキカ故ニ母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スヘキモノトス

子カ庶子ナルトキハ父ノ本籍地ト母ノ本籍地ト同一ナルコトアリ相異ナルコトアリ父ト母トノ本籍地カ同一ナラサル場合ニ於テハ兩地ノ戸籍吏ニ各別ニ之ヲ發送スヘキカ其孰レカ一方ノ地ノ戸籍吏ニ之ヲ發送スヘキカハ疑問ナリ此點ニ關シテハ戸籍法ノ規定不備ナルカ故ニ斷定ヲ下シ難シト雖左ノ如ク解釋スルヲ穩當ナリト信ス

一 外務大臣ハ公使又ハ領事ヨリ受取リタル其航海日誌ノ謄本ヲ戸籍吏ニ發送スヘキモノナリ然ルニ謄本ハ一通ナルカ故ニ之ヲ兩地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ得ヘカラス結局父ノ本籍地ノ戸籍吏又ハ母ノ本籍地ノ戸籍吏ノ孰レカ一方ニ之ヲ發送スレハ足ルト爲スノ外ナシ而シテ之ヲ其孰レノ一方ニ發送スヘキカニ付キテハ二ニ掲クル區ニ從フヘキモノナルヘシ

二 子カ父ノ家ニ入ルヘキ場合ニ在リテハ父ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ發送スヘク子カ母ノ家ニ入ルヘキ場合ニ在リテハ母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ發送スヘシ

子カ父ノ家ニモ母ノ家ニモ入ルコト能ハサル場合(民法第七三五條参照)ニ在リテハ父ノ本籍地ノ戸籍吏又ハ母ノ本籍地ノ戸籍吏ノ孰レニ之ヲ發送スルモ可ナリ

外務大臣ヨリ航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル戸籍吏カ爲スヘキ手續ニ付キテハ(元)以下ヲ参照スヘシ

之ヲ要スルニ航海中ニ出生アリタル場合ニ關シ以上ニ述ヘタル如キ特別ノ手續ヲ設ケタルハ實際ノ便宜ヲ主トシタルモノナリ

第三節 嫡出子否認ニ關スル届出

(各)總論 本節ニ於テハ嫡出子否認ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第二章第三節ノ規定ヲ説明スヘシ

民法第八百二十條ノ場合ニ於テハ子ハ夫ノ子即チ嫡出子ト推定セララルモ夫其他ノ者ハ同法第八百二十二條又ハ人事訴訟手續法第二十九條ノ規定ニ依リ訴ヲ以テ其子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルヲ得ヘク(第一〇四頁甲参照)否認ノ訴

ニ於テ原告勝訴ノ判決確定スルトキ其判決ノ效力トシテ子ハ出生ノ當時ヨリ夫ノ子ニアラザリシコトト爲ル

(注意) 嫡出子ノ否認及ヒ其訴訟手續ニ付キテハ民法第八百二十條乃至第八百二十六條及ヒ人事訴訟手續法第二章ノ規定ヲ参照スヘシ

嫡出子否認ノ訴ハ嫡出子ナリトシテ法律上ノ推定ヲ覆スコトヲ以テ其目的ト爲ス故ニ原告勝訴ノ判決確定スルトキハ子ハ其時ニ於テ嫡出子タル身分ヲ喪失スルニアラスシテ出生ノ當初ヨリ嫡出子ニアラザリシコトト爲ルモノナリ

夫ノ子ト推定セラレタル者ニ付キ其推定ヲ覆サレ夫ノ子ニアラサルコト確定スルトキハ其子ノ身分ニ變動アリ是即チ嫡出子否認ニ關スル届出ノ規定アル所以ナリ

(各)届出ノ手續 嫡出子否認ノ訴ニ於テ原告勝訴ノ判決カ確定シタルトキハ否認者即チ原告其判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ判決ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要シ且多既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル者ニ付キテ

ハ其登記ノ變更ヲモ申請スルニトシテ要ス(戸第七九條)

一 子ノ名及ヒ男女ノ別

二 出生ノ年月日

三 否認ノ判決確定シタル年月日

(注意) 夫ハ妻カ生ミタル子ノ嫡出ナルコトヲ否認セシトスル場合ト雖嫡出

子出生ノ届出ヲ爲スヲ要スルコトハ戸籍法第七十二條ノ規定スルコトコトナ

リ而シテ此規定ニ基キ夫カ其子ノ出生ノ届出ヲ爲シタル後否認ノ判決確定

シタル場合ニ在リテハ出生ノ登記ニ記載シアル其子ノ身分ト否認ノ判決ニ

因リテ定マリタル其子ノ身分トハ相異ナル故ニ此場合ニ於テハ否認ノ届

出ヲ爲サシムル外既ニ爲シアル出生ノ登記ノ變更ヲモ申請セシムルコトト

爲シタルモノナリ

右ニ述ヘタル届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付キテハ別段ノ規定ナキカ故ニ其

管轄ニ付キテハ通則タル戸籍法第四十二條ノ規定ニ從ハサルヘカラス次ニ變

更ノ申請ハ變更セラルヘキ原登記即チ出生ノ登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ之ヲ爲

スヲ要スルコトハ言フヲ殊ダス

否認ノ判決確定前既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル子ニ付キテハ判決確定後否認ノ

届出ヲ爲シ且ツ出生ノ登記變更ノ申請ヲ爲シ外別ニ何カ以テ出生ノ届出ヲ

爲スルコトヲ要セズ然レトモ未ダ出生ノ登記ナキ子ニ付テハ否認ノ判決確定シタ

ルトキハ否認ノ届出ヲ爲ス外其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

所ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲サシムルコトハ其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル

第四節 私生子認知ニ關スル届出

(空) 總論 本節ニ於テハ私生子認知ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第三章第

四節ノ規定ヲ説明スルコトヲ得

私生子(吾)參照ニ父又ハ母ニ於テ民法第八百二十七條乃至第八百三十一條ノ規

定ニ從ヒ之ヲ認知スルコトヲ得

(注意) 夫又ハ母カ子其他ノ者ヲ請求シ因リテ認知ヲ爲スルコトヲ要スル場合

ニ關シテハ後節(空)ニ至リテ之ヲ説明スルコトヲ得

認知ニ關スル實體法上ノ要件ハ場合ニ依リテ異ナル即チ左ノ如シ

第一 未成年ノ私生子ハ其父又ハ母ニ於テ他人ノ承諾ナクシテ之ヲ認知スルコトヲ得(民法第八二七條)

第二 成年ノ私生子ハ其承諾アル場合ニ限り父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得(民法第八三〇條)

第三 胎内ニ在ル子ハ父ニ限り母ノ承諾ヲ得テ之ヲ認知スルコトヲ得(民法第八三一條第一項)

第四 死亡シタル子ハ其直系卑屬アルトキニ限り父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得但此場合ニ於テ其直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス(民法第八三一條第二項)

(注意) (イ) 以上第一乃至第四ノ孰レノ場合タルヲ問ハス父又ハ母カ無力者ナルトキト雖其法定代理人保佐人又ハ夫ノ同意又ハ許可ヲ得ルコトヲ要セス(民法第八二八條)

(ロ) 子其他ノ者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要スル第二乃至第四ノ場合ニ於テ其

者カ承諾ヲ爲ササルトキ又ハ心神喪失等ノ事情ニ因リ承諾ノ意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ認知ヲ爲スコトヲ得ヘカラス

認知ハ要式ノ意思表示ニシテ其方式ニ二種アリ其一ハ戸籍吏ニ對スル届出ニシテ其二ハ遺言ナリ(民法第八二九條)

第一 戸籍吏ニ對スル届出ニ依リテ認知ヲ爲ス場合ニ在リテハ認知ノ效力ヲ生セシメンカ爲メニ届出ヲ爲スモノナルカ故ニ届出人ハ戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スニアラス隨テ無能力者タル父又ハ母カ認知ヲ爲サント欲スルトキト雖自ラ其届出ヲ爲スコトヲ要ス(戸籍法第四六條第四七條)又認知ヲ爲スモ爲ササルモ其任意ナルカ故ニ届出ヲ爲サレハトテ過料ニ處セラレルコトナシ

第二 遺言ニ依リテ認知ヲ爲サント欲スルトキハ民法第六十七條乃至第八十六條ニ定メタル方式ニ從ヒテ其遺言ヲ爲スコトヲ要ス
遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ在リテハ遺言者ノ死亡ノ後遺言執行者ヨリ戸籍法第八十三條ノ規定ニ從ヒテ認知ノ届出ヲ爲スコトヲ要スレトモ

前ノ場合ト異ナリ認知ノ效力ヲ生セシメンカ爲メニ届出ヲ爲スニアラス遺言ノ方式ニ依リテ表示セラレタル認知カ其效力ヲ生シタル後其認知ニ付キ戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スコトヲ要スルモノタリ隨テ若シ届出ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ過料ニ處セラル

私生子認知ノ效力ハ次ノ如シ

第一 事實上ノ父カ認知シタルトキ 私生子ノ事實上ノ父ハ法律上ノ父ニアラス故ニ事實上ノ父ノ認知ナケレハ事實上ノ父ト私生子トノ間ニ法律上親子ノ關係ナク認知ニ因リ始メテ法律上親子ノ關係ヲ生ス而シテ事實上ノ父カ認知シタルトキハ私生子ハ父ニ對シテハ庶子ト爲ル(民法第八二七條)第二 事實上ノ母カ認知スルトキ 私生子ノ事實上ノ母ハ法律上ニ於テモ亦當然母タリ(認知ナケレハ事實上ノ母ト私生子トノ間ニ法律上母子ノ關係ヲ生セストノ說アリ然レトモ我國ノ從來ノ慣例ハ事實上ノ母ハ法律上ニ於テモ亦當然母タルコトヲ認メタルノミナラス民法ニハ此點ニ付キ從來ノ慣例ヲ變更シタルト解釋スルニ足ル規定ナシ)故ニ事實上ノ母ト私生子トノ間ニ

法律上母子ノ關係ヲ生セシムル爲メニハ認知ヲ必要トセス

然レトモ棄兒ノ如キ何人カ母ナルガ明カナラサル者ニ付キテハ認知ニ因リ母子ノ關係ヲ明確ニスル必要アリ

第三 婚姻中事實上ノ父母カ認知シタルトキ 私生子ハ嫡出子タル身分ヲ取得ス(民法第八三六條)妻ト子トノ關係明確ナルトキハ夫ハ之ノ認知アレハ足

第四 事實上ノ父又ハ母ニアラサル者カ認知シタルトキ 事實上ノ父又ハ母

ニアラサル者カ事實上ノ父母ナリトシテ認知シタルトキハ事實上ノ父又ハ母カ認知シタルトキト同一ノ效力ヲ生ス而シテ認知者ハ認知ヲ取消シ又ハ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得サルモ子其他ノ利害關係人ハ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ妨ケス(民法第八三三條第八三四條)

民法第八百三十二條ニハ認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得スト規定シアリテ(婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ民法第八百三十六條ノ規定ニ因リ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分

ヲ取得スルモノナルカ故ニ嫡出子タル身分ヲ取得スル效力ハ既往ニ遡ルコトナシ(同法第七百三十三條及ヒ第七百三十五條ニハ子ノ入ルヘキ家ニ關スル定アルカ故ニ認知セラレタル子ノ屬スヘキ家ハ場合ニ依リテ異ナル大要左ノ如シ

一 胎内ニ在ル間ニ父カ認知シタル子 出生ノ當時ニ於テ其子ハ直チニ庶子タリ故ニ父カ戸主ナルトキハ民法第七百三十三條ニ依リテ父ノ家ニ入り父カ戸主ニアラサルトキハ出生ノ時マテニ其入ルヘキ家ノ戸主ノ同意アリタルト否トニ因リ民法第七百三十三條及ヒ第七百三十五條ノ區別ニ從ヒ其屬スヘキ家定マル(英ノ五參照)

二 出生後家族タル父カ認知シタル子 認知ノ效力ハ出生ノ時ニ遡ル結果其子ハ出生ノ時ニ於テ庶子タリシコト爲ルト雖父ノ家ノ戸主ノ同意ナカリシ状態ハ之カ爲メ變更ヲ受クヘキニアラス又認知ノ後父ノ家ノ戸主カ同意ヲ爲シタレハトテ其同意ノ效力ハ既往ニ遡ルヘキニモアラス隨テ其子ハ出生ノ時ニ於テ入りタル家ニ止マルヘク家族タル父ノ認知アルモ之カ爲メ

其子ハ當然父ノ家ニ轉屬スルカ如キコトナシ(英ノ五參照)

三 出生後戸主タル父カ認知シタル子 子ノ出生ノ當時父カ家族ニシテ出生ノ後認知ノ前ニ戸主ト爲リタル者ナルトキハ認知ノ效力ハ出生ノ時ニ遡ルニ拘ラス出生ノ當時ニ於ケル戸主ノ同意ナケレハ其子ハ父ノ家ニ入ルコト能ハサルモノナルカ故ニ此場合ニ在リテハ前ニ述ベタルトコト同シ之ニ反シテ子ノ出生ノ當時ヨリ父カ引續キテ戸主ナルトキハ認知ニ因リ出生ノ時ヨリ庶子タリシコト爲リタル子ハ何人ノ同意ヲ必要セスシテ父ノ家ニ入ルヘカリシモノナリト雖認知ノ效力ハ第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得サル結果場合ニ依リテ左ニ掲ケル差異ヲ生ス(英ノ五參照)

甲 子カ出生ノ時ニ於テ母ノ家ニ入りタルモノナルトキハ其後ニ至リ父ノ認知アルモ母ノ家ノ戸主ノ戸主權ヲ害スルコト能ハサル結果其子ハ依然トシテ母ノ家ニ止マルモノトス

乙 子カ出生ノ時ニ於テ一家ヲ創立シ家族アルニ至リタル後父カ認知シタルトキハ創立シタル家ノ家族ノ戸主ニ對スル權利ヲ害スルコト能ハサル

結果其子ハ依然トシテ其家ニ止マレモノトス

丙 子カ出生ノ時ニ於テ一家ヲ創立シタルモ隠居廢家婚姻養子縁組其他ノ事由ニ因リ其家又ハ他家ノ家族ト爲リタル後父カ認知シタルトキハ甲ニ述ヘタルトヨロニ等シトス

丁 子カ出生ノ時ニ於テ一家ヲ創立シ家族アルニ至ラサル間ニ父カ認知シタルトキハ其子ハ出生ノ時ニ於テ庶子トシテ父ノ家ニ入りタリシコトト爲リ始ヨリ一家ヲ創立セサルシコトト爲ル

(注意) 母カ認知シタル場合ニ於ケル子ノ所屬ノ家ニ付キテ以上ニ述ヘタルトヨロニ依リ之ヲ推理スヘシ

(查) 認知ノ效力ヲ生セシムル爲メ爲ス届出ノ手續ニ私生子認知ノ届書ハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス(戸第八〇條)

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 子ノ出生ノ年月日
- 三 其死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ其死亡ノ年月日

四 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名職業及ヒ本籍地 若シ母カ家族

ナルトキハ其戸主ノ氏名職業本籍地及ヒ其戸主ト母トノ續柄ヲモ記載スルコトヲ要ス

(注意) 子カ他家ノ家族ナル場合ニ付キ戸籍法ニハ子ノ家ノ戸主ノ氏名職業本籍地及ヒ其戸主ト子トノ續柄ヲ記載スヘシトノ規定ナキモ之ヲ記載スルヲ相當トス

民法第八百三十一條第一項ノ規定ニ依リ父カ胎内ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ在リテハ認知者ハ母ノ氏名職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸第八一條) 此場合ニ於テ母カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名職業等ヲモ記載スルヲ相當トス

民法第八百三十條及ヒ第八百三十一條ノ規定ニ依リ子母又ハ直系卑屬ノ承諾ヲ要スル場合ナルニ於テハ届出人ハ届書ニ承諾ノ證書ヲ添ヘ又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス(戸第八二條)

(查) 遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於ケル届出ノ手續 遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ハ遺言カ效力ヲ生シタル日ヨリ十日内ニ其認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

(注意) (イ) 私生子認知ノ遺言ハ無條件ニテ又ハ停止條件ヲ附シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク無條件ニテ之ヲ爲シタルトキ若クハ停止條件ヲ附シテ之ヲ爲シタル場合ニ於テ條件カ遺言者ノ死亡前ニ成就シタルトキハ其遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ效力ヲ生シ又停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ其遺言ハ條件成就ノ時ニ於テ效力ヲ生ス (民法第一〇八七條)故ニ遺言カ效力ヲ生シタル日トハ遺言者死亡ノ日又ハ其死亡後停止條件成就ノ日ヲ指スモノナリ
認知ノ遺言カ效力ヲ生シタルトキハ其時ニ於テ有效ナル認知アリタルコトト爲ル故ニ爾後十日内ニ遺言執行者ヨリ爲ス届出ハ既ニ認知アリタルコトヲ明確ニスル爲メ戸籍法上ノ義務トシテ之ヲ爲スモノタリ(第一四三頁ノ第二參照)

(ロ) 遺言執行者ニ付キテハ民法第千八百八條以下ヲ參照スヘシ

遺言執行者ヨリ爲ス場合ニ於ケル届書ニ記載スヘキ事項及ヒ此届書ニ添附スヘキ書面ハ前(查)ニ掲ケタル所ニ同シ但此場合ニ於ケル届書ニハ遺言者即チ認知者ノ死亡ノ年月日ヲモ記載スルコトヲ要スルモノトス(以上戸第八三條)

(查) 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキ 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ認知ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス但遺言執行者カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(戸第八四條)

(注意) (イ) 父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ母ノ承諾アルトキハ(查)ノ届出又ハ遺言ニ依リテ之ヲ認知スルコトヲ得ヘク遺言ニ依リタルトキハ遺言執行者ヨリ(查)ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

然ルニ其後チ子カ死體ニテ分娩シタルトキハ認知ハ其效力ヲ生セザルコトト爲ル(民法第八三二條第九六八條第九九三條)以テ既ニ爲シタル認知ノ登

記ノ取消ヲ申請セシムルモノナリ

(ロ) 出生届出義務者トハ胎内ニテ認知セラレタル子カ生命ヲ保有シテ分娩シタル場合ナルニ於テハ其出生ノ届出ヲ爲スヘキ義務アル者ヲ謂フ
胎内ニ在ル子ハ父ニ限り之ヲ認知スルコトヲ得ヘク父カ認知シタル後其子カ出生スルトキハ庶子タリ随テ茲ニ出生届出義務者ト謂フハ庶子出生ノ場合ニ於ケル届出義務者(三)参照ヲ謂フ

(三) 裁判上ノ認知 子其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シ認知ヲ請求スルコトヲ得ヘク(民法第八三五條)此請求ハ人事訴訟手續法第二章ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナリ

(注意) (イ) 子ノ直系卑屬ハ子カ死亡シタル後ニ限り認知ヲ請求スルコトヲ得

(ロ) 法定代理人カ訴ヲ起ス場合ニ在リテハ其者ハ無能力者タル子又ハ其直系卑屬ヲ代表シテ之ヲ爲スモノタリ故ニ其訴ノ原告ハ無能力者タル子又ハ其直系卑屬ニシテ法定代理人ニアラス法定代理人ハ原告ヲ代表シテ裁判上

一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルニ過キササルコト普通ノ訴ニ於ケルニ同シ
訴ヲ以テ認知ヲ請求シタル場合ニ於テ其請求ヲ理由アリトスルトキハ裁判所ハ判決ヲ以テ被告タル父又ハ母ニ認知ノ届出ヲ爲スヘキコトヲ命ス而シテ其判決確定シタルトキハ被告ハ原告ノ利益ノ爲メニ前(三)ノ手續ニ從ヒ認知ノ届出ヲ爲スコトヲ要スルモノトス(戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スコトヲ要スルニアラス)

然ルニ前項ノ判決確定シタルニ拘ハラズ被告ヨリ認知ノ届出ヲ爲ササルコトアルヘシ此場合ニ於テハ原告又ハ其法定代理人ヨリ判決ノ執行トシテ認知ノ届出ヲ爲スコトヲ得ヘク其届書ニハ戸籍法第八十條ノ要件ヲ具備シ且執行力アル判決正本ヲ添附スルコトヲ要スルモノトス

(注意) (イ) 以上ハ戸籍法ニ別段ノ明文ナキモ民法及ヒ戸籍法ニ於ケル認知ニ關スル規定ノ趣旨ニ依リテ推理解釋ヲ爲シタルモノナリ
(ロ) 父又ハ母カ生前ニ爲ス認知ハ届出ニ依リテ之ヲ爲スニ非ザレハ其效力ヲ生セサルモノナルカ故ニ認知ノ請求ハ請求者ニ對スル認知ノ意思表示ヲ

求ムルモノニアラスシテ届出ニ依リテ認知ヲ爲スコトヲ求ムルモノタリ
テ認知ヲ命スル判決確定シタルトキト雖モ被告カ其判決ニ服從シテ認知ノ
届出ヲ爲シ又ハ原告若シハ其法定代理人カ其判決ノ執行ニシテ認知ノ届出
ヲ爲スニアラザレハ認知ノ效力ヲ生スルコトナシ

(宅) 戸籍吏ノ管轄 私生子認知ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付キテハ別段
ノ定メナカ故ニ其管轄ハ通則タル戸籍法第四十二條ノ規定ニ依リテ定マリ
又(登)ノ場合ニ於ケル登記取消ノ申請ハ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ之ヲ爲スコ
トヲ要スルモノトス

第五節 養子縁組ニ關スル届出

(宗) 總論 本節ニ於テハ養子縁組ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第二章第五
節ノ規定ヲ説明スヘシ

養子縁組ニ關スル實體上ノ要件ハ左ノ如シ

第一 成年ニ達セザル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス(民法第八三七條)

第二 尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス(民法第八三八條)

第三 法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス
但シ女孀ト爲ス爲メニスル場合ハ此限ニ在ラス(民法第八三九條)

第四 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス後見人ノ任務カ終了シタル
後未タ管理ノ計算ヲ終ラサル間亦同シ但シ養子ヲ爲ス者カ遺言ヲ以テ其意
思ヲ表示スル場合ハ此限ニ在ラス(民法第八四〇條)

第五 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ養子ヲ爲シ又ハ養子ト
爲ルコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ
足ル(民法第八四一條)

第六 前第五ノ第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ心神喪失其他ノ事由ニ因リ
其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ハ夫婦雙方ノ名義ヲ以テ縁
組ヲ爲スコトヲ得(民法第八四二條)

第七 法定ノ推定家督相續人ハ縁組ニ因リテ他家ニ入ルコトヲ得ス(民法第七

四四條第一項

(注意) 法定ノ推定家督相続人ト雖モ其家ニ在ル者ノ養子ト爲ルヲ妨ケス

第八 戸主ハ隱居ヲ爲シ又ハ其家ヲ廢スルニ非ズレハ養子ト爲ルコトヲ得ス
但シ其家ニ在ル者ノ養子ト爲ルハ此限ニ在ラス(養子ト爲ルコトハ戸主權喪失ノ原因ニ非サルカ故ナリ)

第九 養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代リテ
縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得但シ繼父母又ハ嫡母カ子ニ代リテ承諾ヲ爲スニ
ハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第八四三條)

第十 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ
在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第八四四條)

第十一 縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入
ラント欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ妻カ夫
ト共ニ養子トシテ他家ニ入ルハ此限ニ在ラス(民法第八四五條)

第十二 前第九乃至第十一ノ場名ニ於テ父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタ

ルルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一

方以承諾又ハ同意ヲ以テ足ル父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家

ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキ子カ未成年者チ

ルトキニ限リ其後見人及ヒ親族會ノ承諾又ハ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第

八百四十六條第一項ニ依リ民法第七百七十二條第三項第三項準用)

第十三 前第十第十場名ニ於テ繼父母又ハ嫡母カ子ノ縁組ニ同意セサル

トキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ縁組ヲ爲スコトヲ得(民法第八百四十六條第

二項ニ依リ民法第七百七十三條準用)

第十四 禁治産者カ縁組ヲ爲スコトハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第

八百四十七條ニ依リ民法第七百七十四條準用)

第十五 家族カ縁組ヲ爲スコトハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第七五〇條

甲第三項) 縁組ハ養子ト爲ルハ其家ニ在ル者カ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ

第十六 縁組又ハ縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ

入ラントスルトキハ實家及ヒ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

戸籍法 身分登記 身分ニ關スル届出 養子縁組ニ關スル届出 一五七

(民法第七四一條第一項)

養子縁組ノ要式ノ意思表示ニシテ其方式ニ三種アリ即チ左ノ如シ
甲 養子縁組ハ養子ヲ爲ス者養子ト爲ルヘキ者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ
口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス(民法
第八四七條三依リテ第七七五條準用)

乙 養子ヲ爲ス者ハ遺言ヲ以テモ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合ニ於テハ
遺言執行者養子ヲ爲ルヘキ者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ遺言カ效力ヲ生
シタル後遲滞ナク口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ戸籍吏ニ其届出ヲ爲
スコトヲ要ス(民法第八四八條)

(注意) 此場合ニ在リテハ養子ヲ爲ス者ノ意思ハ遺言ヲ以テ之ヲ表示シ養

子ト爲ルヘキ者ノ意思ハ戸籍吏ニ對スル届出ニ依リテ之ヲ表示ス

右ノ遺言ハ私生子認知ノ遺言ニ等シク無條件ニテ又ハ停止條件ヲ附シテ

之ヲ爲スコトヲ得

甲ノ場合ニ戸籍吏カ届出ヲ受理シタルトキハ其時ヨリ縁組ノ效力ヲ生シ(民法

第八百四十七條ニ依リテ第七百七十五條準用)乙ノ場合ニ戸籍吏カ届出ヲ受理

シタルトキハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ縁組ノ效力ヲ生シ(同法第八四八條第二項)

縁組ノ效力トシテ養子ハ養親ノ家ニ入り養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ス(同法

第八六〇條第八六一條)尚ホ民法第七百二十七條等ヲ参照スヘシ

(宛)届出ノ手續 縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲ス

コトヲ要ス(戸第九〇條)

縁組ハ雙方カ届出ニ依リテ其意思ヲ表示スル場合ニ在リテハ養親ト爲ル者養
子ト爲ル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ其届出ヲ爲スコトヲ要シ養親ト爲ル
者カ遺言ニ依リテ其意思ヲ表示シ養子ト爲ル者カ届出ニ依リテ其意思ヲ表示
スル場合ニ在リテハ遺言執行者養子ト爲ル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ其
届出ヲ爲スコトヲ要ス

然ルニ養子ト爲ル者ノ父母其一方又ハ後見人及ヒ親族會カ養子ト爲ル者ニ代
リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス場合(宛)第九及ヒ第十二參照)ニ於テハ養子ト爲ル者
ハ自ら縁組ノ承諾ヲ爲スニアラスシテ父母其他ノ者カ之ニ代リテ承諾ヲ爲ス

モシタリ隨テ此場合ニ在リテハ養子ト爲ル者ヲ以テ届出人ト爲スコト能ハサルカ故ニ戸籍法ハ第八十六條ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケ養子ニ代リテ承諾ヲ爲ス者ハ養子ニ代リテ縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要スルコトヲ要スルセリ

次に夫婦ノ一方カ夫婦雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合(前(六)ノ第六參照)ハ夫婦ノ他ノ一方カ心神喪失其他ノ事由ニ因リ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキナカ故ニ此場合ニ在リテハ夫婦雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス者ハ夫婦雙方ノ爲メニ届出ヲ爲セハ足り夫婦雙方ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要セス

縁組ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第八五條)

- 一 養親及ヒ養子ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地、茲ニ實父母ト云フハ養親ニ對ス故ニ繼父母ト姉妹トヲ包含ス
- 三 養親又ハ養子ノ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 養子カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ縁組ヲ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ婚家ノ戸主又ハ前養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地

(注意) 第四號(戸第八五條第五項)ノ事項ヲ記載セシムルハ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ取リタル者カ更ニ養子縁組ヲ爲スニハ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意(前(六)ノ第十六參照)ト婚家又ハ養家及ヒ實家ニ在ル父母ノ同意(前(六)ノ第十一參照)トヲ得ルコトヲ要スルカ故ナリ

然ルニ婚家又ハ養家ヨリ養子縁組ニ因リ他家ニ入ル場合ニ於テ實家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲモ記載スルヲ要スト爲サザリシハ立法上ノ缺點ナリ

配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合(前(六)ノ第六參照)ニ於テ届出人ハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第八八條)

民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第八百四十一條第二項及ヒ第八百四十三條乃至第八百四十六條ノ規定ニ依リ戸主、父母、配偶者、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合(前(六)參照)ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ヲ署名捺印セシムルコトヲ要ス(戸第八七條)

養親ト爲ル者カ遺言ニ依リテ縁組ノ意思ヲ表示シタル場合ニ在リテハ届書ニ遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且ツ之ニ養子ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス(戸第八九條)

(注意) 遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載セシムルハ既ニ述ヘタル如ク遺言者即チ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ縁組ノ効力ヲ生スルカ故ナリ(民法第八四八條)以上ノ規定ハ口頭ヲ以テ縁組ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス(戸第九三條)

口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ在リテハ届出ニ關スル通則ニ從フトキハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述スルコトヲ要スルモ(戸第五四條)届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出スコトヲ得ルモノトス(戸第五八條)然ルニ養子縁組ハ親族關係相續ノ順位等ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキモノナルカ故ニ特ニ其手續ヲ鄭重ニシ口頭ヲ以テ縁組ノ届出ヲ爲ス場合ニ付テハ口頭ヲ以テ他ノ届出ヲ爲ス場合ト異ナリ必ス届出人カ戸籍吏ノ面前ニ出頭シテ自ラ届出ヲ爲スコトヲ要シ疾病其他ノ事故アルトキト雖代理人ヲ差出スコトヲ許サス(戸第九四條)民法第

八四七條

(七)届出ノ受理 戸籍吏ハ縁組カ其要件ヲ具備セルコト及ヒ戸籍法其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス但縁組カ民法第七百四十二條第三項又ハ第七百五十條第一項ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ戸籍吏カ注意ヲ爲シタルニ拘ラス當事者カ其届出ヲ爲サント欲スルトキハ此限ニ在ラス(民法第八四九條)

戸籍吏カ届出ヲ受理セサル場合ニ於テ届出人カ其處分ヲ不當トスルトキハ戸籍役場ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得(戸第二〇三條)

(七)縁組カ無効ナルトキ又ハ取消サレタルトキ 縁組カ其要件ヲ具備セス又ハ他ノ法令ニ違反スル場合ト雖戸籍吏カ若シ届出ヲ受理シタルトキハ縁組ノ効力ヲ生ス縁組カ無効ナルハ左ニ掲クル二箇ノ場合ニ限ラル(民法第八五一條)
一 入違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ
二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲サカルトキ届出ガキトキ又ハ當事者ノ一方ノミヨリ届出ヲ爲シタルトキハ無効ナリ然レトモ雙方ヨリ届出ヲ爲シ戸籍吏

カ之ヲ受理シタル場合ニ於テ以成年ノ證人三人以上ト共ニセザルトモ又ハ
 戸籍法ニ規定シタル届書ニ記載スベキ事項出欠缺アルトモ雖縁組ハ無効
 ニアラズニテ其効力ニ影響ヲ與ヘズ
 縁組カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトモ若クハ法令ニ違反シタルトモト雖當事者
 自ラ之ヲ取消スコトヲ得ス縁組ハ民法第八百五十三條以下七條ニ掲ケタル場
 合ニ限リ裁判所ノ判決ヲ以テ消滅シ之ヲ取消スコトヲ得ルモ其効力ニ影響
 無効ナルトモ其届出人ノ全員ヨリ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登
 記ヲ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(戸第九一條)若シ届出人ノ全員カ登記ノ取消ヲ
 申請スルコトヲ付キニ致セザルトモハ申請ヲ爲サント欲スル者六之ヲ爲スコ
 トハ肯認サル者ニ對シ縁組ハ無効ノ訴ヲ提起シ其判決カ確定シタル後次項ノ
 手續ニ依リ登記取消ヲ申請スル外ナシヤ
 (縁組以無効又ハ取消シ判決カ確定シタル下キ對其訴ヲ提起シタル者ハ判決確
 定後ヨリ一箇月内ニ判決ノ謄本ヲ提出シテ縁組ノ登記ノ取消ヲ申請スルコ

トヲ要ス(第九三條)此期間ヲ徒過シタルトモハ戸籍法第二百十條ニ依リ過料ニ
 處セラレ

第六節 養子縁組ニ關スル届出

(三)總論 本節ニ於テハ養子縁組ニ關スル届出即チ戸籍法第四章第六節ノ規
 定ヲ説明スヘシ

養子縁組ニ裁判外ノ縁組ト裁判上ノ縁組トノ二種アリ民法ニ在リテハ裁判外
 ノ縁組ヲ協議上ノ縁組ト曰フ
 裁判外ノ縁組ニ付キテハ要件ハ左ノ如シ
 第一 縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得養子カ十五年未滿カ
 ルトモ其縁組ハ養親ト養子ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者(前
 六)ノ第九及ヒ第十二參照トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス養親カ死亡シタル後養子
 カ縁組ヲ爲サント欲スルトモハ養家ノ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得
 (民法第八六二條)養子カ死亡シタル後ハ養親ハ縁組ヲ爲スコトヲ得ス

第二 滿二十五年ニ達セザル養親又ハ養子カ裁判外ノ離縁ヲ爲スニハ養親ニ在リテハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ養子ニ在リテハ其實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス父母ノ一方カ知レザルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル父母共ニ知レザルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ養親又ハ養子カ未成年者ナルトキニ限リ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但繼父母又ハ嫡母カ離縁ニ同意セザルトキハ親族會ノ同意ヲ得テ離縁ヲ爲スコトヲ得(民法第八六三條)

第三 禁治産者カ離縁ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(民法第八百六十四條ニ依リ第七百七十四條準用)

第四 離縁ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス(民法第八百六十四條ニ依リ第七百七十五條準用)裁判外ノ離縁ハ此届出ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

ル要式ノ意思表示ナリ

裁判上ノ離縁ニ付テノ要件ハ左ノ如シ

第一 民法第八百六十六條以下ニ掲ケタル事由アル場合ニ限リ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二 離縁ノ訴ハ養親又ハ養子ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得但養子カ滿十五年ニ達セザル間ハ其縁組ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得而シテ養子カ滿十五年ニ達セザル間ニ其實家ニ在ル繼父母又ハ嫡母ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルニハ養子ノ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトス(民法第八六六條、第八六七條)

離縁ノ訴ノ手續ニ付キテハ人事訴訟手續法第一章ヲ參照スヘシ裁判所カ離縁ノ請求ヲ正當ナリト認メタルトキハ判決ヲ以テ離縁ヲ宣言ス

裁判上ノ離縁タルト裁判外ノ離縁タルトヲ問ハス養子カ戸主ト爲リタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス但隱居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス(民法第八七四條)

裁判外ノ離縁ハ戸籍吏カ届出ヲ受理スルニ因リテ效力ヲ生シ(民法第八百六十

四條ニ依リ第七百七十五條第一項準用)裁判上ノ離縁ハ離縁ヲ宣言スル判決ノ確定ニ因リテ其效力ヲ生ス故ニ離縁ノ届出ハ裁判外ノ離縁ニ在リテハ其效力ヲ生セシムル爲メ之ヲ爲シ裁判上ノ離縁ニ在リテハ判決ノ確定ニ因リテ既ニ效力ヲ生シタル離縁ニ付キ戸籍吏ヲシテ其身分登記ヲ爲サシメンカ爲メ之ヲ爲スモノタリ

(注意) 離縁ヲ宣言スル判決ハ當事者間ノミナラス第三者ニ對シテモ亦其效力ヲ生ス(人事訴訟手續法第二十六條ニ依リ第十八條準用)

(三)届出ノ手續 裁判外ノ離縁ノ届出ハ養親及ヒ養子ヨリ之ヲ爲スヲ要シ養子カ滿十五年ニ達セサル場合ニ在リテハ養親ト養子ニ代リテ協議ヲ爲シタル者ヨリ之ヲ爲スヲ要ス(戸第九六條)

養親カ死亡シタル後養子カ養家ノ戸主ノ同意ヲ得テ離縁ヲ爲ス場合ニ在リテハ養子ノミヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル(戸第九七條)

以上何レノ場合ニ在リテモ成年ノ證人二人以上ト共ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス(民法第八百六十四條ニ依リ第七百七十五條準用)

次ニ裁判上ノ離縁ニ付キテハ其訴ヲ提起シタル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス(戸第九九條)

離縁ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付キテハ別段ノ規定ナキカ故ニ(四)ニ説明シタル通則ノ規定ニ從ハサルヘカラス

裁判外ノ離縁ハ届出ヲ爲スニアラサレハ效力ヲ生セス隨テ届出ヲ爲スト爲ササルトハ隨意ナリ之ニ反シテ裁判上ノ離縁ハ判決ノ確定ニ因リ效力ヲ生スルモノナルカ故ニ其届出ハ既ニ效力ヲ生シタル事項ニ付キ戸籍法上ノ義務トシテ之ヲ爲スヲ要スルモノタリ裁判上ノ離縁ノ届出ハ判決ノ確定ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要シ(戸第九九條)若シ之ヲ怠ルトキハ戸籍法第二百十條ニ依リ過料ニ處セラル

離縁ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第九五條)

- 一 當事者(養親及ヒ養子)ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主(養家)ノ氏名、職業及ヒ本籍地

四 縁組ノ年月日

五 離縁カ協議又ハ裁判ニ因ルコト 裁判上ノ離縁ノ場合ニ在リテハ判決確定ノ日即チ離縁カ效力ヲ生シタル年月日ヲ記載スルヲ相當トス此點ニ付キ戸籍法ニ規定ナキハ缺點ナリ

六 養子ノ妻。養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及ヒ妻ノ名 縁組ニ因リテ他家ヨリ入リタル者ハ離縁ノ場合ニ於テ養家ヲ去ルモノトス(民法第七三九條第七四〇條)而シテ夫カ其家ヲ去ルトキハ妻ハ當然之ニ隨ヒテ其家ヲ去ルモノナルカ故ナリ(民法第七四五條)

(注意) 妻アル養子カ同時ニ裁判外ノ離縁ト裁判外ノ離婚トノ届出ヲ爲ストキ又ハ同時ニ離婚ト離縁トノ判決カ規定シタル場合ニ於テ離縁ノ届出ヲ爲ストキハ本文ノ限ニ在ラス何トナレハ婚姻ハ縁組ト同時ニ解消セラルルカ故ナリ

七 養子カ離縁ニ因リ養家ヲ去ルヘキ場合ニ在リテハ其復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地 養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者ハ離縁ノ場合

ニ實家ニ復籍スルカ故ナリ(民法第七三九條)

(注意) (イ) 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ甲家ヨリ乙家ニ入リタル者カ更ニ養子縁組ニ因リテ乙家ヨリ丙家ニ入リタル後丙家ニ於ケル養親トノ間ニ離縁アルモ丙家ヲ去ラス何トアルトキハ甲家ニ復籍セスシテ乙家ニ復籍ス民法第七百三十九條ニ於テ實家ト謂フハ此場合ニ於テハ甲家ヲ指サスシテ乙家ヲ指ス

(ロ) 養子縁組ニ因リテ甲家ヨリ乙家ニ入リタル者カ更ニ養子縁組ニ因リテ丙家ニ入リタル後乙家ニ於ケル養親トノ間ニ離縁アルモ丙家ヲ去ラス何トナレハ丙家ニ入リタル第二ノ縁組ニ因リタルモノナルカ故ニ第一ノ縁組カ解消サルルモ影響ヲ受クベキニアラサレハナリ隨テ此場合ニハ本文ノ限ニ在ラス

右ノ場合ニ於テ先ツ第一ノ縁組ニ付キ離縁アリタル後更ニ第二ノ縁組ニ付キ離縁アルトキハ丙家ヲ去ルモ乙家ニ入ラスシテ直チニ甲家ニ入ル何トナレハ第二ノ縁組ノ離縁ニ因リテ甲家ニ入ルヘカリシ效力ハ第二ノ縁組ノ存續ニ因リテ其發生ヲ妨ケラレタルモ第二ノ縁組モ亦離縁アリタル爲メ此障

礙ハ排除セラレ第二ノ縁組ノ離縁ニ因リ丙家ヨリ乙家ニ入ルベキ效力ト第一ノ縁組ノ離縁ニ因リ乙家ヨリ甲家ニ入ルベキ效力トカ同時ニ發生スルヲ以テナリ故ニ此場合ニハ甲家ノ戸主ノ氏名等ヲ記載スルコトヲ要ス

(ハ) 養子縁組以外ノ方法(例ヘキ民法第七百三十七條ノ場合)ニ因リテ入籍シタル後其入籍シタル家ニ在ル者ノ養子ト爲リタル者ハ離縁ノ場合ニ於テ其家ヲ去ルコトナシ隨テ此場合モ亦本文ノ限ニ在ラス

(ニ) 養子縁組ニ因リテ他家ヨリ入リタル女カ養家ニ在ル男ト婚姻ヲ爲シタル後其婚姻ノ解消前ニ離縁ノミヲ爲ス場合ニ在リテハ夫婦ハ其家ヲ異ニスルコト能ハサル結果民法第七百三十九條ノ適用ヲ妨ケラレテ養家ヲ去ラス隨テ此場合モ亦本文ノ限ニ在ラス

(ホ) 夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他人養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルベキトキ(妻カ養子縁組ニ因リテ他家ヨリ入リタル者ナルトキヲ謂フ)ハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離縁又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要スルハ民法第八百七十六條ノ規定スル所ナリ此場合ニ於テ妻ノ離縁ト同

時ニ夫カ離婚又ハ離縁ヲ爲ス下キハ妻カ離縁ノ届書ニハ本文ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス然レトモ夫カ未タ離婚又ハ離縁ヲ爲ササルトキハ妻カ離縁ニ因リテ實家ニ復籍スベキ效力ハ婚姻ノ存続ノ爲メニ其發生ヲ妨ケラレ妻カ離縁ニ因リテ其家ヲ去ルコトナキカ故ニ本文ノ限ニ在ラス

妻カ離縁ヲ爲シタル後夫カ離婚又ハ離縁ヲ爲シキハ之ヲ同時ニ妻カ實家ニ復籍スルコトヲ要ス然レトモ夫カ未タ離婚又ハ離縁ヲ爲ササルトキハ妻カ離縁ニ因リテ實家ニ復籍スベキ效力ハ婚姻ノ存続ノ爲メニ其發生ヲ妨ケラレ妻カ離縁ニ因リテ其家ヲ去ルコトナキカ故ニ本文ノ限ニ在ラス

妻カ離縁ヲ爲シタル後夫カ離婚又ハ離縁ヲ爲シキハ之ヲ同時ニ妻カ實家ニ復籍スルコトヲ要ス然レトモ夫カ未タ離婚又ハ離縁ヲ爲ササルトキハ妻カ離縁ニ因リテ實家ニ復籍スベキ效力ハ婚姻ノ存続ノ爲メニ其發生ヲ妨ケラレ妻カ離縁ニ因リテ其家ヲ去ルコトナキカ故ニ本文ノ限ニ在ラス

妻カ離縁ヲ爲シタル後夫カ離婚又ハ離縁ヲ爲シキハ之ヲ同時ニ妻カ實家ニ復籍スルコトヲ要ス然レトモ夫カ未タ離婚又ハ離縁ヲ爲ササルトキハ妻カ離縁ニ因リテ實家ニ復籍スベキ效力ハ婚姻ノ存続ノ爲メニ其發生ヲ妨ケラレ妻カ離縁ニ因リテ其家ヲ去ルコトナキカ故ニ本文ノ限ニ在ラス

妻カ離縁ヲ爲シタル後夫カ離婚又ハ離縁ヲ爲シキハ之ヲ同時ニ妻カ實家ニ復籍スルコトヲ要ス然レトモ夫カ未タ離婚又ハ離縁ヲ爲ササルトキハ妻カ離縁ニ因リテ實家ニ復籍スベキ效力ハ婚姻ノ存続ノ爲メニ其發生ヲ妨ケラレ妻カ離縁ニ因リテ其家ヲ去ルコトナキカ故ニ本文ノ限ニ在ラス

妻カ離縁ヲ爲シタル後夫カ離婚又ハ離縁ヲ爲シキハ之ヲ同時ニ妻カ實家ニ復籍スルコトヲ要ス然レトモ夫カ未タ離婚又ハ離縁ヲ爲ササルトキハ妻カ離縁ニ因リテ實家ニ復籍スベキ效力ハ婚姻ノ存続ノ爲メニ其發生ヲ妨ケラレ妻カ離縁ニ因リテ其家ヲ去ルコトナキカ故ニ本文ノ限ニ在ラス

要ス(戸第九九條)

口頭ヲ以テ離縁ノ届出ヲ爲ス場合ニ在リテハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シテ自ラ届出ヲ爲スコトヲ要シ代理人ヲ差出スコトヲ許サス(戸第一〇一條)代理人ヲ許ササル理由ハ前節(九)ニ述ヘタル所ニ同シ

口頭ヲ以テスル届出ニ付キテハ書面ニ依ル届出ノ手續ヲ準用ス(戸第一〇〇條)(九)届出ノ受理 裁判外ノ離縁ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離縁カ其要件ヲ具備スルコト及ヒ戸籍法其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス(民法第八六五條第一項)

離縁カ要件ヲ具備セス又ハ法令ニ違反スル場合ト雖戸籍吏カ其届出ヲ受理シタル離縁ハ其效力ヲ生ス(民法第八六五條第二項)但養親カ死亡シタル場合ヲ除ク外一方ノミヨリ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ戸籍吏カ之ヲ受理スルモ離縁ノ效力ヲ生スルコトナシ

裁判上ノ離縁ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離縁ヲ宣言シタル判決カ確定シタルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戸籍吏カ不當ニ届出ヲ受理セサルトキハ届出人ハ抗告ヲ爲スヲ得ルコトハ前節(七)ニ述ヘタル所ニ同シ

第七節 婚姻ニ關スル届出

(五)總論 本節ニ於テハ婚姻ニ關スル届出即チ戸籍法第四章第七節ノ規定ヲ説明スヘシ

婚姻ニ關スル實體上ノ要件ハ左ノ如シ

第一 法定ノ推定家督相続人ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入ルコトヲ得ス(民法第七四四條第二項)

第二 家族ハ戸主ノ同意アルニアラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七五〇條第一項)

第三 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラントスルトキハ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第七四一條第一項)

第四(婚姻)ニ因リテ他家ニ入ラントスル者ハ戸主ニアラサルコトヲ要ス(民法

第七五四條第一項)

第五 陸海軍人カ婚姻ヲ爲スニハ勅許又ハ本局長官ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(陸海

軍人結婚條例)華族カ婚姻ヲ爲スニハ宮内大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(華族

令)

第六 男ハ滿十七年、女ハ滿十五年ニ至ラザレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第

七六五條)

第七 配偶者カル者ハ重テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七六六條)

第八 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六箇月ヲ經過シタル後ニアラザレハ

再婚ヲ爲スコトヲ得ス(女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懷胎シタル場合ニ

於テハ其分娩ノ後ハ前項ノ期間内ト雖再婚ヲ爲スコトヲ妨ケス(民法第七六

七條)

第九 姦通ニ因リテ離縁又ハ刑ノ宣言ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコ

トヲ得ス(民法第七六八條)

第十 直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

但養子ト養方ト傍系血族トノ間ニ此限ニ在ラス(民法第七六九條)

第十一 直傍姻族ノ間ニ在リテハ姻族關係カ止ミタル後(民法第七二九條)ト雖

婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七七〇條)

第十二 養子其配偶者直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ

於テハ親族關係カ止ミタル後(民法第七三〇條)ト雖婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民

法第七七一條)

第十三 滿三十年ニ達セザル男又ハ滿二十五年ニ達セザル女カ婚姻ヲ爲スニ

其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス父母ノ一方カ知レサルトキ死亡

シタルトキ家ヲ去ル各ルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキ他

方ノ同意ヲ以テ不足ル父母共ニ知ラザルトキ死亡シタルトキ家ヲ去

ルナルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキ未成年者ニ限リ其後

見入及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第七七三條)

第十四 親權父母又ハ嫡母或ハ子カ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ

得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得(民法第七七三條)

第十五 禁治産者カ婚姻ヲ爲スニハ後見人ノ同意ヲ要セス(民法第七七四條)

第十六 婚姻ヲ爲ス意思ハ戸籍吏ニ對スル届出ニ依リテ之ヲ表示スルコトヲ

要ス即チ要式ノ意思表示ナリ其届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上

ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス(民法第七七五

條)

(注意) 外國ニ在ル日本人間ノ婚姻ニ付キテハ民法第七百七十七條ニ特別ノ

規定アリ

戸籍吏カ婚姻ノ届出ヲ受理シタルトキハ其時ヨリ婚姻ノ效力ヲ生ス(民法第七

七五條)

婚姻ノ效力トシテ當事者ハ夫タリ妻タル身分ヲ取得シ妻ハ夫ノ家ニ入ル但入

夫婚姻及ヒ婿養子縁組ノ場合ニ在リテハ妻ハ夫ノ家ニ入ラスシテ夫カ妻ノ家

ニ入ル(民法第七七八條)尙ホ婚姻ノ效力ニ付キテハ民法第七百八十九條乃至第

八百七條等ヲ参照スヘシ

(其)届出ノ手續 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコ

トヲ要ス但入夫婚姻及ヒ婿養子縁組ナルトキハ妻ハ本籍地又ハ所在地ノ戸籍

吏ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一〇四條)

婚姻ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一〇二條)

一 當事者ノ氏名出生ノ年月日及ヒ本籍地

二 當事者ノ父母ノ氏名職業及ヒ本籍地

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地

四 入夫婚姻又ハ婿養子縁組ナルトキハ其旨 通常ノ場合ニハ妻ハ夫ノ家ニ

入ルモ入夫又ハ婿養子ハ妻ノ家ニ入ルヘキカ故ナリ

五 入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ラサルトキハ其旨 民法第七百三

十六條ニハ女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シタルトキハ入夫ハ其家ノ戸主ト爲ル但

當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラストアリ本

條ハ此反對ノ意思表示ノ方式ヲ定メタルモノナリ

六 婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スル庶子アルトキハ其名及ヒ出生ノ

年月日、庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス(民法第八三六條第二項)故ニ婚姻ヲ爲ス當事者ノ間ニ既ニ庶子アルトキハ本條ニ定メタル事項ヲ記載セシムルナリ

七、當事者ハ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前婚家ノ戸主又ハ養親ノ氏名、職業及ビ本籍地、
 婚姻ニ付キ戸主、父母、後見人、親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス(戸第一〇三條)

以上ノ外軍人、華族カ婚姻ヲ爲ス場合ニ在リテハ當該官廳ノ許可書ノ添付ヲ要スルヲ要スルコト等本章第一節通則ニ掲ケタル要件ヲモ具備セサルヘカヲサルコトハ言フヲ缺タス

口頭ヲ以テ婚姻ノ届出ヲ爲スニハ届出人自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコトヲ要シ代理人ヲ差出スコトヲ許サズ(戸第一〇八條)代理人ヲ禁スル理由(前第五節(宛)ニ述ベタル所)同シ

口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ付テハ書面ヲ以テスル届出ノ手續ヲ準用ス(戸第一〇七條)

(七)届出ノ受理 戸籍吏ハ婚姻カ其要件ヲ具備セルコト及ヒ戸籍法其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス但前(五)ノ第二又ハ第三ノ要件ノ長ヲ具備セサル場合ニ於テ戸籍吏カ注意ヲ爲シタルニ拘ラス當事者カ其届出ヲ爲サザルコトキハ此限ニ在ラス(民法第七七六條)

戸籍吏カ不當ニ届出ヲ受理セザル時キハ届出人ハ抗告ヲ爲スコトヲ得(七)婚姻カ無効ナル時キ又ハ取消サレタルトキハ婚姻カ要件ヲ具備セズ及ハ法令ニ違反スル場合ト雖戸籍吏カ届出ヲ受理スルハ婚姻カ效力ヲ生ズ婚姻カ無効ナル時左ノ二場合ニ限ル(民法第七七八條)

一、人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲テ意思ヲキトキ
 二、當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲サザルコトキ
 前第五節(七)ニ説明シタル所ニ同

婚姻カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキト雖當事者自ラ之ヲ取消スコトヲ得ス婚姻ハ民法第七百八十條以下七條ニ掲ケタル場合ニ限リ裁判所ノ判決ヲ以テノミ之ヲ取消スコトヲ得(民法第七七九條)

戸籍吏カ婚姻ノ届出ヲ受理シ其身分登記ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻カ無効ナルトキハ其届出人ノ全員ヨリ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(戸第一〇五條)若シ届出人ノ全員カ登記ノ取消ヲ申請スル事ニ付キ一致セサルトキハ婚姻無効ノ訴ヲ提起シ次ノ手續ヲ爲スノ外ナシ婚姻ノ無効又ハ取消ノ判決カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ判決ノ謄本ヲ提出シ婚姻ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(戸第一〇六條)此期間ヲ徒過シタルトキハ過料ニ處セラル

第八節 離婚ニ關スル届出

(先)總論 本節ニ於テハ離婚ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第四章第八節ノ

規定ヲ説明スヘシ

離婚ニハ裁判上ノ離婚ト裁判外ノ離婚(協議上ノ離婚)トノ二種アリ

裁判外ノ離婚ヲ爲スニ付キテノ要件ハ左ノ如シ

第一 夫婦其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得(民法第八〇八條)

第二 滿二十五年ニ達セサル者カ裁判外ノ離婚ヲ爲スニハ婚姻前ヨリ其家ニ

在リタル者ハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ婚姻ニ因リテ他家ヨ

リ入りタル者ハ其他家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス父母ノ一方又ハ

雙方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示ス

ルコト能ハサルトキ及ヒ繼父母又ハ嫡母カ同意セサルトキニ付キテハ前第六

節(三)ノ第二ニ述ヘタル所ニ同シ(民法第八〇九條)

第三 禁治産者カ離婚ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(民法第

八一〇條ニ依リ第七七四條準用)

第四 離婚ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ヲ以テ又ハ署名シ

タル書面ヲ以テ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス(民法第八一〇條ニ依リ第

七七五條準用)裁判外ノ離婚ハ此届出ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得ル所ノ

要式ノ意思表示ナリ
次ニ裁判上ノ離婚ニ付キテ要件左ノ如シ
第三 離婚ノ訴ハ民法第八百十三條以下ニ掲グル事由アリ場合ニ限リ之ヲ提
起スルコトヲ得

第二 離婚ノ訴ハ夫婦ノ一方ニ限リ之ヲ提起スルヲ得(民法第八一三條)
離婚ノ訴ノ手續ニ付キテ人事訴訟手續法第一章ノ規定ヲ參照スヘシ裁判所
カ離婚ノ請求ヲ正當ト認ムルコトキハ判決ヲ以テ離婚ヲ宣言スルコトヲ得
裁判外ノ離婚ハ戸籍吏カ届出ヲ受理スルニ因リテ效力ヲ生シ(民法第八二〇條
ニ依リ第七七五條準用)裁判上ノ離婚ハ判決ノ確定ニ因リテ效力ヲ生ス
(注意) 離婚ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其效力ヲ生ス(人事訴訟法手續法第
一八條)
(六) 届出ノ手續 裁判外ノ離婚ハ當事者雙方ヨリ成年ノ證人二人以上ト共ニ
届出ツルコトヲ要シ(民法第八一〇條)裁判上ノ離婚ハ其訴ヲ提起シタル者ヨリ
届出ツルコトヲ要ス(戸籍法第一一一條)離婚ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付キテ

別段ノ規定ナキカ故ニ通則ノ規定ニ從フコトヲ要ス(四)參照
裁判外ノ離婚ノ届出ハ離婚ノ效力ヲ生セシムル爲メニ之ヲ爲スニ反シ裁判上
ノ離婚ノ届出ハ判決ノ確定ニ因リ既ニ效力ヲ生シタル事項ノ届出ナリ裁判上
ノ離婚ノ届出ハ判決確定ノ日ヨリ十日内ニ戸籍法上ノ義務トシテ之ヲ届出ツ
ルコトヲ要シ(戸籍法第一一一條)此期間ヲ怠ルトキハ過料ニ處セラル
裁判上ノ離婚及ヒ裁判外ノ離婚ハ書面届書又ハ口頭ヲ以テ之ヲ届出ツルコト
ヲ得
離婚ノ届書ニハ式ニ據ル諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(第一〇九條)
一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
二 當事者ノ父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
四 婚姻ノ年月日
五 離婚カ協議又ハ裁判ニ因ル
六 當事者カ離婚ニ因リ其家ヲ去ルニ當テキハ其復籍スル家ノ戸主ノ氏名

職業及ヒ本籍地 婚姻ニ因リテ他家ヨリ入リタル者ハ離婚ノ場合ニ實家ニ復籍スルカ故ナリ尙ホ前第六節(三)ノ七ノ(注意)ヲ參照スヘシ

七 當事者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由 民法第七百四十條ヲ參照スヘシ

裁判外ノ離婚ノ場合ニ於テ父母後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スルトキ(克)ノ第二參照ハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ署名捺印セシムルヲ要ス(戸第一一〇條)

裁判上ノ離婚ノ届書ニハ離婚ヲ宣言シタル判決ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス(戸第一一一條)

以上ノ外届書ニ届出人ノ署名捺印ヲ要スルコト(成年ノ二人以上ノ證人ハ證人タルコトヲモ記載スルヲ要ス)等ニ付キテハ本章第一節通則ニ從フコトヲ要ス口頭ヲ以テ離婚ノ届出ヲ爲スニハ届出人自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコトヲ要シ代理人ヲ差出スヲ許サス(第一一三條)

口頭ヲ以テスル届出ノ手續ニ付キテハ書面ヲ以テスル届出ノ手續ヲ準用スヘキモノトス(戸第一一二條)

(六)届出ノ受理 裁判外ノ離婚ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離婚カ前(克)ニ掲ケタル要件ヲ具備スルコト及ヒ戸籍法其他法令ニ違反セザルコトヲ認めタル後ニテ之ヲ受理スルコトヲ得ス(民法第八一一條第一項然レトモ離婚カ要件ヲ具備セス又ハ法令ニ違反シタル場合ト雖戸籍吏カ其届出ヲ受理シタルトキハ離婚ノ效力ヲ生ス(民法第八一一條第二項)

裁判上ノ離婚ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離婚ヲ宣言シタル判決カ確定シタルコトヲ認めタル後ニテ之ヲ受理スルコトヲ得ス(民法第八一一條第二項)

戸籍吏カ不當ニ届出ヲ受理セザルトキハ届出人ハ其戸籍役場ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得(戸籍法第三〇三條)

第九節 後見ニ關スル届出

(三)總論 本節ニ於テハ後見ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第四章第九節ノ規定ヲ説明ス

後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス(民法第九〇〇條)

第一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者法待トキ時(甲)未成年者ノ家ニ其父母ナ

キトキ(乙)親權ヲ行フ父又ハ母アリタルモ親權喪失ノ宣告(民法第八九六條)ヲ受ケタル爲メ親權ヲ行フ者ナキニ至リタルトキヲ謂フ

第二 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ガ管理權ヲ有セザルトキ (甲)親權ヲ行

ハ父又ハ母カ管理權喪失ヲ宣告ヲ受ケタル爲メ管理權ヲ行フ者ガキニ至リタルトキ(民法第八九七條)(乙)親權ヲ行フ母カ管理權ヲ辭シタルトキ(民法第八

九九條)ヲ謂フ

第三 禁治產ヲ宣告アリタルモ心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ對シ禁治產ノ

後見ヲ開始シタルトキ(民法第七條)ヲ謂フ

第四 禁治產者ノ爲メ一人又後見人アリ

トキ必要トス(民法第九〇六條)後見人ノ權利及ヒ權限ニ付キテハ民法第一編

第一章第三節及ヒ同法第四編第六章第三節等ヲ參照ス

後見人ト爲ルコトヲ後見人ノ就職ト謂フ後見人ノ就職ニ四種アリ

第一 法律ニ規定ニ因ル就職(民法第九百二條又ハ第九百三條ノ規定ニ因リ

當然後見人ト爲ルヲ謂フ)

第二 未成年者ニ對シ最後ニ親權ヲ行フ者ノ指定ニ因ル就職(未成年者ニ對シ最後ニ親權ヲ行フ者ハ民法第九百二條ニ從ヒ遺言ヲ以テ其未成年者ノ後

見人ヲ指定スルコトヲ得此場合ニ於テ遺言者カ死亡スルトキハ指定セラレ

タル者ハ遺言者カ死亡シ時ヨリ後見人ト爲ル)

第三 親族會ヲ選任ニ因ル就職(前第一又ハ第二ニ因ル法定又ハ指定ノ後見人ナキ時ハ後見人ト爲ル)

第四 裁判所選任ニ因ル就職(親族會カ後見人ヲ選任スヘキ場合ニ於テ選

任ノ決議ヲ爲シ不能ハザルトキハ未成年者又ハ禁治產者ノ住所地ノ區裁

判所不親族會員ノ申請ニ因ル後見人ヲ選任(民法第九五二條)非訟事件手續

法第九六條)

之ヲ要スルニ後見人ハ法律ノ指定遺言者ノ死亡又ハ親族會若クハ裁判所ノ選

任ニ因リ就職スルモ、ニシテ後見人ト爲ルベキ者カ就職ヲ承諾スルコトニ因リ後見人ト爲ルニアラス

後見終了前ニ後見人カ死亡シ又ハ辭任其他ノ事由ニ因リ其資格ヲ喪失シ(民法

第九〇七條、第九〇八條)タルトキハ更ニ後見人ヲ設クル事トシテ要ス

未成年者ニ後見人ト爲ルノ事由ニ因リテ終了スル後見人ノ後見人ト爲ル事

第一四 未成年者カ成年ニ達シタルトキ

第二 未成年者カ死亡シタルトキ

第三 親權ヲ行フ父又ハ母アルニ至ルタルトキニ親權喪失ノ宣告ヲ受ケタル

父又ハ母ニ對シ其宣告ノ取消アルトキ(民法第八九八條)若クハ他家ニ在

リタル父又ハ母カ未成年者ノ家ニ入りタルトキニ如キ是ナリ

第四 管理權喪失ノ宣告ヲ受ケタル親權者ニ對シ其宣告ノ取消アルタルトキ

第五 民法第八百九十八條ヲ參照スルニ依リ、親權者ニ對シ其宣告ノ取消アルトキ

禁治産者ニ後見人ト爲ルノ事由ニ因リテ終了ス

第一 禁治産者カ死亡シタルトキ

第二 禁治産ノ宣告ヲ取消サレタルトキ(民法第百〇條)

後見人カ終了タル後見人ハ當然其資格ヲ失フ

後見ニ關スル届出ニ三アリ後見開始ノ届出、後見人更迭ノ届出、及ヒ後見人ノ任

務終了ノ届出是ナリ以上三種ノ届出ハ何レモ既ニ發生シタル事實ヲ公示スル

爲メノ身分登記ヲ爲ス爲メ戸籍法上ノ義務トシテ爲サシムル届出ナリ

(三) 後見開始ノ届出

後見開始後見人カ就職シタルトキハ其後見人カ就職ノ日ヨリ十日内ニ後見

開始ノ届出ヲ爲ス事トシテ要ス(第一一四條)

後見開始ノ届出ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

一 後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ住所

二 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地、被後見人トハ後見ニ付セ

ラレタル未成年者又ハ禁治産者ヲ謂フ

三 被後見人カ家族タルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

四 後見人開始ノ原因及ヒ年月日、後見開始ノ原因カ禁治産ノ宣告ナルトキ